

鳥栖市文化財調査報告書第74集

天神木遺跡 藪原遺跡

市道田代駅古賀線工事関係埋蔵文化財調査報告書

2005

鳥栖市教育委員会

天神木遺跡

藪原遺跡

鳥栖市文化財調査報告書第74集

二〇〇五

鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第74集

市道田代駅古賀線工事関係埋蔵文化財調査報告書

TEN ZIN KI

天神木遺跡 1 区

YABU HARA

藪原遺跡 2・3・4 区



2005

鳥栖市教育委員会

序

本書は、市道田代駅古賀線改築工事に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した、鳥栖市鎗田町・田代外町に所在する天神木・藪原遺跡の調査報告書です。

調査の結果、弥生時代・古墳時代にかけての集落跡が確認され、貴重な資料を多く得ることが出来ました。

本報告書を通して地域の文化財に対して一層のご理解をいただき、また学術文化の向上に幾分か寄与するものであれば幸いに思います。

最後になりましたが、開発と文化財保護との調整にご理解とご協力をいただきました、鳥栖市建設部都市計画課ならびに地元の皆様、また発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成17年 3月31日

鳥栖市教育委員会
教育長 中尾 勇二

例 言

1. 本書は、市道田代駅古賀線改築工事に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した、鳥栖市鎗田町・田代外町に所在する天神木・藪原遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は天神木遺跡が平成15年5月13日から7月11日、藪原遺跡3・4区は平成16年1月20日から2月14日、整理報告は平成16年4月12日から平成17年3月31日まで、鳥栖市建設部都市計画課の委託を受けて鳥栖市教育委員会が実施した。なお平成6年度に実施した市道今泉田代線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（藪原遺跡2区）についても今回報告する。
3. 発掘調査にあたっては、都市計画課ならびに佐賀県教育委員会の協力を得た。
4. 出土遺物の整理を含む報告書作成作業は鳥栖市藤木町文化財整理室で行った。
 - ・表土除去 (株)龍工業
 - ・基準点測量 (株)埋蔵文化財サポートシステム
 - ・発掘作業 大野勝子・久保山隆弘・末安志津子・高田伊莫・中島トミ子・中山エミ子・仁田利宣・原野美津子・松隈マチ子・山下重信・吉戸菊子・横尾朝子・龍頭啓一
 - ・遺構実測 榎藤イツヨ・榎藤トミ子・杉岡俊昭・中島貞子・平田博子・松崎友子・毛利美代子・山本美代子・島孝寿
 - ・遺構写真 (有)空中写真企画・石橋新次・島孝寿
 - ・遺物復元 平田博子・毛利美代子・山本美代子
 - ・遺物実測 榎藤イツヨ・榎藤トミ子・榎藤由美子・中島貞子・松崎友子・毛利美代子・毛利よし子・山本美代子・島孝寿
 - ・製 図 榎藤由美子・松崎友子・毛利よし子
 - ・遺物写真 島孝寿
5. 本書の執筆・編集は島が担当した。

凡 例

1. 遺跡の略号は天神木遺跡（TTZ）、藪原遺跡（SYH）である。
2. 遺構図に用いた方位は、天神木・藪原3・4区は座標北、藪原2区については磁北である。なお日本座標を使用している。
3. 測定値の表示に用いた単位は遺構m、遺物cmを原則としている。
4. 表で示した計測値は、()は復原値・推定値、
は残存値を表記するものとする。

本文目次

第1章 調査の概要	1
. 調査に至る経過	1
. 調査の組織	1
第2章 地理的・歴史的環境	2
. 地理的環境	2
. 歴史的環境	2
第3章 天神木遺跡の調査	6
第4章 藪原遺跡の調査	21
第5章 まとめ	62

挿図目次

図1 鳥栖市周辺地形図(1/200,000)	3	<u>藪原遺跡 2 区</u>	
図2 遺跡分布図(1/15,000)	5	図25 遺構配置図(1/200)	22
図3 遺跡位置図(1/5,000)	6	図26 SH201住居及び出土遺物(1/60・1/4)	23
<u>天神木遺跡 1 区(A・B区)</u>		図27 SH203住居及び出土遺物(1/60・1/4)	24
図4 遺構配置図(1/200)	7	図28 SH204住居(1/60)	24
図5 SK101・SK102・SK103土坑(1/30)	8	図29 SH204住居出土遺物(1/4・1/2)	25
図6 SH105住居及び出土遺物(1/60・1/3)	9	図30 SH205住居及び出土遺物(1/60・1/4)	26
図7 SH106住居及び出土遺物(1/60・1/3)	9	図31 SH207住居(1/60)	26
図8 SH107住居及び出土遺物(1/60・1/3)	10	図32 SH202住居及び出土遺物(1/60・1/3)	27
図9 SH108住居及び出土遺物(1/60・1/3)	10	図33 SH206住居及び出土遺物(1/60・1/3)	28
図10 SH110住居及び出土遺物(1/60・1/3)	11	図34 SH208住居及び出土遺物 1 (1/60・1/3) ...	28
図11 SH117住居及び出土遺物(1/60・1/3)	12	図35 SH208住居出土遺物 2 (1/4)	29
図12 SH119住居及び出土遺物(1/60・1/3)	13	図36 SK201土坑及び出土遺物(1/30・1/3)	30
図13 SK104土坑及び出土遺物(1/30・1/3)	14	図37 SK202土坑出土遺物(1/3・1/6)	31
図14 SK109土坑及び出土遺物(1/30・1/3)	14	図38 SD201溝及び出土遺物 1 (1/60・1/3)	32
図15 SK111土坑(1/30)	15	図39 SD201溝出土遺物 2 (1/4・1/2)	33
図16 SK112土坑(1/30)	15	図40 SD201溝出土遺物 3 (1/4・1/8)	34
図17 SK113土坑(1/30)	15	図41 藪原遺跡 2 区出土遺物(1/3)	35
図18 SK111土坑出土遺物(1/3)	15	<u>藪原遺跡 3 区</u>	
図19 SK113土坑出土遺物(1/3)	15	図42 遺構配置図(1/200)	39
図20 SK114・SK115土坑(1/30)	16	図43 SD301溝土層図(1/60)	39
図21 SK120土坑及び出土遺物(1/30・1/3)	16	図44 SB301掘立柱建物(1/60)	40
図22 SK121土坑及び出土遺物(1/30・1/3)	17	図45 SH301・SH303住居(1/60)	40
図23 SK122土坑(1/30)	17	図46 SH302住居(1/60)	40
図24 天神木遺跡 1 区出土遺物(1/3)	18	図47 SH301住居出土遺物(1/3・1/2)	41

図48 SH302住居出土遺物(1/3・1/2)	41	図56 SD301溝下層出土遺物 1 (1/4)	49
図49 SD301溝上層出土遺物 1 (1/3)	42	図57 SD301溝下層出土遺物 2 (1/4)	50
図50 SD301溝上層出土遺物 2 (1/3・1/2)	43	図58 3区包含層出土遺物(1/3)	50
図51 SD301溝上層出土遺物 3 (1/4)	44	図59 3区包含層出土遺物(1/3・1/2)	51
図52 SD301溝上層出土遺物 4 (1/4)	45	<u>藪原遺跡 4区</u>	
図53 SD301溝上層出土遺物 5 (1/4)	46	図60 遺構配置図及び出土遺物(1/200・1/3)	59
図54 SD301溝中層出土遺物 1 (1/4)	47	図61 SB401・SB402掘立柱建物(1/60)	60
図55 SD301溝中層出土遺物 2 (1/4・1/2)	48		

表 目 次

表 1 天神木遺跡遺物一覧表	19	表 3 藪原遺跡 3区遺物一覧表	52
表 2 藪原遺跡 2区遺物一覧表	36	表 4 藪原遺跡 4区遺物一覧表	61

写真図版目次

写真図版 1	1 . 天神木遺跡 1区全景(西から) 2 . 天神木遺跡 1区全景(西から) 3 . 1 - A区全景(西から) 4 . 1 - B区全景(南から)
写真図版 2	1 . 1 - B区(西から) 2 . 1 - B区(北から) 3 . SH106・108・109住居(南から) 4 . SH110・117住居(東から) 5 . SH119住居(東から) 6 . SK120土坑(南から) 7 . SH106住居出土土器 8 . SK120土坑出土土器
写真図版 3	1 . 藪原遺跡 2区南部分(北から) 2 . 藪原遺跡 2区北部分(南から) 3 . SH201住居(南から) 4 . SH202住居(東から) 5 . SH203住居(東から) 6 . SH206住居(西から) 7 . SH207・208住居(南から)
写真図版 4	1 . SH201住居出土土器 2 . SH201住居出土土器 3 . SH201住居出土土器 4 . SH204住居出土鉄器 5 . SH202住居出土土器 6 . SK201土坑出土土器 7 . SK201土坑出土土器 8 . 小穴出土土器
写真図版 5	1 . 藪原遺跡 3区全景(南から) 2 . SD301溝(西から) 3 . SD301溝(北から) 4 . SD301溝(南から) 5 . SD301溝土層(北から) 6 . SH301住居(南から) 7 . SB301掘立柱建物(西から)
写真図版 6	1 . SH301住居出土土器 2 . SD301溝出土土器 3 . SD301溝出土土器 4 . SD301溝出土土器 5 . SD301溝出土土器 6 . SD301溝出土土器 7 . SH301住居・SD301溝出土石器 8 . ミニチュア土器
写真図版 7	1 . 藪原遺跡 4区全景(東から) 2 . 藪原遺跡 4区全景(西から) 3 . SB401掘立柱建物(南から) 4 . SB402掘立柱建物(南から) 5 . 藪原遺跡 1区全景(西から) 6 . 1区出土土器 7 . 1区出土ミニチュア土器

第1章 調査の概要

I. 調査に至る経過

平成14年9月17日付けで、鳥栖市建設部都市計画課より鳥栖市鎗田町字大木3,255㎡について、市道改築工事に伴う埋蔵文化財確認調査の照会及び依頼が鳥栖市教育委員会に提出された。対象地区は周知の埋蔵文化財包蔵地（天神木遺跡）内であることから、生涯学習課では9月26日から27日に確認調査を実施した。その結果、対象地内600㎡から古墳時代の集落跡を確認した。協議をした結果、平成15年度前半期に発掘調査を行い記録保存することで合意し、平成15年5月20日から7月12日にかけて本調査を実施した。

平成15年7月10日付けで、市道田代駅古賀線改築工事の他地区について都市計画課より埋蔵文化財確認調査の照会及び依頼が鳥栖市教育委員会に提出された。対象地区は周知の埋蔵文化財包蔵地（藪原遺跡・浅井遺跡）内であり、昭和62年度、平成6年度本調査が実施されている地点に隣接していることから、平成15年7月29・30日及び10月12日に確認調査を実施した。浅井遺跡については遺構・遺物ともに確認されなかったが、藪原遺跡は650㎡から弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が検出された。都市計画課と協議した結果、平成15年度内に本調査を実施し記録保存を計ることで合意した。調査は平成16年1月18日から2月20日にかけて実施した。なお出土遺物・調査記録類の整理ならびに調査報告書作成業務は、平成16年度事業として平成16年4月20日～平成17年3月31日の期間、鳥栖市藤木町文化財整理室において実施した。

なお、過去実施した市道今泉田代線の文化財調査（藪原遺跡2区：平成6年度）の整理報告についても今回報告するものとする。

II. 調査の組織

鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は以下のとおりである。

調 査 主 体	鳥栖市教育委員会
教 育 長	中尾勇二
教 育 部 長	近藤繁美
生涯学習課長	西川和彦（平成15年度）
	西山八郎（平成16年度）
生涯学習課参事	高尾泰明（平成15年度）
	権藤民二（平成16年度）
生涯学習課長補佐	藤瀬禎博（市誌編纂係長兼務）
生涯学習推進係事務史員	田中啓子（庶務担当）
文化財係長	石橋新次（藪原遺跡2区本調査担当）
文化財係主査	鹿田昌宏・湯浅満暢・久山高史
文化財係事務史員	内野武史
文化財係事務史員	島 孝寿（天神木遺跡1区、藪原遺跡3・4区本調査・報告書作成担当）
調 査 協 力	鳥栖市建設部都市計画課・佐賀県教育委員会

第2章 地理的・歴史的環境

I. 地理的環境

佐賀県東部に位置する鳥栖市は、福岡県久留米市・小郡市・筑紫郡那珂川町と県境を接し、南には筑後川が流れ、北は背振山地の東端に有し、東西に筑後平野・佐賀平野を持つ地域である。現在では九州縦貫道と九州横断道、JR鹿児島本線と長崎本線及び久大本線、国道3号線・34号線等、また古代には大宰府・筑後国府・肥前国府を結ぶ官道（城の山道・筑後路・肥前路）、近世には長崎街道が通過する場所であり、長い間九州の大動脈を結ぶ交通の要衝の地である。

地勢は北から北西にかけて九千部山（847.5m）を主峰として東に杓子ヶ峰（312.1m）、西に石谷山（754.4m）が連なり、それぞれ南東ないしは南方向に丘陵地に伸び、平坦部になって筑後川に至る。山々は幾重にも重なり合い、各支嶺間は断層によって生じた裂け目（構造谷）を流下する河川が山地を侵食して、山麓に扇状の堆積地を形成している。

地形は杓子ヶ峰に連なる柚比・今町の高位段丘と九千部山の南から城山（501.3m）・群石山（201.1m）に至る支嶺の間の断層線に沿って大木川が流れ、山麓には神辺扇状地を形成する。大木川左岸は柚比丘陵群から曾根崎方面へ連続する標高15～80mの低～高位洪積段丘（藪原遺跡を含む）となり、右岸は現市街地を載せて広がる標高15～25mの独立低位段丘（天神木遺跡を含む）となる。一方、九千部山の南西側より起った支嶺は、石谷山・雲野尾峠・笛吹山の丘陵地へと低下し、支嶺の間には安良川が流れ、山麓には養父扇状地を形成する。石谷山を水源とする沼川の間は、標高15～80mの低～高位の洪積段丘となり、朝日山（133m）によって北の麓地区・南の旭地区に二分される。河川はいずれも南流し、筑後川へ注ぐが、下流域は標高10m以下の沖積低地の広大な平坦部となっている。

II. 歴史的環境

市内には現在約180遺跡が所在しているが、旧石器時代～近世に至る様々な遺構・遺物が出土している。

旧石器時代では、長ノ原遺跡・本川原遺跡・平原遺跡・牛原原田遺跡等で、ナイフ形石器や細石器類がみられるが、明確な遺構からの出土ではなく、詳細については不明である。

縄文時代になると、今町共同山遺跡から草創期～早期にかけての刺突文土器、早期では西田遺跡から多量の押型文土器に伴い、多数の集石遺構が検出している。前期では牛原原田遺跡から曾畑式土器、中期では平原遺跡から集石遺構とともに並木式土器が出土している。後期に入ると蔵上遺跡から土器棺墓・住居を検出している。晩期に入ると村田三本松遺跡では甕棺墓地群が形成されている。

遺跡数が急増するのは弥生時代前期末以降である。北部地区丘陵群（通称：柚比遺跡群）を中心に八ツ並金丸遺跡・今町岸田遺跡、中期には平原遺跡・安永田遺跡、前田遺跡等の集落が確認されている。中期後半～末にかけて、安永田遺跡から青銅器鑄造関連の遺構、銅鐸・銅矛の鑄型が出土している。また南西部丘陵群に位置する本行遺跡からも青銅利器、鑄型類が出土しており、安永田遺跡に匹敵する青銅器生産の拠点的な集落の存在が明らかになっている。墓域は、全市内に分布するが、多くは北部地区に集中しており、柚比梅坂遺跡・柚比本村遺跡・フケ遺跡・安永田遺跡等を挙げることができる。特に柚比本村遺跡からは赤漆玉鍔装鞘銅剣を含む7本の銅剣が甕棺墓及び木棺墓より出土し、また祖霊祭祀に使用されたとされる弥生時

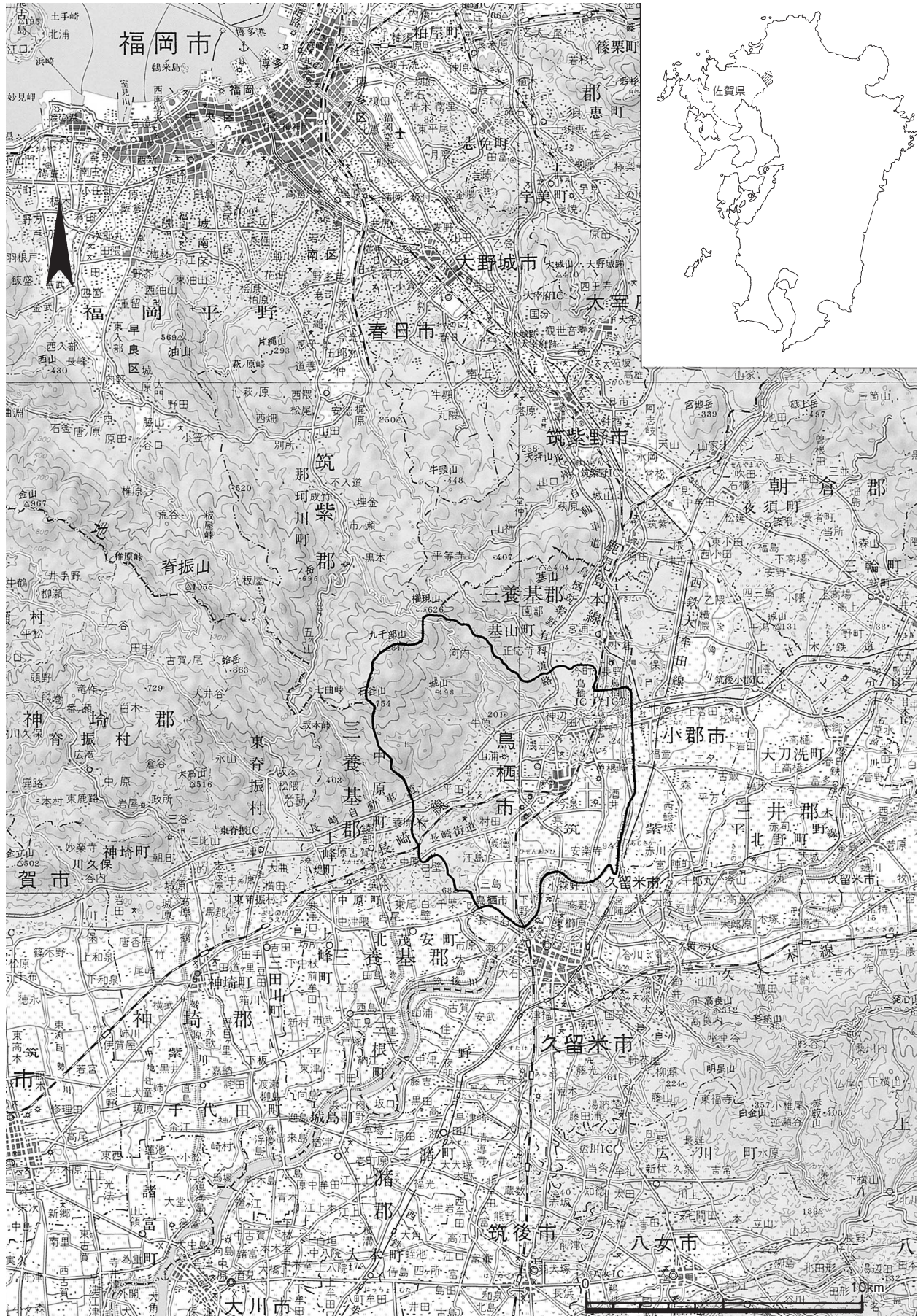


図1 鳥栖市周辺地形図 (1/200,000)

代最大級の大型建物、多数の丹塗磨研土器を含む祭祀土坑を検出している。

後期に入ると丘陵部から現在の鳥栖市街地及び、中低位段丘上に集落が移動する。本原遺跡・牛原原田遺跡・内精遺跡がこれにあたる。内精遺跡からは住居が200軒以上検出され、後期前半から古墳時代初頭まで継続して集落が営まれていた模様である。また藤木遺跡からは環濠の一部を確認している。

古墳時代前期には赤坂前方後方墳、日岸田遺跡・今泉遺跡等から方形周溝墓が出土しているが、この後明確な遺構の確認されていない。5世紀になると平原古墳・山浦古墳群・薄尾古墳群・田代東方古墳等の墳墓をみることはできるが、集落関連遺構については牛原前田遺跡など現在のところわずかにすぎない。しかし、6世紀代に入ると状況は一変し、前半には剣塚前方後円墳・東田前方後円墳、後期には岡寺前方後円墳・庚申堂塚前方後円墳・牛原原田5号墳の5基の前方後円墳、田代太田古墳・ヒャーガンサン古墳の2つの彩色系装飾古墳が築造される。中型古墳としては神山古墳・塩塚古墳・稲塚古墳等がみられ、またこの時期には背振山系の山麓部を中心に東十郎・杓子ヶ峰・深底・都谷・永田古墳群等の群集墳が数多く築かれる。現在把握している古墳数は600基を超える様相である。集落は元古賀遺跡・蔵上遺跡・内精遺跡・梅坂炭化米遺跡等が確認できる。

飛鳥～平安時代にかけては肥前国東端で筑前・筑後国と接する三国国境にあたり、大木川を境に北東部は基肄郡、南東部は養父郡に属する。「肥前風土記」によると、基肄郡は「郷陸（六）所、里十七」とあり、養父郡は「郷肆（四）所、里十二」とある。基肄郡家の位置は現在のところ不明であるが、八ツ並金丸遺跡では大型掘立柱建物から8世紀後半代の瓦が出土している。また、大久保遺跡からも同時期と推定される建物が多数確認されており、関連が注目される。養父郡家については、蔵上町の老松神社西周辺を推定地として考えていたが、これを裏付けるように蔵上遺跡から掘立柱建物を多数検出し、「厨番」と記した墨書土器が出土している。古代の集落は基肄郡域では八ツ並金丸遺跡・今町岸田遺跡・本川原遺跡・本原遺跡、養父郡域では牛原前田遺跡・立石惣楽遺跡・柳の元遺跡・蔵上遺跡などで確認されている。なお風土記の養父郡「烽壱所」は、朝日山に比定されている。

律令体制が衰退する平安時代後期以降、鳥栖地域においても荘園が形成されるようになり、13世紀末には基肄・養父両郡のほぼ半数の耕地を荘園が占めるに至る。この大部分は大宰府天満宮安楽寺領で、あとは宇佐八幡宮弥勒寺領だが実質的には土々呂木・曾禰崎氏等の御家人地頭によって荘園が支配されていた。今泉遺跡では濠を巡らした館跡と見られる13世紀前半頃の遺構が確認されている。

南北朝時代から戦国時代にかけての戦乱期、この地域は支配者の交代が頻繁にみられるが、この時期、山浦町や牛原町周辺には山城が築かれるようになる。この一帯は明応6年（1497）に筑紫氏が鳥栖地域を押さえて以降、天正14年（1586）に島津氏に攻略されるまでの約90年間、勝尾城を本城に、多くの支城群が構成され、山麓には武家屋敷や町屋など城下町も形成されている。

近世以降、基肄郡と養父郡の東半分は対馬藩領に、養父西半分は佐賀藩領となる。また長崎街道が整備されるとともに両藩領域にはそれぞれ田代宿、轟木宿が設けられた。田代宿には対馬藩肥前田代領（1万6千余石）の統治機関として代官所が設置され、轟木宿では佐賀藩の番所が設置されていた。

明治時代になると蔵原県・伊万里県・三潁県・長崎県を経て明治16年に佐賀県となった。昭和29年には、鳥栖町・田代町・基里村・麓村・旭村の5町村が合併し、鳥栖市として今日に至っている。



図2 遺跡分布図 (1/15,000)

- | | | | | | | |
|-----------|------------|--------------|-------------|----------|----------|----------|
| 1 天神木遺跡 | 2 藪原遺跡 | 3 鎗田遺跡 | 4 中川原遺跡 | 5 田代外町遺跡 | 6 清水ヶ本遺跡 | 7 代官所跡 |
| 8 田代大官町遺跡 | 9 上天遺跡 | 10 四ツ木遺跡 | 11 京町遺跡 | 12 町上遺跡 | 13 西浦遺跡 | 14 小原遺跡 |
| 15 原口遺跡 | 16 門戸口遺跡 | 17 布津原遺跡 | 18 平町遺跡 | 19 古賀遺跡 | 20 稲塚古墳 | 21 花ノ木遺跡 |
| 22 元古賀遺跡 | 23 柳遺跡 | 24 浅井遺跡 | 25 古賀天満宮遺跡 | 26 隈遺跡 | 27 池田遺跡 | 28 国泰寺遺跡 |
| 29 菅方浦田遺跡 | 30 門前古墳群 | 31 松本遺跡 | 32 日岸田遺跡 | 33 竹原遺跡 | 34 加藤田遺跡 | 35 中島遺跡 |
| 36 畑ヶ田遺跡 | 37 岡寺前方後円墳 | 38 田代太田古墳 | 39 庚申塚前方後円墳 | 40 荻野遺跡 | 41 七浦遺跡 | 42 東田遺跡 |
| 43 東田古墳 | 44 フヶ遺跡 | 45 田代天満宮東方遺跡 | 46 本川原遺跡 | | | |

第3章 天神木遺跡の調査

天神木遺跡1区

鳥栖市鎗田町字大木に所在し、大木川右岸流域に位置する。30m東には大木川が流れる。本遺跡西地区では平成3年、商業店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査が行われ（鎗田遺跡1区）、古墳～中世にかけての溝・掘立柱建物が確認されている。今回の調査は、標高約29mの地点で市道田代駅古賀線改築工事に伴う約600㎡について平成15年5月20日から7月12日にかけて実施した。調査前の現状は宅地である。調査の結果、古墳時代後期の集落を確認した。住居7軒、土坑10基を検出したが、遺物は土師器・須恵器の小破片のみの出土である。7世紀初頭の集落と推測される。

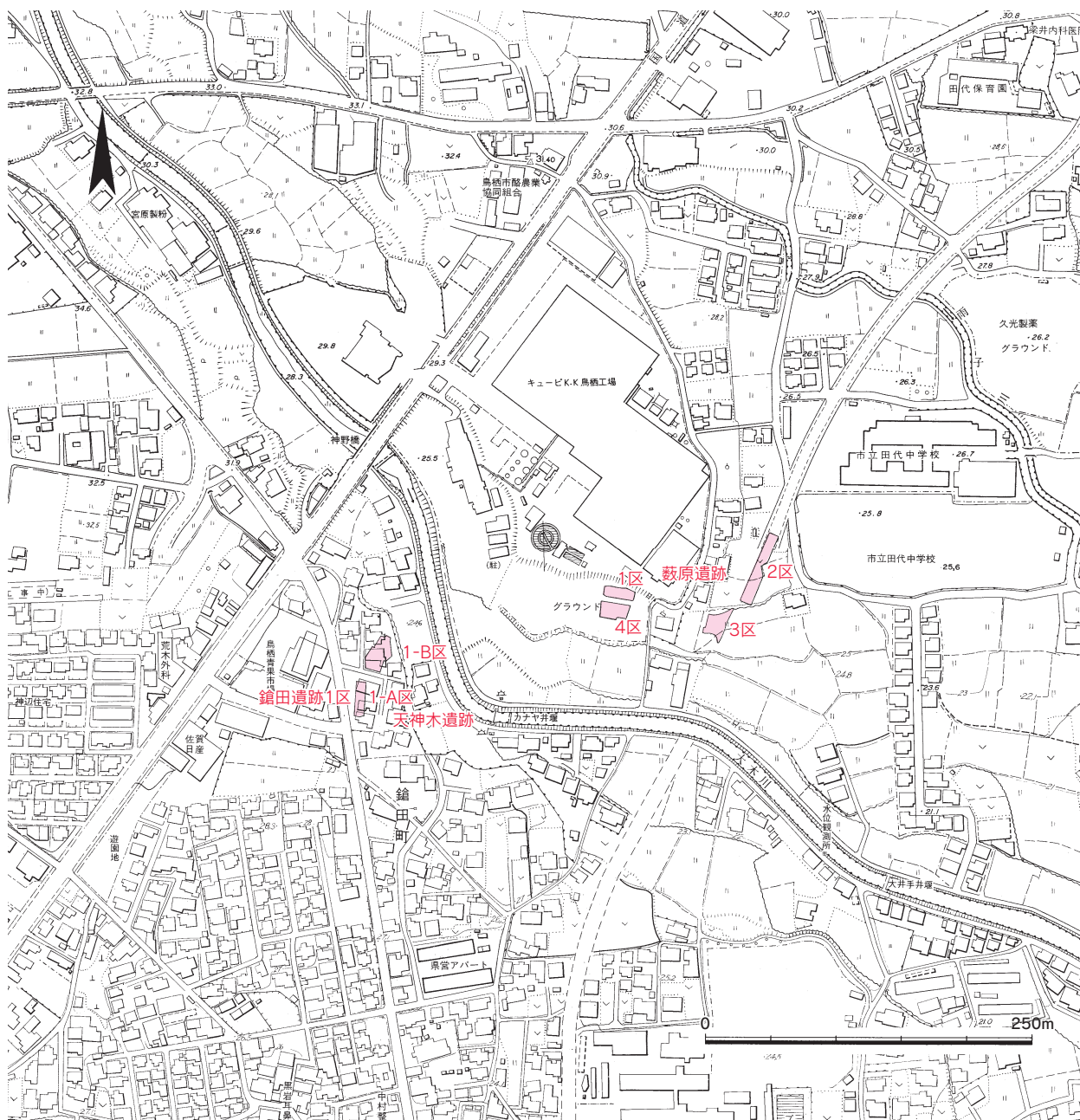


図3 遺跡位置図 (1/5,000)



天神木遺跡 1区

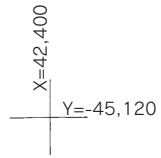
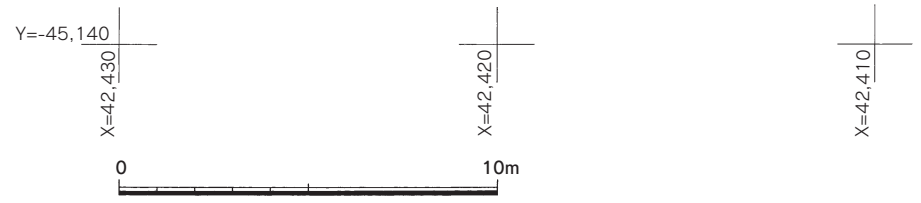
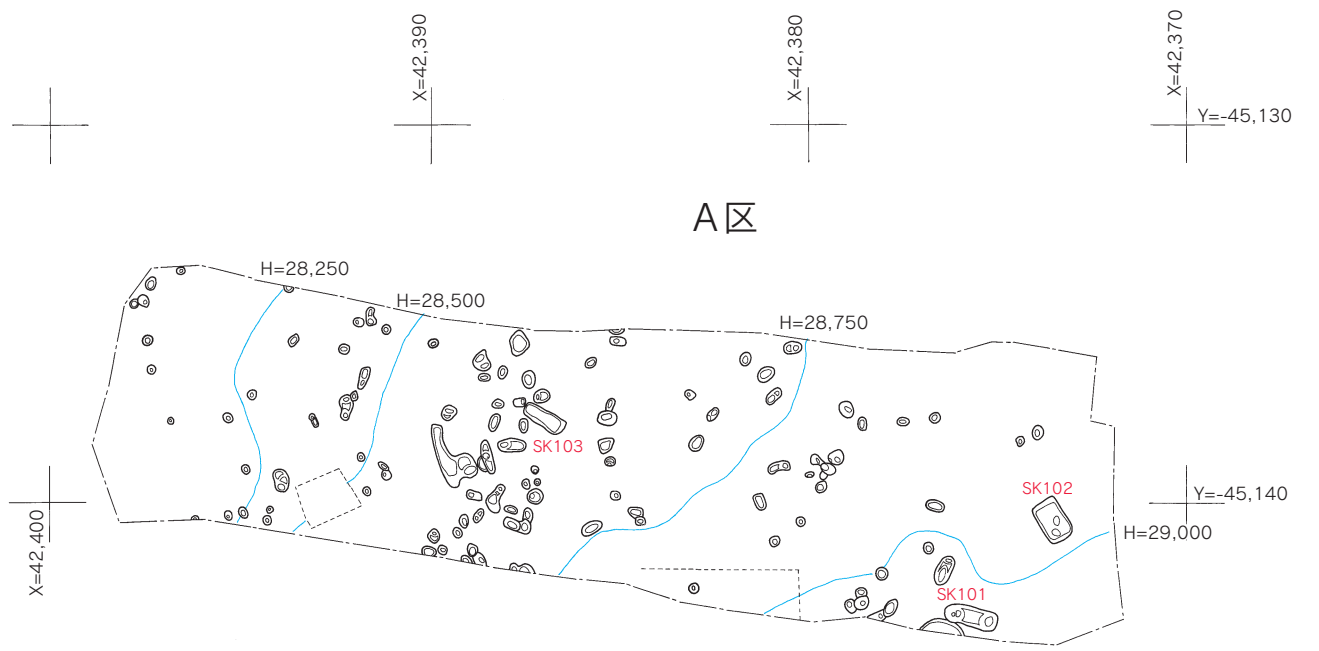
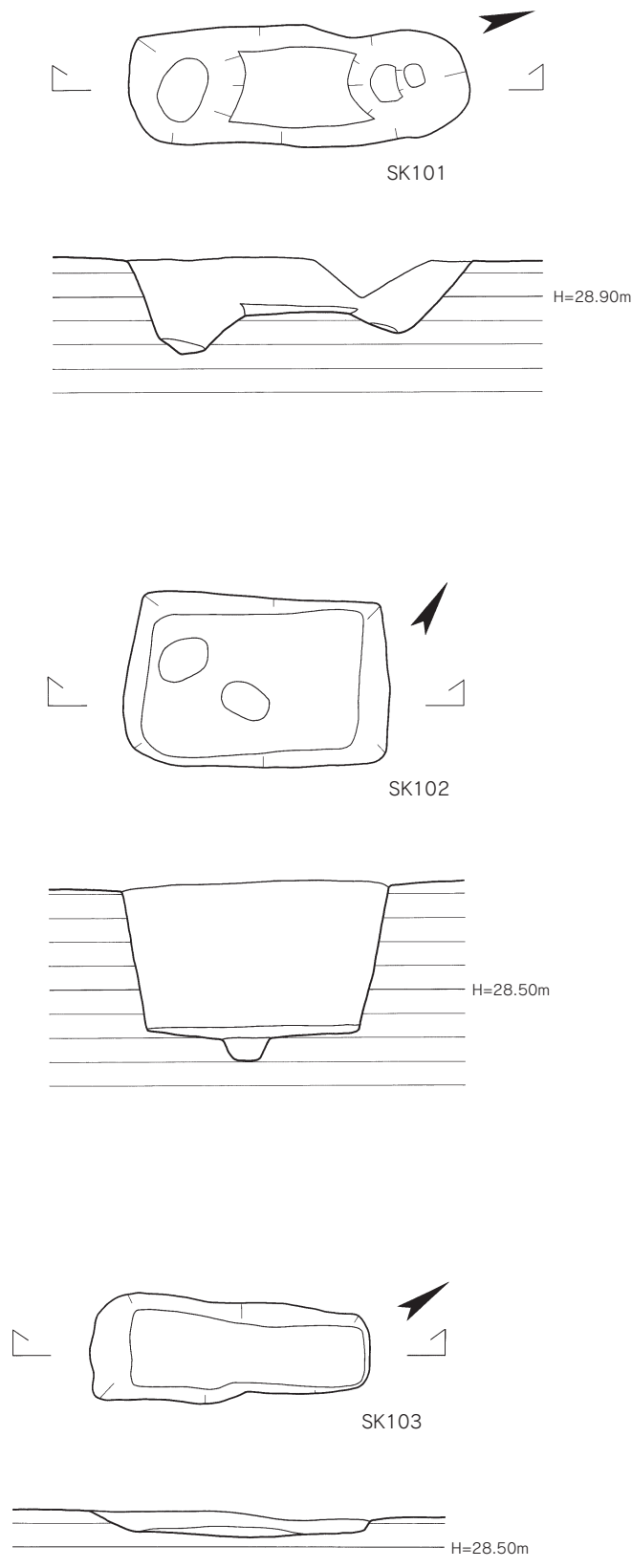


図4 遺構配置図 (1/200)





本遺跡の特徴は、遺物にほとんど時期差が認められず、遺物量も少ないことから長期に集落として機能していた地区とは認められない。ただし周辺地区（南東150m）の確認調査では古墳時代の住居を検出していることから大規模な古墳時代の集落が展開している可能性も有している地区である。

1A区の調査

1A区、1B区の2箇所に分け調査を行った。1A区については土坑3基、小穴が出土する。遺物は確認していない。

SK101土坑（図5）

規模構造：長軸1.41m、短軸0.52m、残存壁高0.40mを測る。丸みを帯びた長方形プランで南北に窪みを有し、中央に平場をもつ。

SK102土坑（図5）

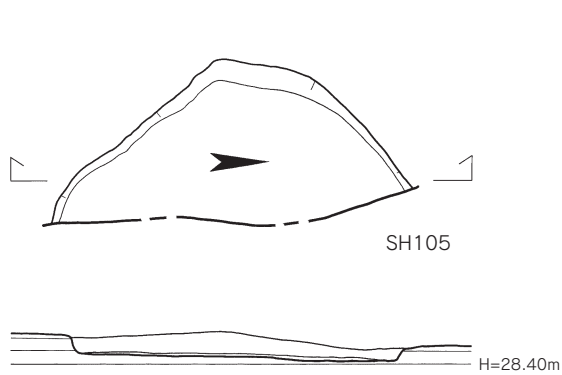
規模構造：長軸1.10m、短軸0.68m、残存壁高0.73mを測る。長方形プランをもち中央に0.20m弱の小穴を配している。落とし穴の可能性有。

SK103土坑（図5）

規模構造：長軸1.16m、短軸0.45m、残存壁高0.10mを測る。長方形プランをもつ。



図5 SK101・SK102・SK103土坑（1/30）



SH105

H=28.40m

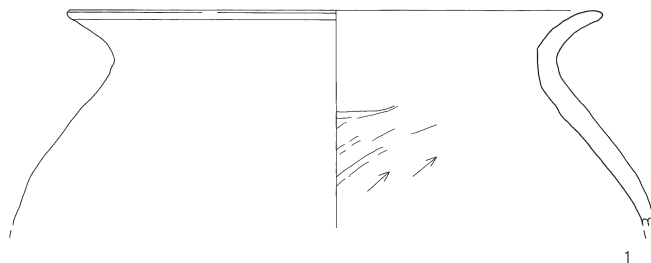


図6 SH105住居及び出土遺物 (1/60・1/3)

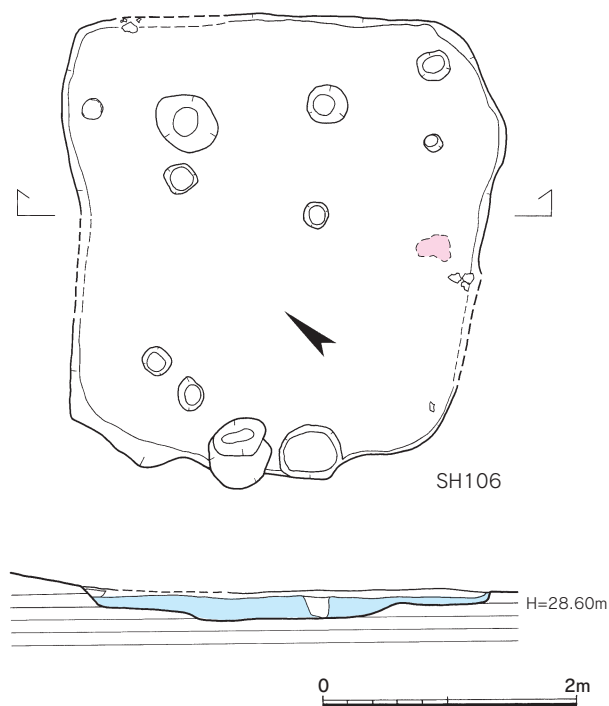
1B区の調査

1B区は住居跡7軒、土坑10基が出土している。

SH105住居 (図6)

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明。残存壁高0.20mを測る。支柱穴及び竈は確認できなかった。

遺物は土師器の壺が出土する。



SH106

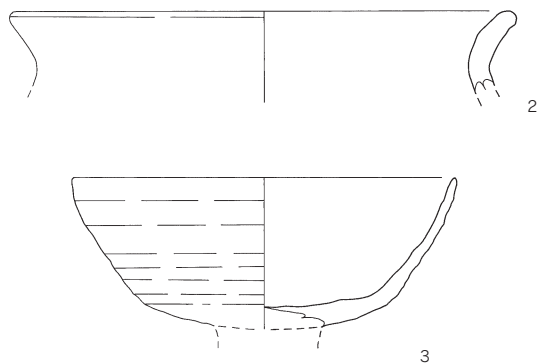
H=28.60m

0 2m

SH106住居 (図7)

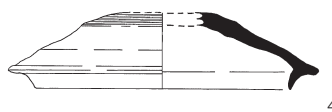
平面プランはほぼ正方形で長軸3.64m、短軸3.20m、残存壁高0.08m (貼床除去器高0.20m) 測る。支柱穴は中心に1本確認できる。竈は東壁際に設置されていたようだが、わずかに焼土が残る程度であり、明瞭な竈および煙道は確認できなかった。

遺物は土師器の壺・高坏、須恵器の坏蓋が出土する。

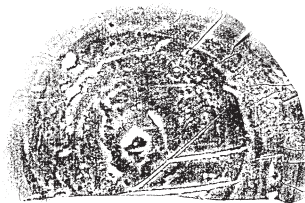


3

2



4



5

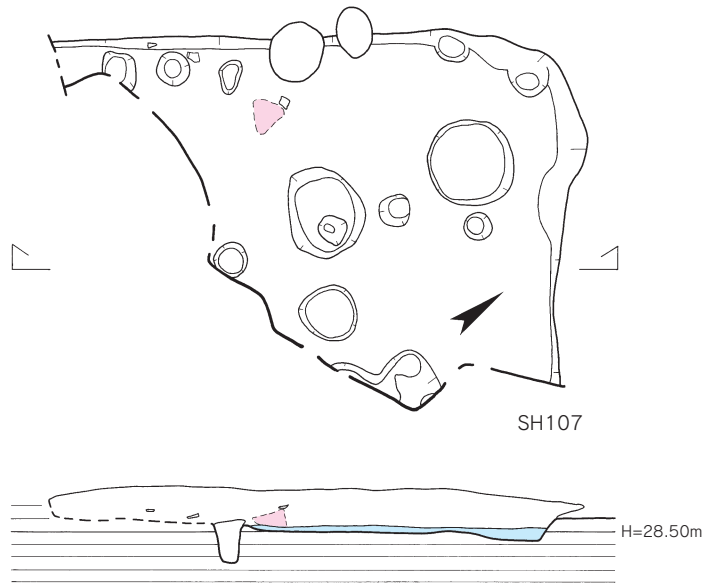


0 10cm

図7 SH106住居及び出土遺物 (1/60・1/3)

SH107住居(図8)

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明である。残存壁高0.32m(貼床除去器高0.36m)を測る。竈は西壁際に設置されていたようだが、わずかに焼土が残る程度であり、明瞭な竈及び煙道は確認できていない。遺物は土師器の甕が出土する。



SH107

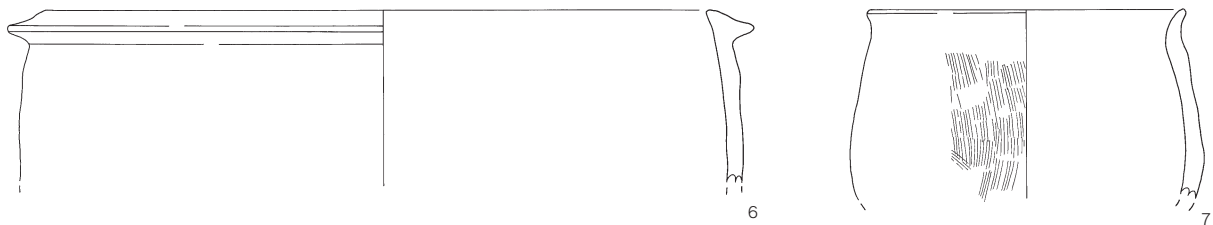
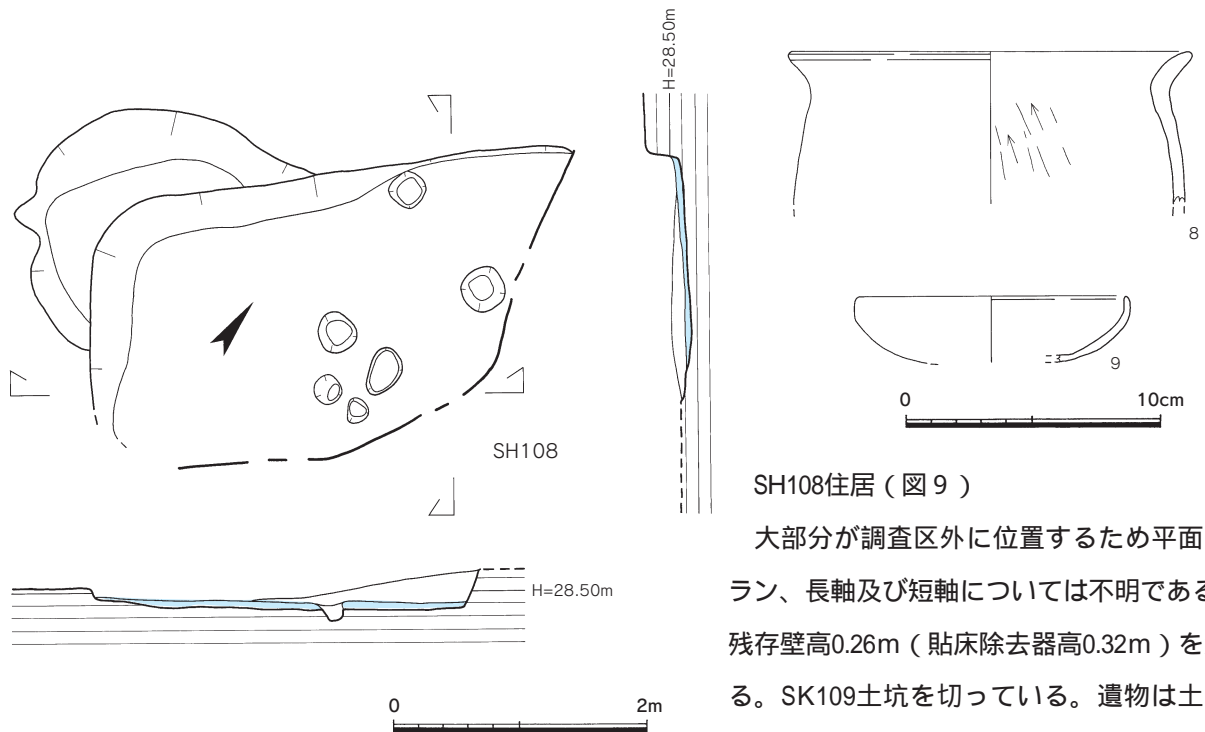


図8 SH107住居及び出土遺物(1/60・1/3)

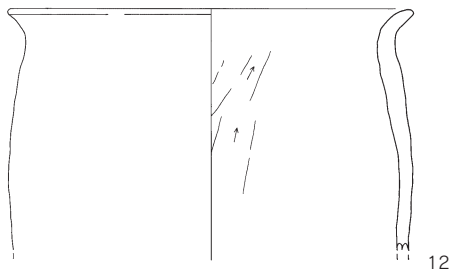
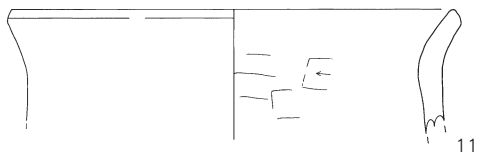
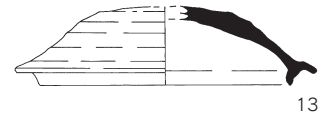
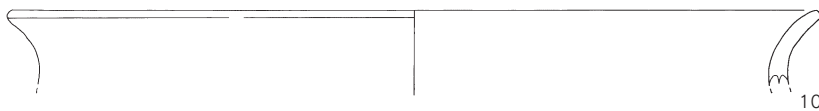
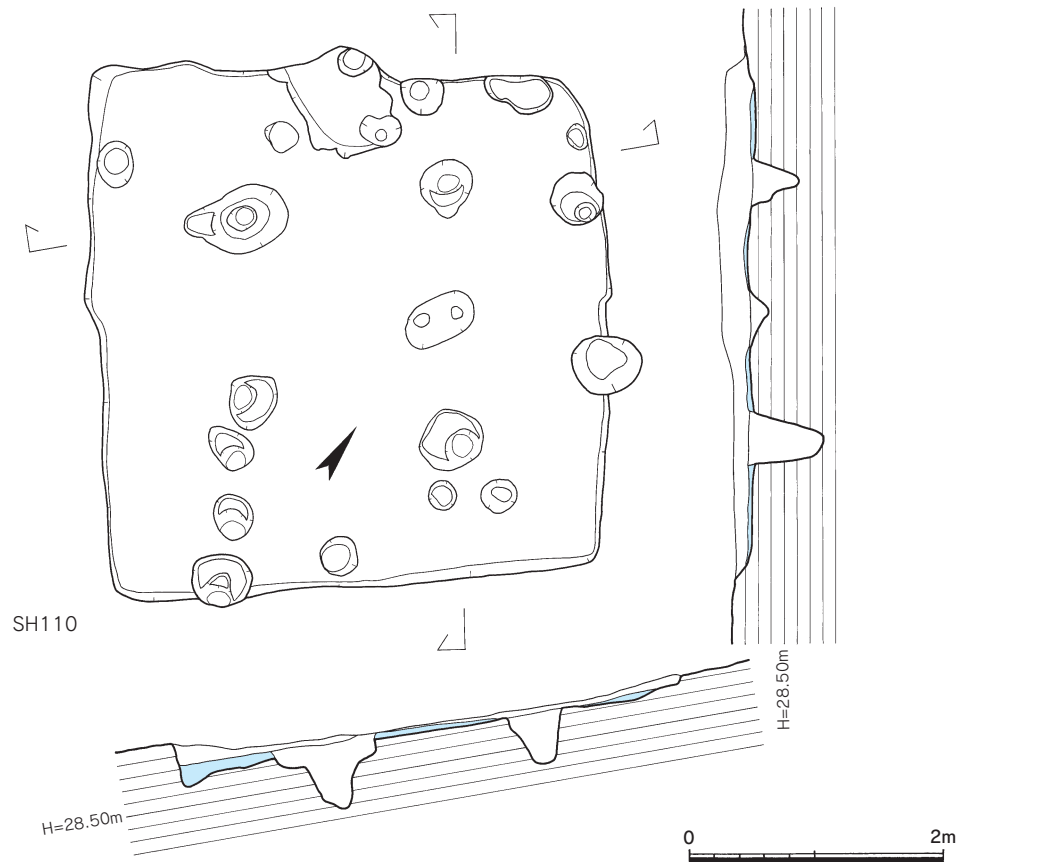


SH108

SH108住居(図9)

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明である。残存壁高0.26m(貼床除去器高0.32m)を測る。SK109土坑を切っている。遺物は土師器の甕・碗が出土する。

図9 SH108住居及び出土遺物(1/60・1/3)



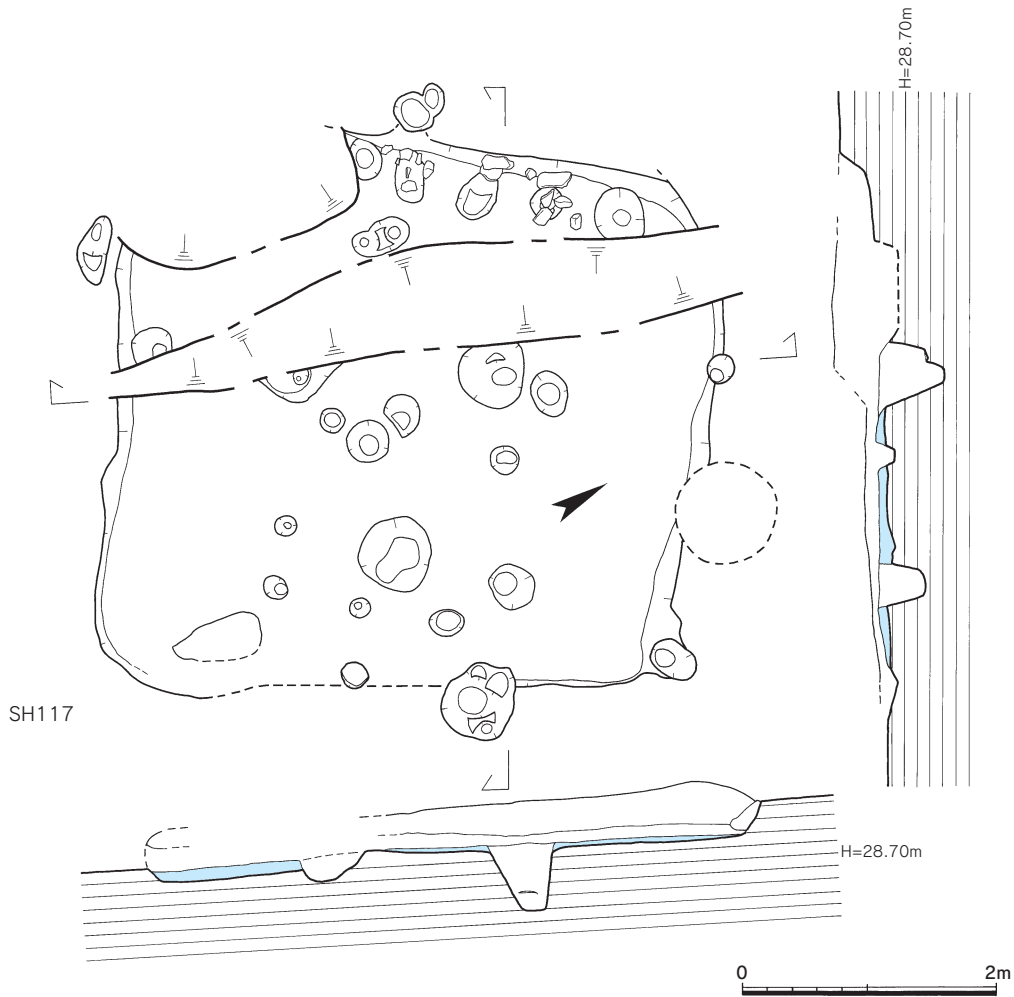
SH110住居（図10）

平面プランは正方形である。長軸4.00m、短軸4.00m、残存壁高0.26m（貼床除去器高0.32m）を測る。支柱穴は主軸上に4本確認することができ、柱間は約2.00m、深さ最大0.55m程をとる。竈は北壁際中央にあり、若干の窪みを有しており炭及び焼土が堆積している。遺物は土師器の甕、須恵器の坏蓋が出土する。

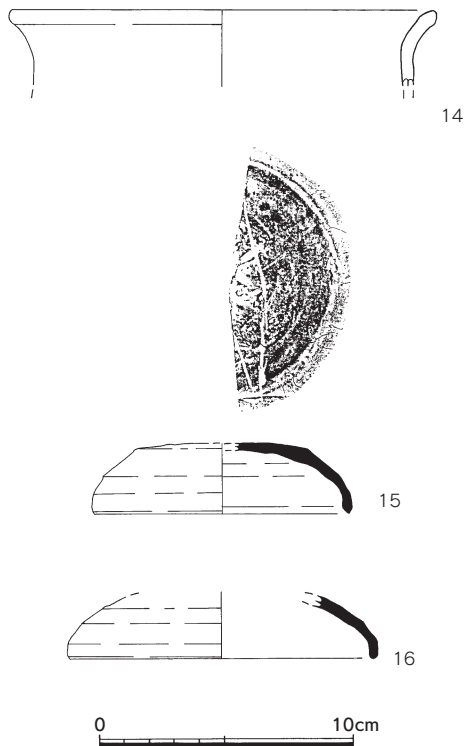
SH117住居（図11）

平面プランは正方形である。長軸4.80m、短軸4.20m、残存壁高0.43m（貼床除去器高0.47m）をとる。支柱穴は主軸上に4本確認することができ、柱間は約1.70m、深

図10 SH110住居及び出土遺物（1/60・1/3）



SH117



さ最大0.55m程を測る。竈は西壁際中央にあり若干の窪みを有しており、炭及び焼土が堆積している。明瞭な竈袖および煙道は確認できなかったが、中心には支脚と思われる石が出土している。遺物は土師器の甕、須恵器の坏蓋が出土する。なおヘラ記号が確認できる。

SH119住居（図12）

平面プランはほぼ正方形である。長軸4.50m、短軸4.40m、残存壁高0.38mをとる。支柱穴は主軸上に4本確認することができ、柱間は約1.90m、深さ最大0.50m程を測る。竈は西壁際中央に位置し張り出し（炭及び焼土が堆積）をもつ。ただし明瞭な施設は確認できなかった。遺物は土師器の壺、須恵器の坏蓋・坏身が出土する。

図11 SH117住居及び出土遺物（1/60・1/3）

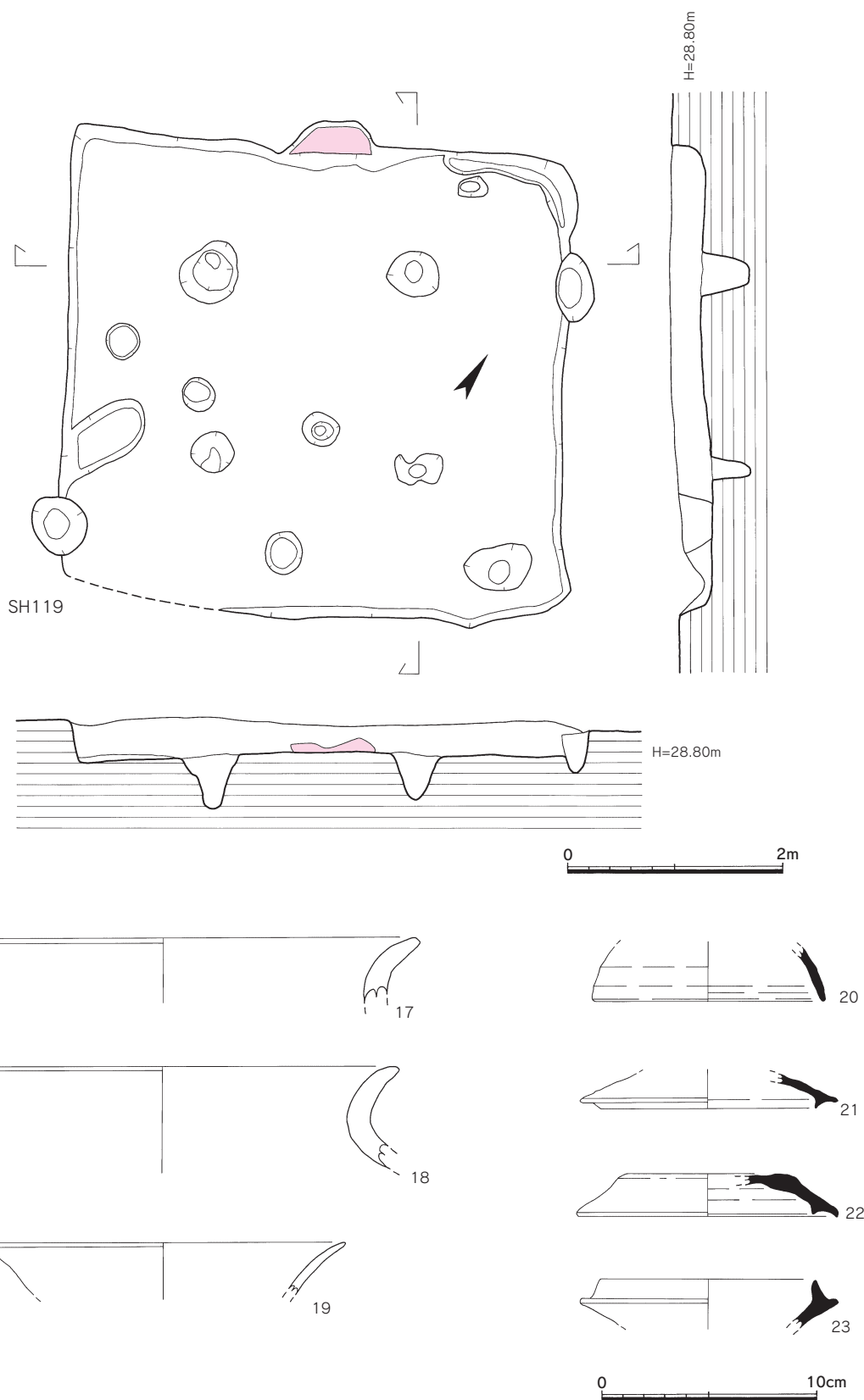


図12 SH119住居及び出土遺物 (1/60・1/3)

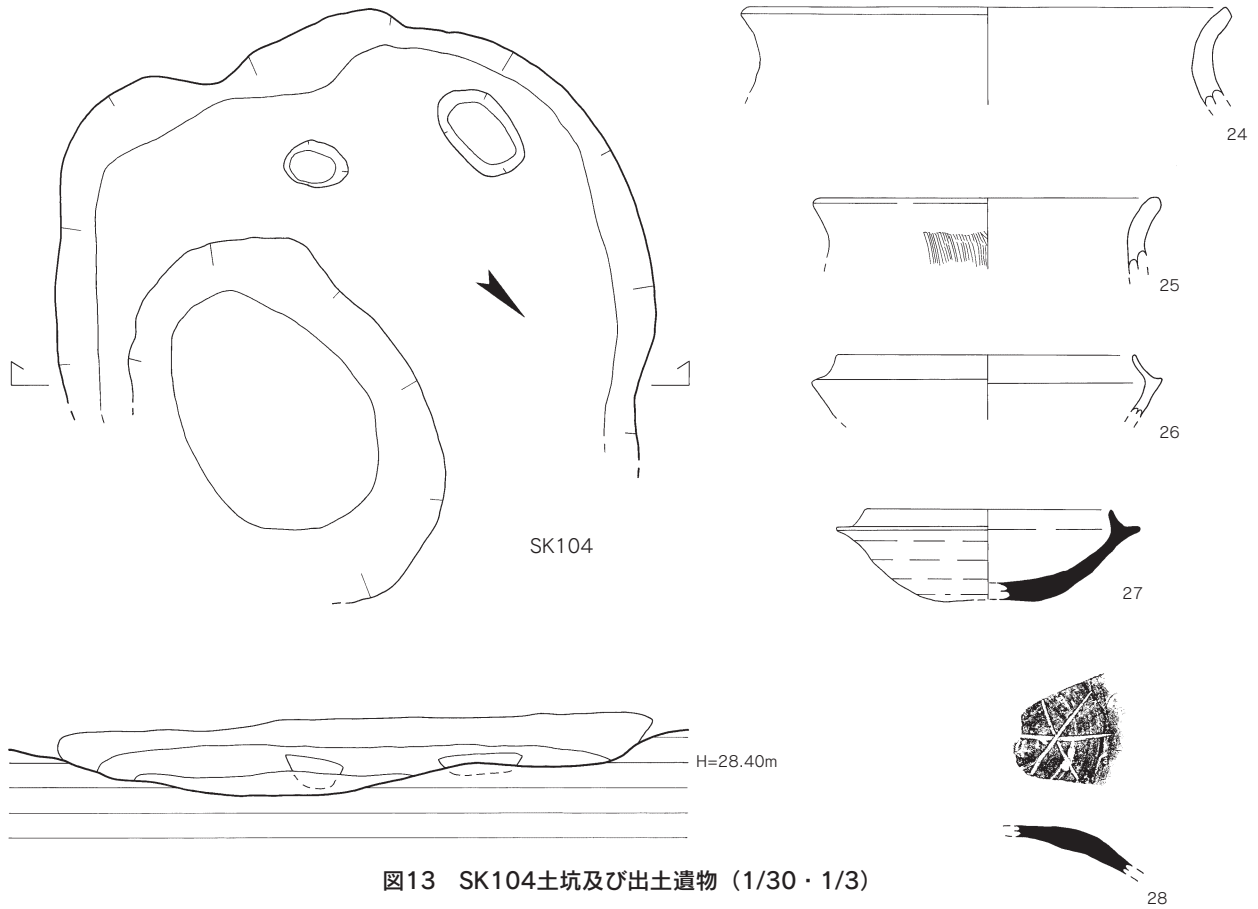


図13 SK104土坑及び出土遺物 (1/30・1/3)

SK104土坑 (図13)

規模構造：長軸2.30m+、短軸2.28m、残存壁高0.30mを測る。半分が削平されているため詳細は不明。二段掘りを施している。遺物は土師器壺、須恵器坏身が出土する。

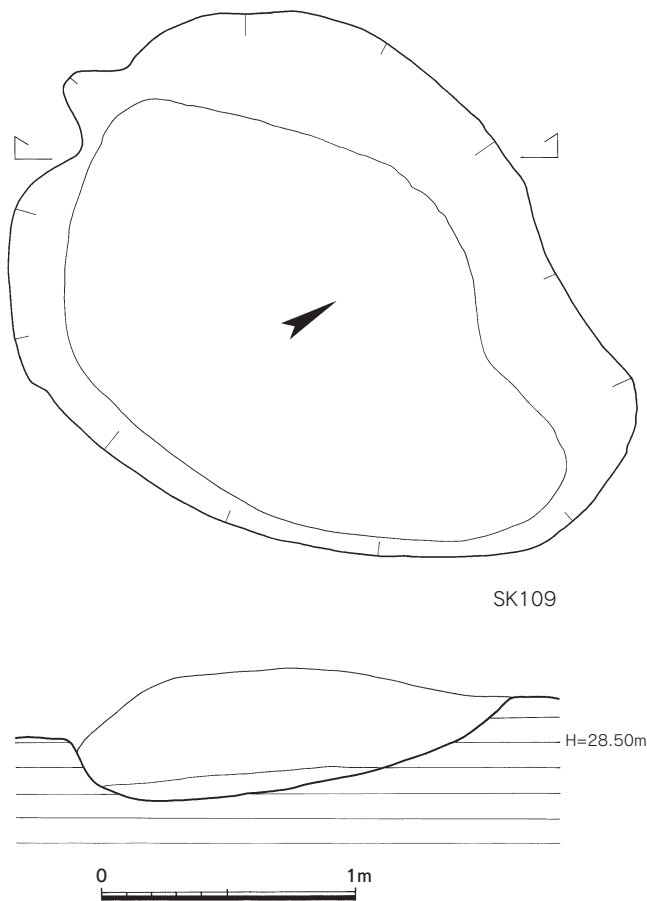
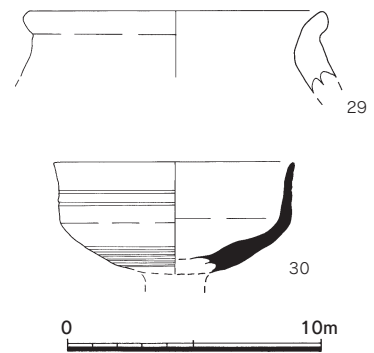
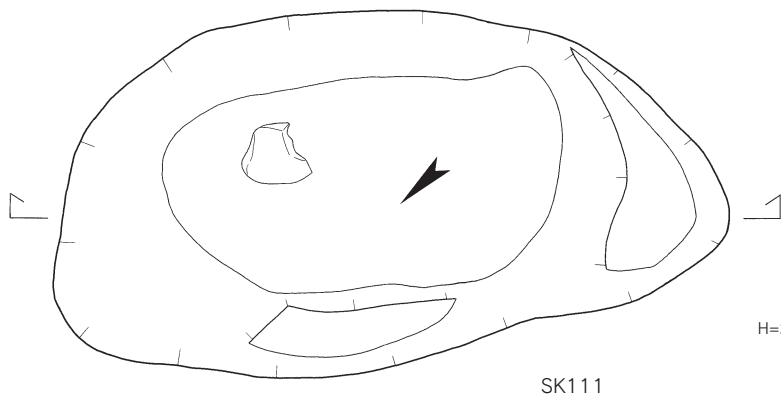


図14 SK109土坑及び出土遺物 (1/30・1/3)

SK109土坑 (図14)

規模構造：長軸2.66m、短軸1.96m、残存壁高0.50mを測る。楕円状のプランをもつ。SH108に切られている。遺物は高坏が出土する。





SK111

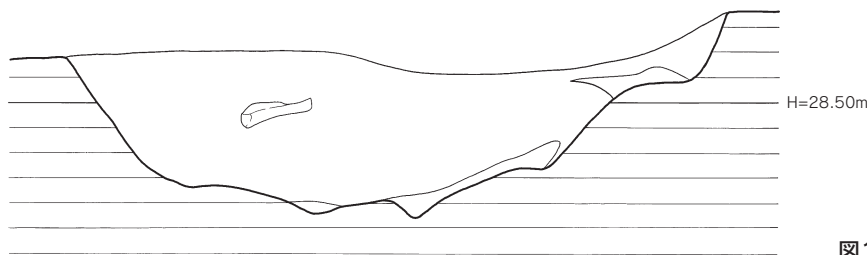
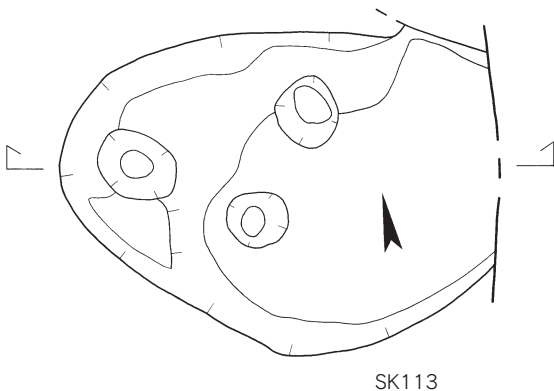


図15 SK111土坑 (1/30)



SK113

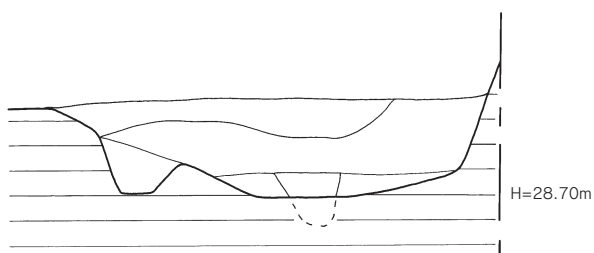
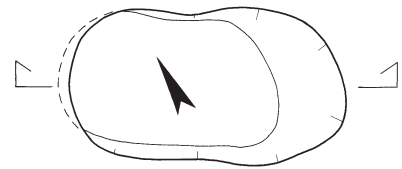


図17 SK113土坑 (1/30)



SK112

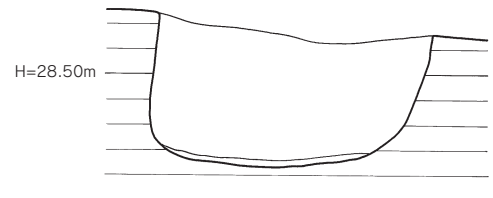


図16 SK112土坑 (1/30)

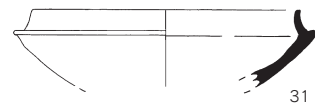


図18 SK111土坑出土遺物 (1/3)

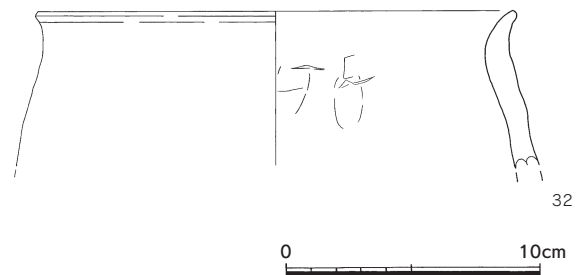


図19 SK113土坑出土遺物 (1/3)

SK111土坑 (図15)

規模構造：長軸2.68m、短軸1.42m、残存壁高0.64mを測る。楕円形のプランをもつ。中段から石及び須恵器の坏身が出土する。

SK112土坑 (図16)

規模構造：長軸1.08m、短軸0.62m、残存壁高0.54mを測る。

SK113土坑 (図17)

規模構造：長軸1.75m+、短軸1.28m、残存壁高0.40mを測る。3つの小穴をもつ。遺物は土師器壺が出土する。

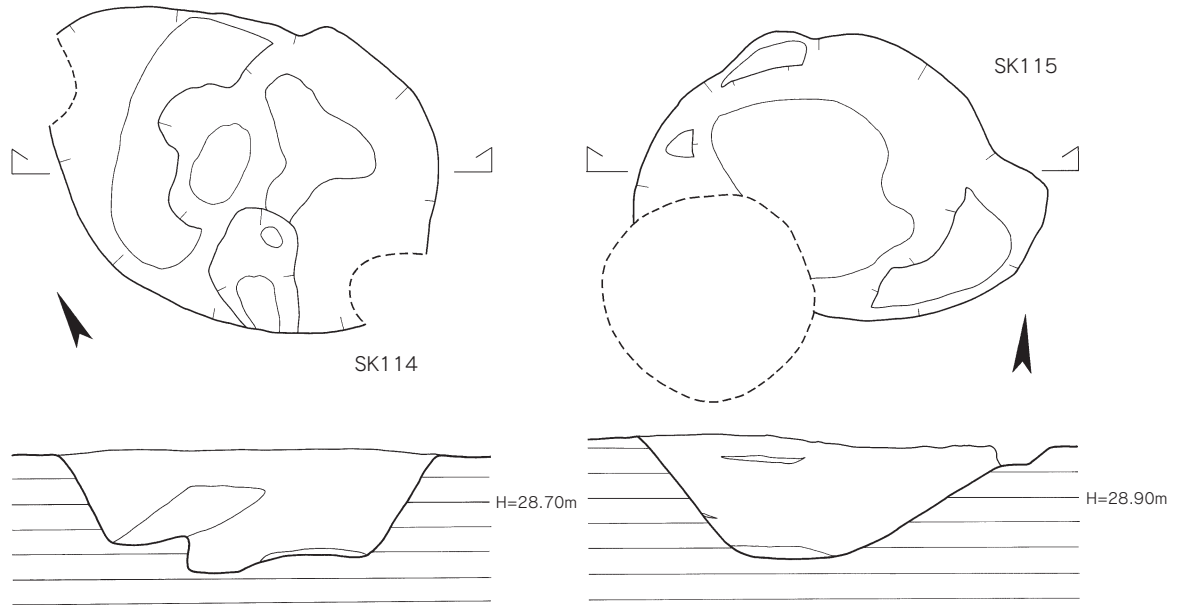


図20 SK114・115土坑 (1/30)

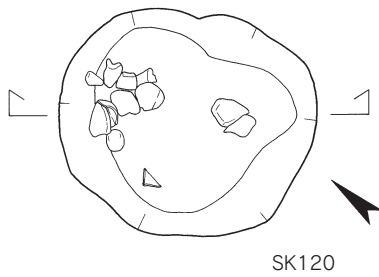


SK114土坑 (図20)

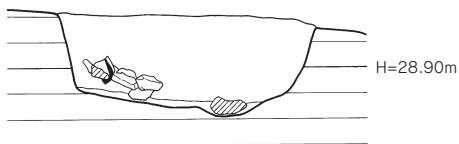
規模構造：長軸1.70m、短軸1.28m、残存壁高0.48mを測る。両端が小穴に切られている。

SK115土坑 (図20)

規模構造：長軸1.62m、短軸1.12m、残存壁高0.40mを測る。井戸（現代）に切られている。

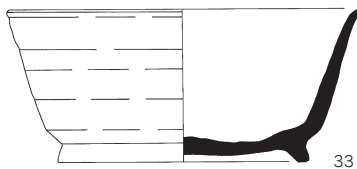


SK120

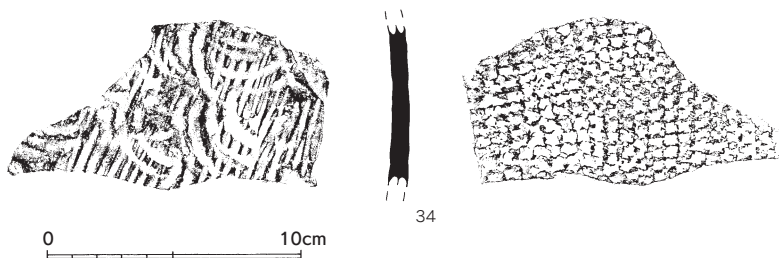


SK120土坑 (図21)

規模構造：長軸1.02m、短軸0.90m、残存壁高0.39mを測る。石を床面から多数確認し、それとともに高台付坏が出土する。



33



34

図21 SK120土坑及び出土遺物 (1/30・1/3)

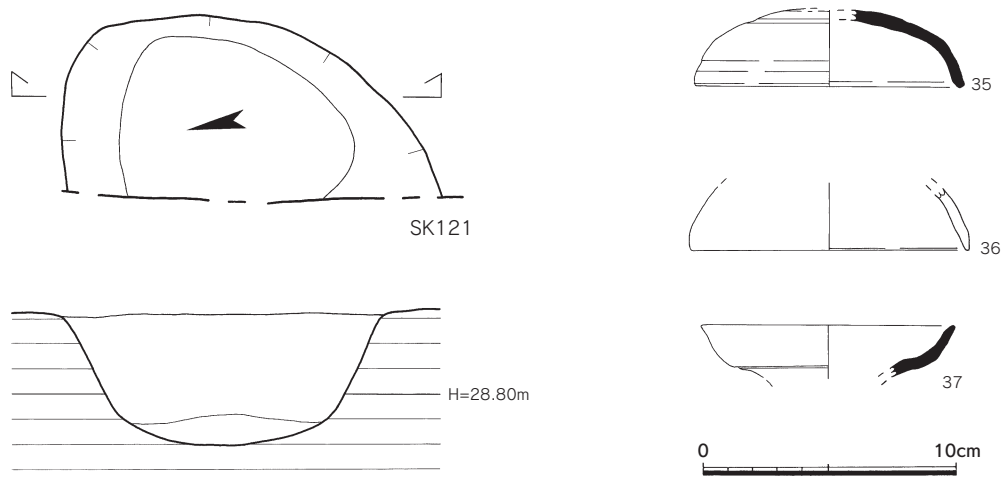


図22 SK121土坑及び出土遺物 (1/30・1/3)

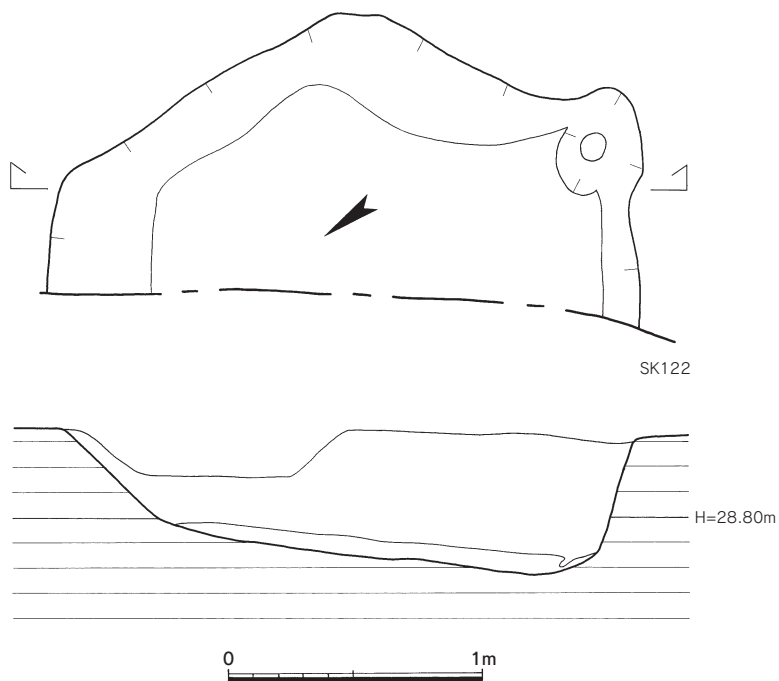


図23 SK122土坑 (1/30)

SK121土坑 (図22)

規模構造：長軸1.45m、短軸0.72m+、残存壁高0.52mを測る。遺物は土師器坏蓋、須恵器坏蓋・甕が出土する。

SK122土坑 (図23)

規模構造：長軸2.32m、短軸1.10m+、残存壁高0.55mを測る。大部分が調査区外のため詳細については不明。

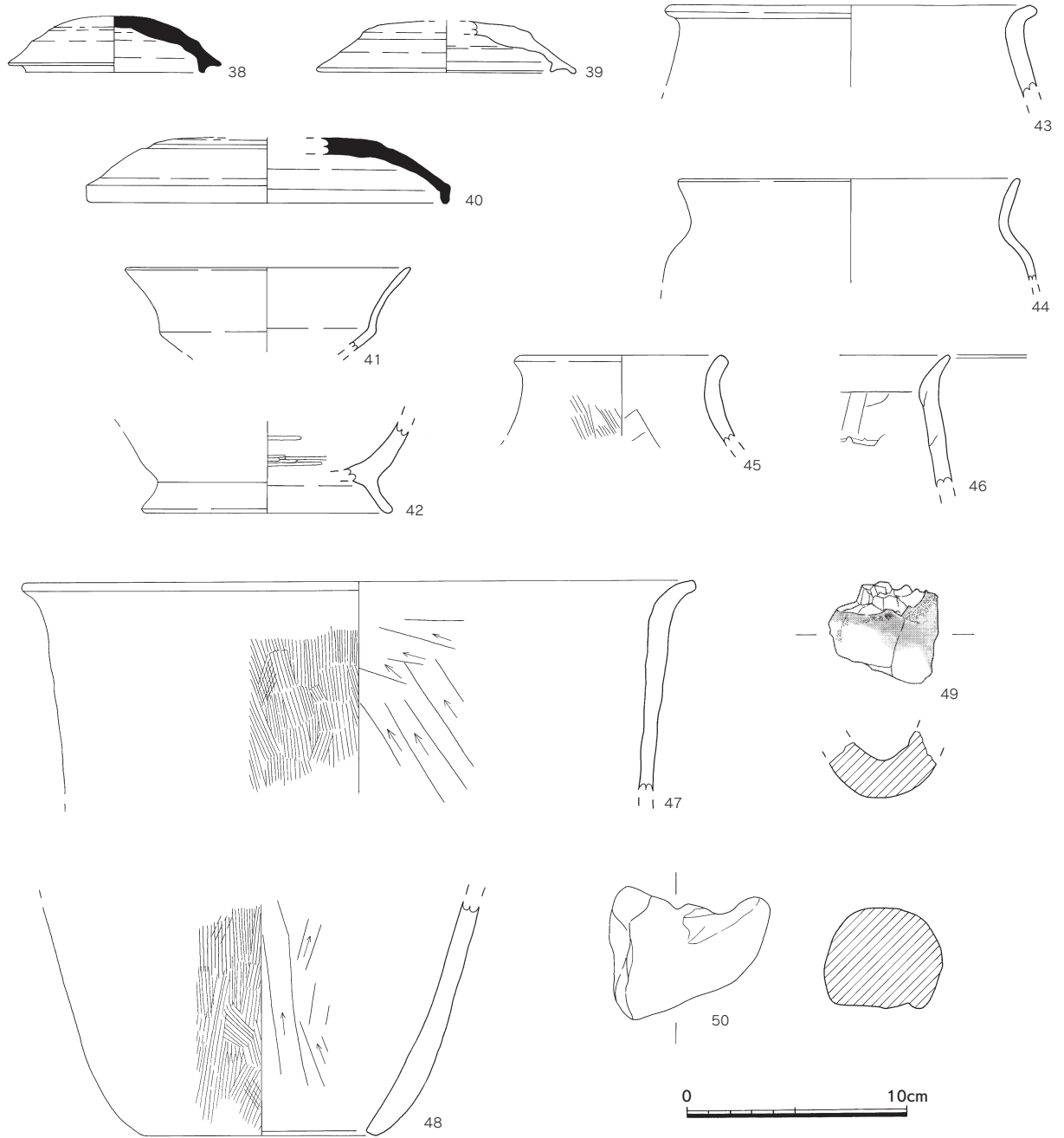


图24 天神木遺跡1区出土遺物 (1/3)

天神木遺跡遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図6-1	SH105	土師器	壺	①(21.0) ②<8.5>	口縁部~胴上部1/6残存	黄橙	内面：わずかに丹残る	030001
図7-2	SH106	土師器	甕	①(19.4) ②<3.0>	口縁部一部残存	橙		030005
図7-3	SH106	土師器	高坏	①15.1 ②<6.0>	口縁部1/2、坏部残存	橙		030002
図7-4	SH106	須恵器	坏蓋	①(10.0) ②<3.0>	口縁部1/5残存	灰	外面：カキ目	030004
図7-5	SH106	須恵器	坏蓋	①(8.8) ②3.1	口縁部1/3~底部1/2残存	灰	ヘラ記号有	030003
図8-6	SH107	土師器	甕	①(26.0) ②<6.8>	口縁部一部残存	灰褐		030008
図8-7	SH107	土師器	甕	①(12.4) ②<7.4>	口縁部~胴部1/3残存	明赤褐		030009
図9-8	SH108	土師器	甕	①(15.7) ②<6.0>	口縁部1/6残存	橙		030006
図9-9	SH108	土師器	碗	①(10.4) ②<2.6>	口縁から体部1/5残存	橙		030011
図10-10	SH110	土師器	甕	①(31.6) ②<3.0>	口縁部一部残存	橙		030012
図10-11	SH110	土師器	甕	①(17.4) ②<4.8>	口縁部一部残存	明赤褐		030015
図10-12	SH110	土師器	甕	①(15.8) ②<9.5>	口縁部1/4~胴部1/3残存	橙		030007
図10-13	SH110	須恵器	坏蓋	①(10.0) ②<3.1>	口縁部1/5残存	灰白		030010
図11-14	SH117	土師器	甕	①(16.8) ②<3.0>	口縁部一部残存	にぶい赤褐		030022
図11-15	SH117	須恵器	坏蓋	①(10.0) ②<2.8>	口縁部~天上部1/2残存	灰	ヘラ記号有	030016
図11-16	SH117	須恵器	坏蓋	①(12.0) ②<2.5>	口縁部一部残存	灰		030020
図12-17	SH119	土師器	甕	①(23.4) ②<3.0>	口縁部一部残存	浅黄橙		030014
図12-18	SH119	土師器	壺	①(21.6) ②<3.8>	口縁部一部残存	橙		030013
図12-19	SH119	土師器	高坏	①(17.0) ②<2.4>	口縁部一部残存	浅黄橙		030023
図12-20	SH119	須恵器	坏蓋	①(10.6) ②<2.5>	口縁部1/8残存	にぶい赤褐	赤焼	030021
図12-21	SH119	須恵器	坏蓋	①(10.0) ②<1.6>	口縁部1/6残存	灰白		030019
図12-22	SH119	須恵器	坏蓋	①(12.0) ②2.0	口縁部一部、天上部1/2残存	灰白		030017
図12-23	SH119	須恵器	坏身	①(10.0) ②<2.1>	口縁部1/6残存	灰		030018
図13-24	SK104	土師器	甕	①(18.8) ②<3.9>	口縁部一部残存	にぶい橙	炭付着	030025
図13-25	SK104	土師器	甕	①(13.4) ②<3.0>	口縁部一部残存	にぶい褐		030024
図13-26	SK104	土師器	坏身	①(11.8) ②<2.4>	口縁部一部残存	にぶい橙		030026
図13-27	SK104	須恵器	坏身	①(9.8) ②<3.5>	口縁部~底部1/4残存	灰		030027
図13-28	SK104	須恵器	坏蓋	—	底部一部残存	褐灰	ヘラ記号有	030028
図14-29	SK109	土師器	甕	①(11.6) ②<3.3>	口縁部一部残存	にぶい橙		030030
図14-30	SK109	須恵器	高坏	①(9.6) ②<4.2>	坏部1/4残存	褐灰(灰褐)	赤焼 外面：カキ目	030029
図18-31	SK111	須恵器	坏身	①(10.6) ②<3.0>	口縁部一部残存	褐灰		030031
図19-32	SK113	土師器	壺	①(19.0) ②<6.0>	口縁部一部残存	橙(にぶい橙)		030032
図21-33	SK120	須恵器	高台付坏	①(14.0) ②6.0 高台径(10.0)	1/2残存	にぶい黄褐(灰)		030033
図21-34	SK120	須恵器	—	—	一部残存	灰		030034

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		() は内面		
図22-35	SK121	須恵器	坏蓋	①(10.6) ②(3.0)	口縁部一部残存	黄灰		030037
図22-36	SK121	土師器	坏蓋	①(11.0) ②(2.5)	口縁部一部残存	にぶい黄橙		030035
図22-37	SK121	須恵器	甗	①(10.0) ②(2.0)	口縁部一部残存	黄灰		030036
図24-38	P186	須恵器	坏蓋	①(8.2) ②2.6	口縁部～底部1/4残存	浅黄		030042
図24-39	P162	土師器	坏蓋	①(11.8) ②(2.3)	1/4残存	橙		030040
図24-40	P199	須恵器	坏蓋	①(16.4) ②(2.9)	口縁部～上部一部残存	黄灰		030046
図24-41	P199	土師器	高坏	①(13.0) ②(3.8)	口縁部一部残存	黄橙	丹わずか	030048
図24-42	P112	土師器	高台付坏	①(4.1) 高台径(11.4)	高台～底部一部残存	にぶい橙(黒)		030038
図24-43	P199	土師器	壺	①(17.0) ②(4.2)	口縁部一部残存	橙		030047
図24-44	P199	土師器	壺	①(15.4) ②(4.6)	口縁部一部残存	橙	丹わずか	030045
図24-45	P194	土師器	壺	①(9.8) ②(4.1)	口縁部一部残存	にぶい橙	内面：煤付着	030044
図24-46	P134	土師器	甕	①(6.0)	口縁部一部残存	にぶい橙	内面：接合痕	030039
図24-47	P199	土師器	甗	①(30.4) ②(9.6)	口縁部一部残存	橙		030049
図24-48	P1102	土師器	甗	②(10.6) ③(10.8)	底部一部残存	にぶい橙(褐灰)		030050
図24-49	P182	土師器	支脚?	—	一部残存	にぶい橙	焼けており輪の羽口の可能性も有	030041
図24-50	P188	土師器	甗	—	把手	浅黄橙		030043

第4章 藪原遺跡の調査

藪原遺跡は田代外町字藪原に所在し、大木川左岸流域に位置する。南60mには大木川が流れる。本遺跡は昭和60年、工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査が行われ（藪原1区）、平成6年には今泉田代線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（藪原2区）が実施されている。

本遺跡の特徴は、時期的には弥生時代後期末・古墳時代後期の大きく2時期に分けられる。また地理的には丘陵の最も南東に位置しており、今回調査を行った地区の南側からは遺構は確認されていない。またかなり削平を受けており、そのためか小破片を中心に出土している。

1区からは小穴、溝が出土しており、弥生土器、土師器・須恵器が多数出土している。ただし、ほとんどが包含層出土遺物であるため、遺構の明確な時期については不明である。ただし掘立柱建物が立地しているようで、4区の状況から古墳時代の可能性が高いと思われる。

2区は弥生・古墳時代の集落で、住居8軒、溝・土坑などが確認されている。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代後期の凡そ2時期に分けることができ、弥生土器、土師器・須恵器、鉄器等がみられ、また瀬戸内系と思われる弧文帯文様を施された土器が出土している。

3区は今回調査を実施した地区であり、田代駅古賀線改築工事に伴うものである。確認できた遺構は溝2条、住居（土坑）2軒、掘立柱建物1棟である。時期は2区同様、弥生時代後期末・古墳時代後期の2時期である。掘立柱建物は弥生時代、住居（土坑）は古墳時代後期である。溝は弥生時代のものと推定している。また多数の砂が堆積していることから水路としての機能を有していたものと思われる。遺物はほとんどが小破片である。凡そ3層に分けられ、上層については様々な時期のものが混入しているが、中層、下層からは弥生土器のみの出土である。また2区で出土している瀬戸内系の土器の一部と思われる破片も確認できる。なお、お互いが小片のため接合はできなかったが、同一個体のものと思われる。

4区も今回調査を行った地区で掘立柱建物3棟が検出された。この建物については、遺物から古墳時代後期と推測される。1区と隣接しており、丘陵から一段下がった地区（1区・4区）に倉庫群が立地していたことが伺える。

藪原遺跡2区

SH201住居（図26）

平面プランは長方形である。長軸4.90m、短軸3.05m、残存壁高0.10mを測る。支柱穴については明瞭な位置で検出されていない。かなりの削平を受けており、溝が横断している。なお炉・壁際土坑等についても検出されていない。詳細について不明な点が多い。遺物は壺・器台が出土している。図26-52については弧文帯の文様を施した土器であり、表面は文様及び磨きが施されており、他の出土遺物とは様相が異なるものである。

SH203住居（図27）

平面プランは長方形と思われる。SH202住居に切られている。長軸3.90m+、短軸3.80m、残存壁高0.08m

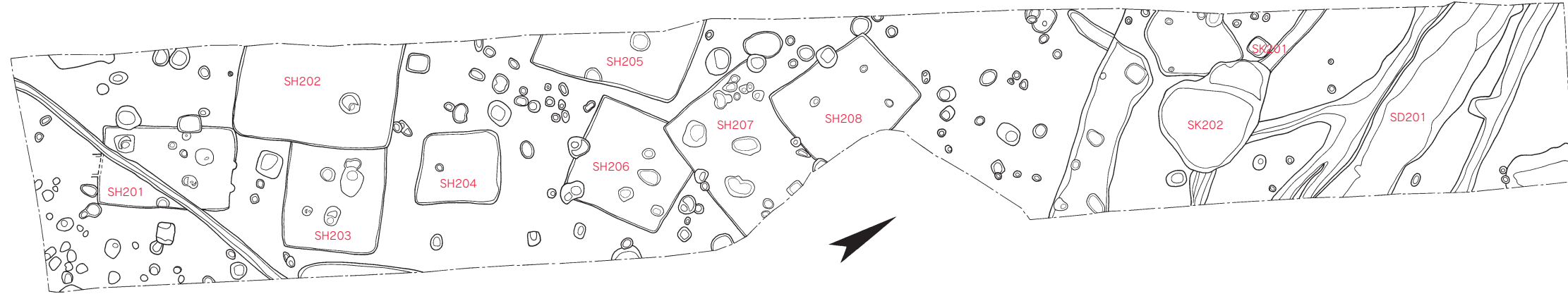


図25 遺構配置図 (1/200)

藪原遺跡2区

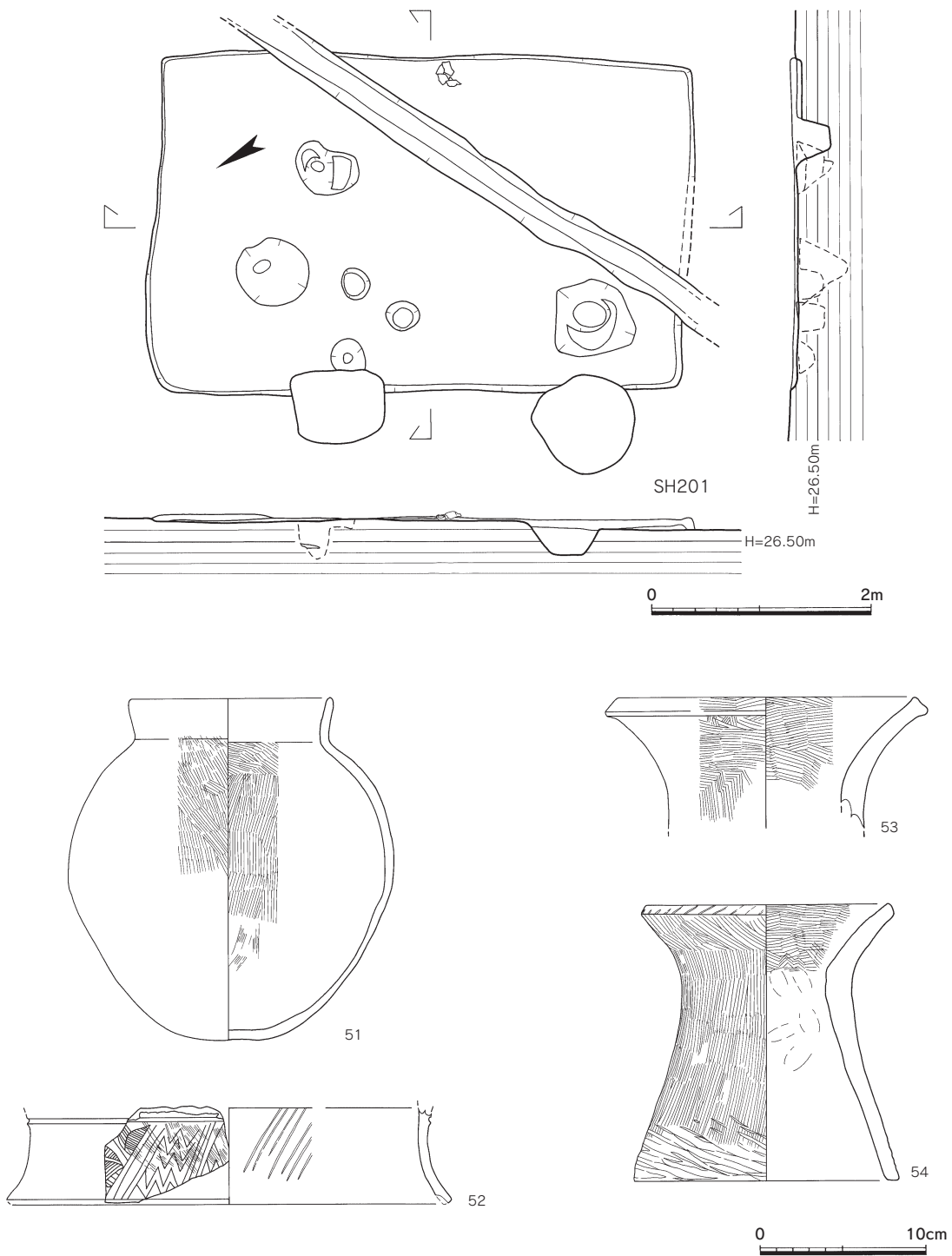


図26 SH201住居及び出土遺物 (1/60・1/4)

を測る。支柱穴は主軸上に1本確認することができ、深さ最大約0.45mをとる。なお炉・壁際土坑等についても検出していない。遺物は甕が出土する。

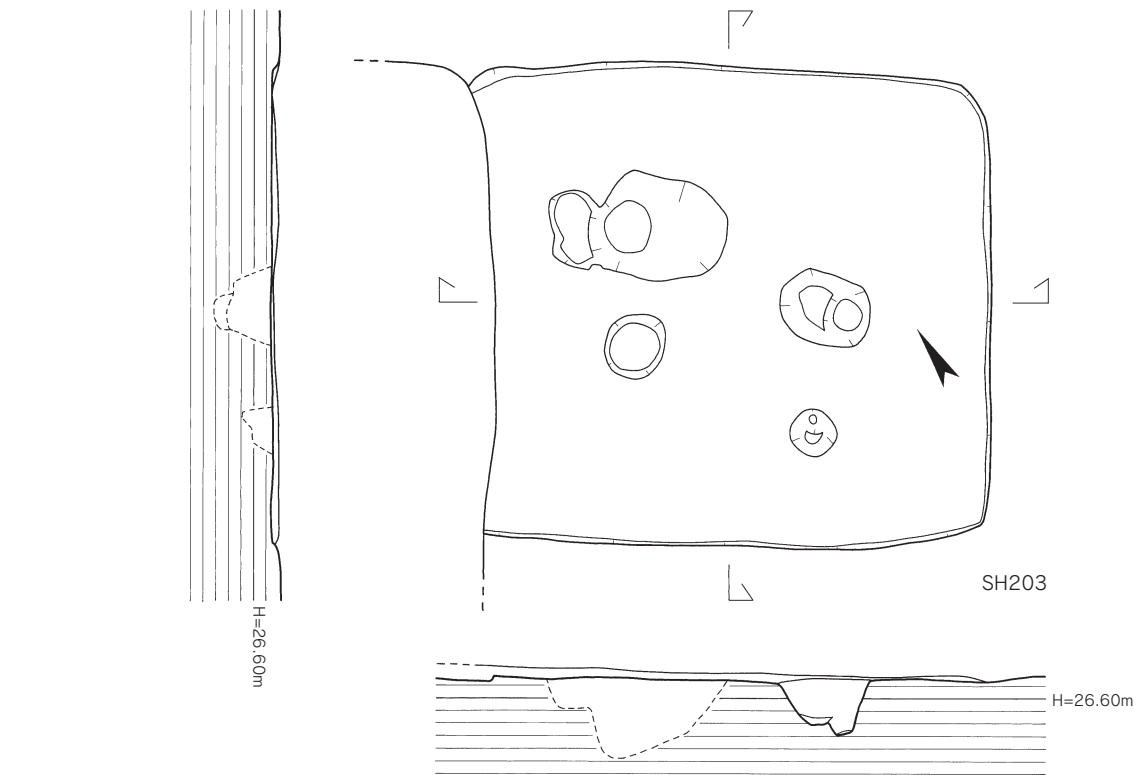
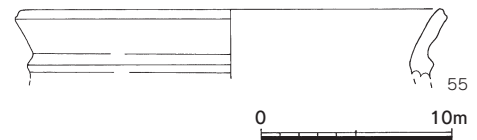
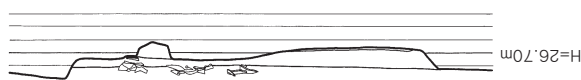
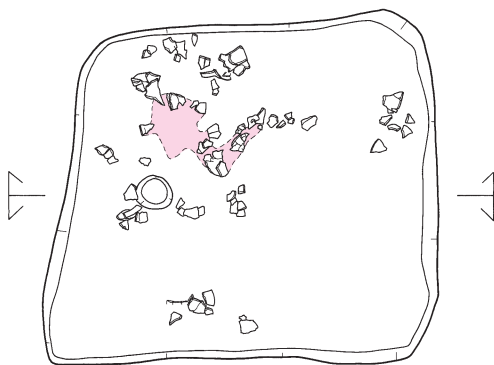


図27 SH203住居及び出土遺物 (1/60・1/4)



SH204住居 (図28)

平面プランはほぼ正方形である。長軸2.98m、短軸2.65m、残存壁高0.18mを測る。支柱穴は確認できていない。床面からは多くの土器片とともに焼土が出土する。遺物は甕・鉢・器台、鉄鎌等が出土している。



SH204

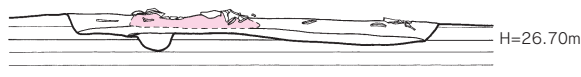


図28 SH204住居 (1/60)

SH205住居 (図30)

大部分が調査区外のため詳細については不明であるが、平面プランは長方形と思われる。長軸5.65m、短軸3.30m+、残存壁高0.08mを測る。支柱穴は1本確認することができ、深さ0.25m程を測る。炉は確認できていないが、壁際土坑が南壁際で検出している。

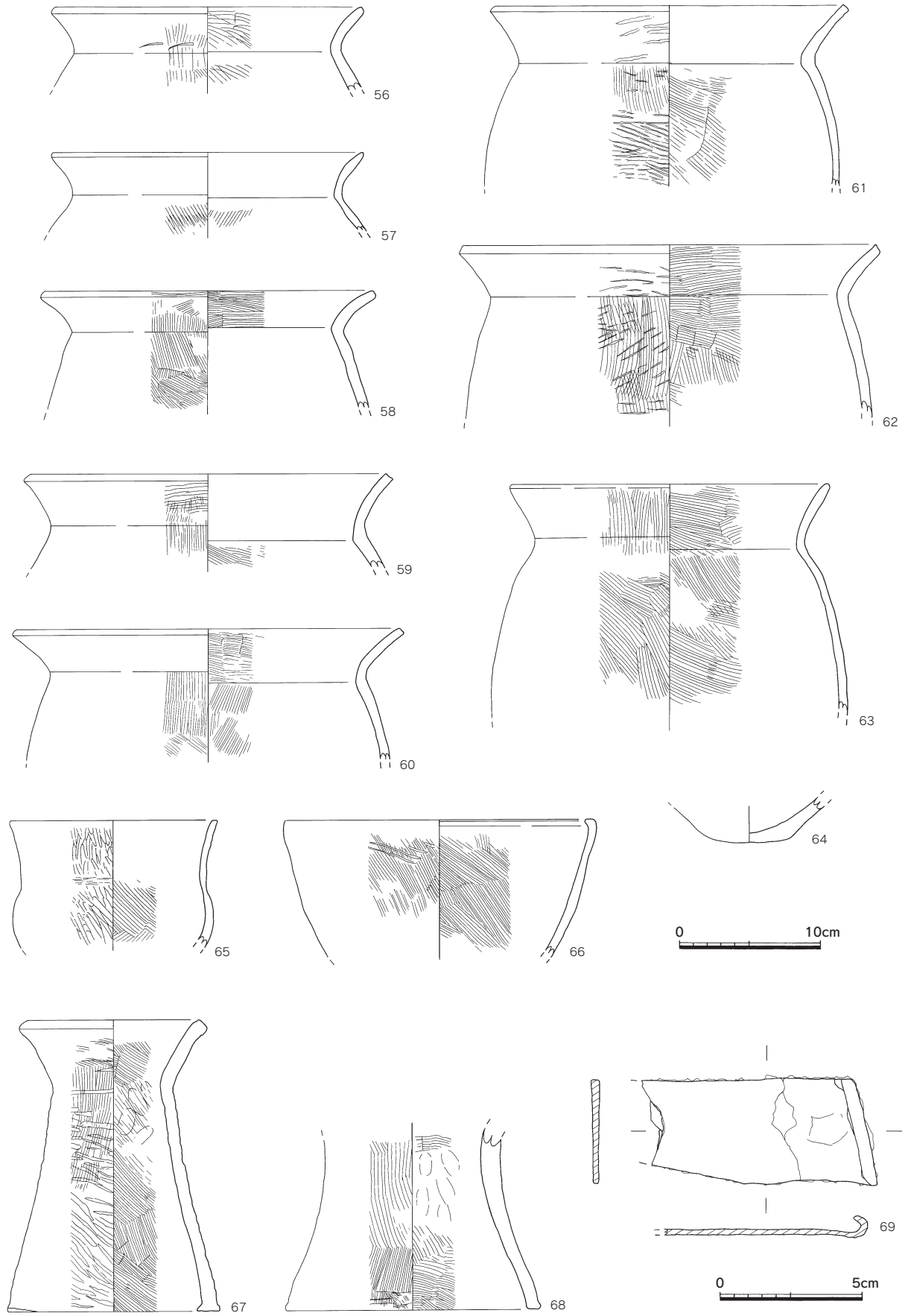


图29 SH204住居出土遺物 (1/4 · 1/2)

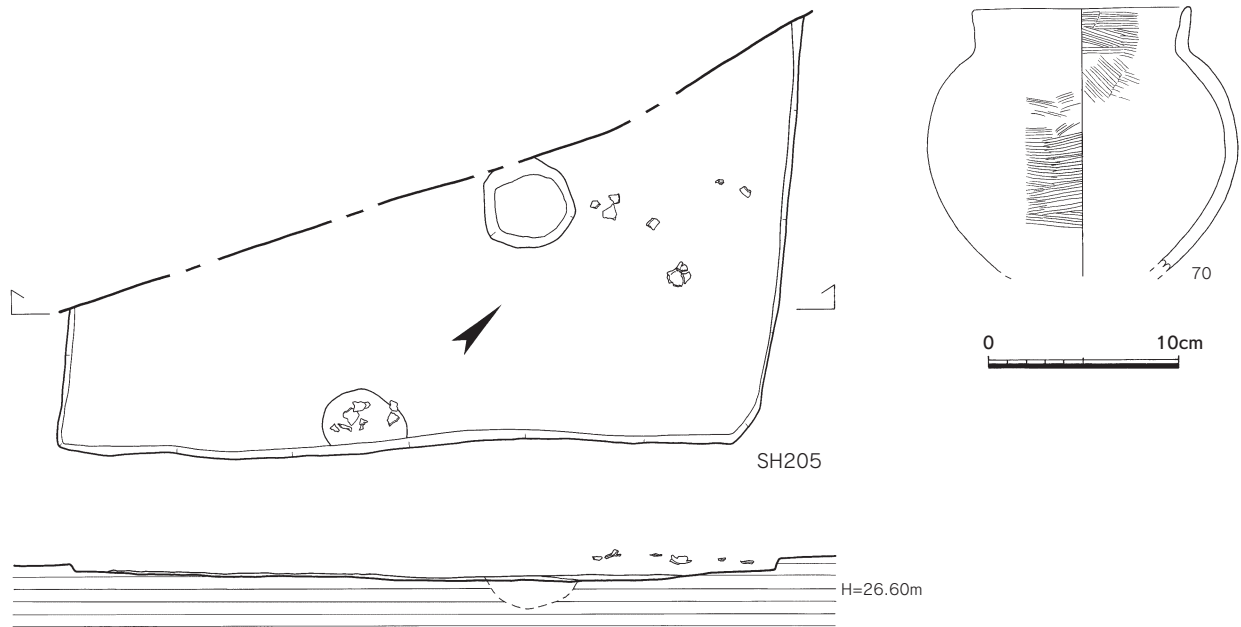
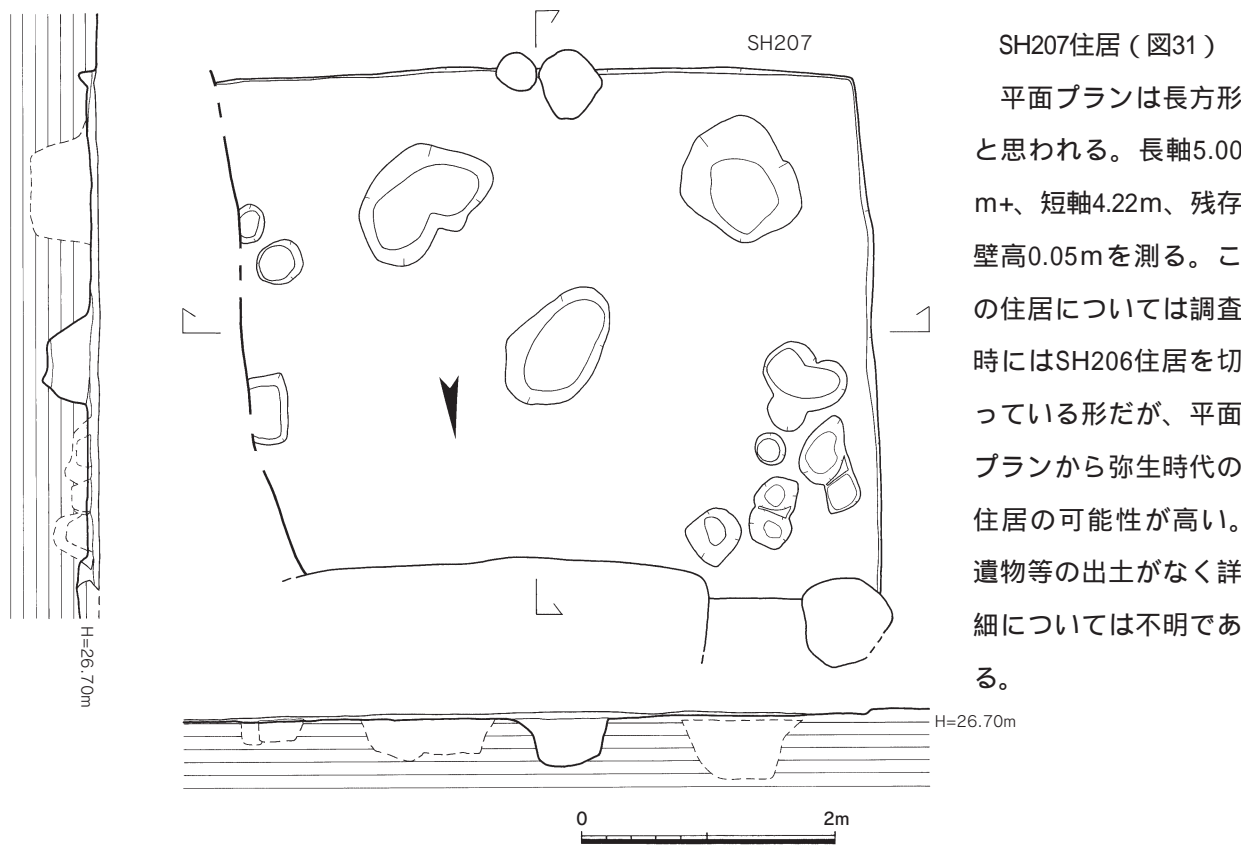


図30 SH205住居及び出土遺物 (1/60・1/4)



SH207住居 (図31)
 平面プランは長方形と思われる。長軸5.00m+、短軸4.22m、残存壁高0.05mを測る。この住居については調査時にはSH206住居を切っている形だが、平面プランから弥生時代の住居の可能性が高い。遺物等の出土がなく詳細については不明である。

図31 SH207住居 (1/60)

SH202住居（図32）

大部分が調査区外のため詳細については不明であるが、平面プランは正方形と推定される。長軸5.90m、短軸3.70m+、残存壁高0.12mを測る。支柱穴・竈など確認していない。遺物は土師器甕・須恵器坏身が出土する。

SH206住居（図33）

平面プランは正方形である。長軸4.20m、短軸4.05m、残存壁高0.06mを測る。支柱穴・竈は確認していない。遺物は土師器の壺・坏蓋等が出土している。

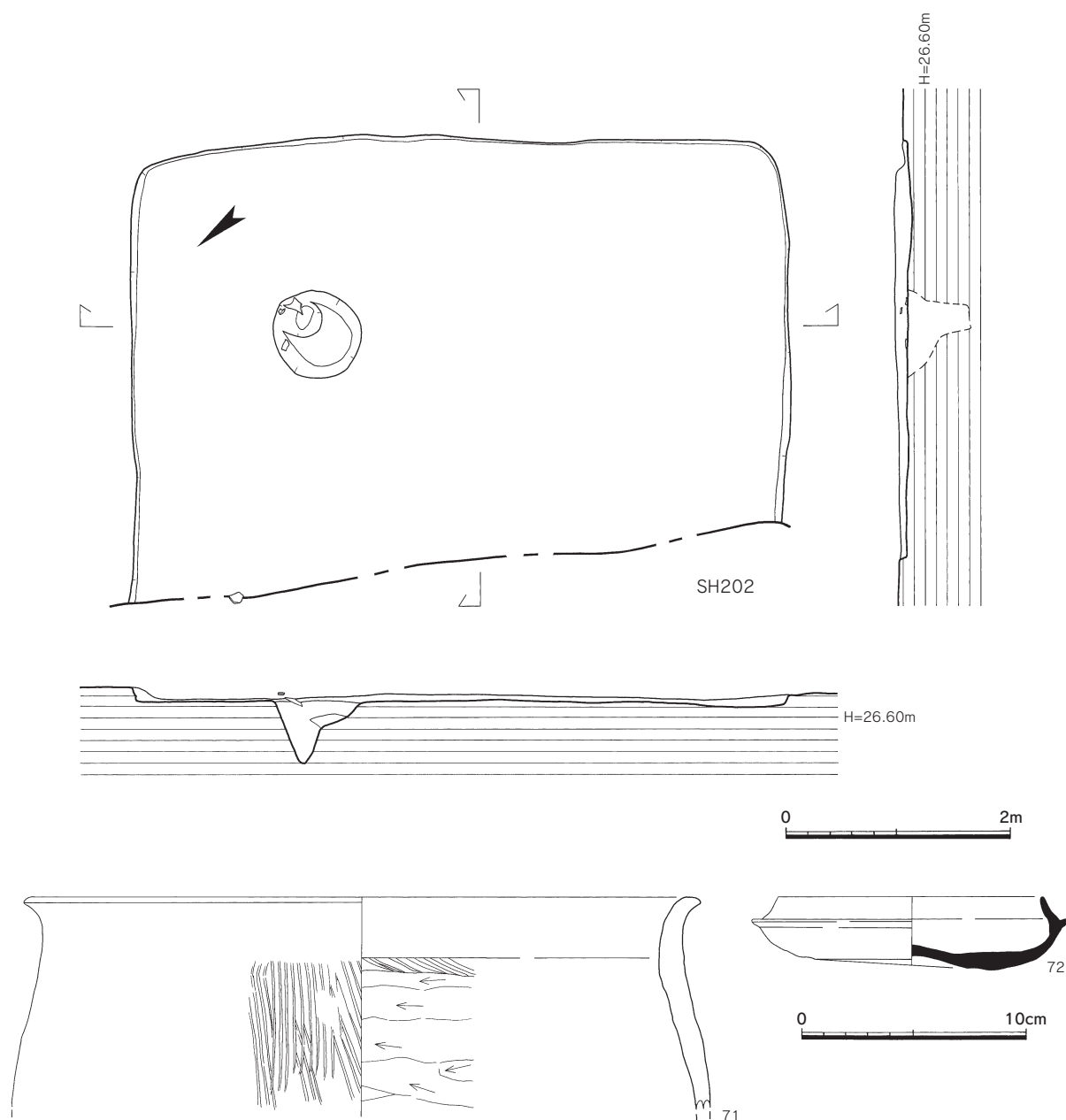


図32 SH202住居及び出土遺物（1/60・1/3）

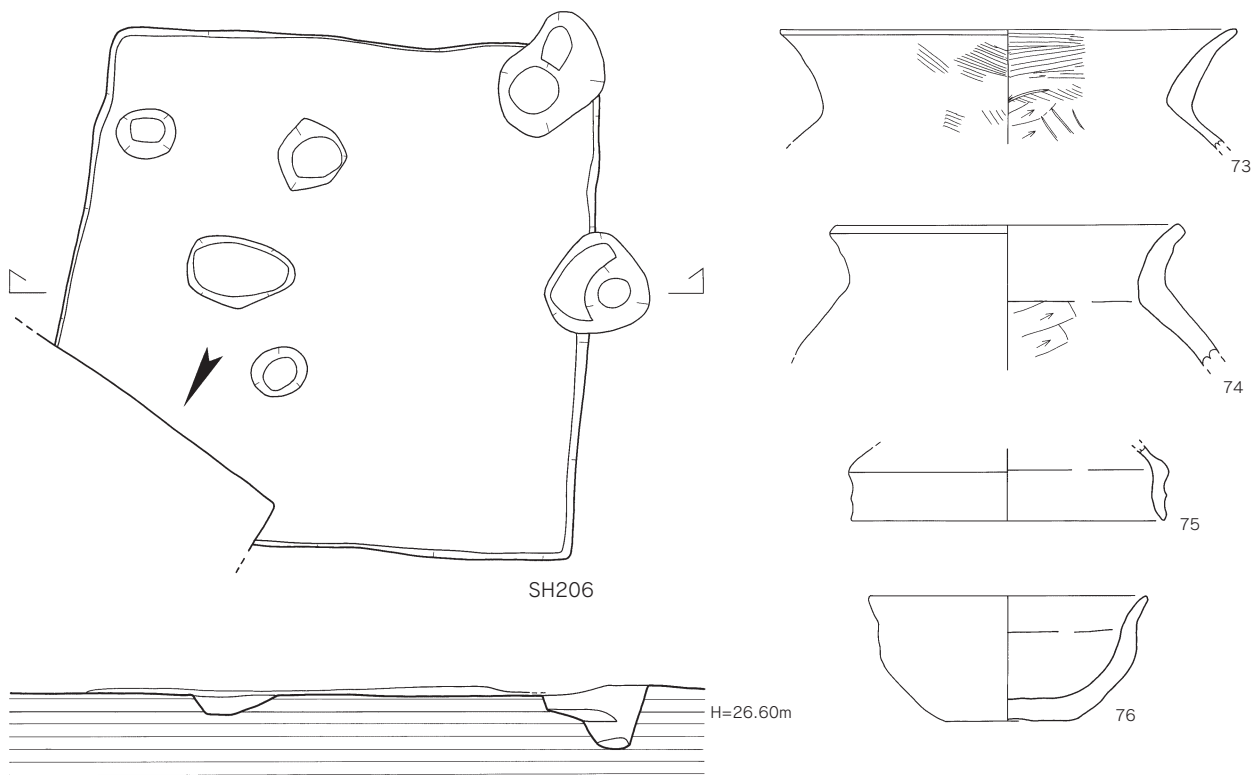


図33 SH206住居及び出土遺物 (1/60・1/30)

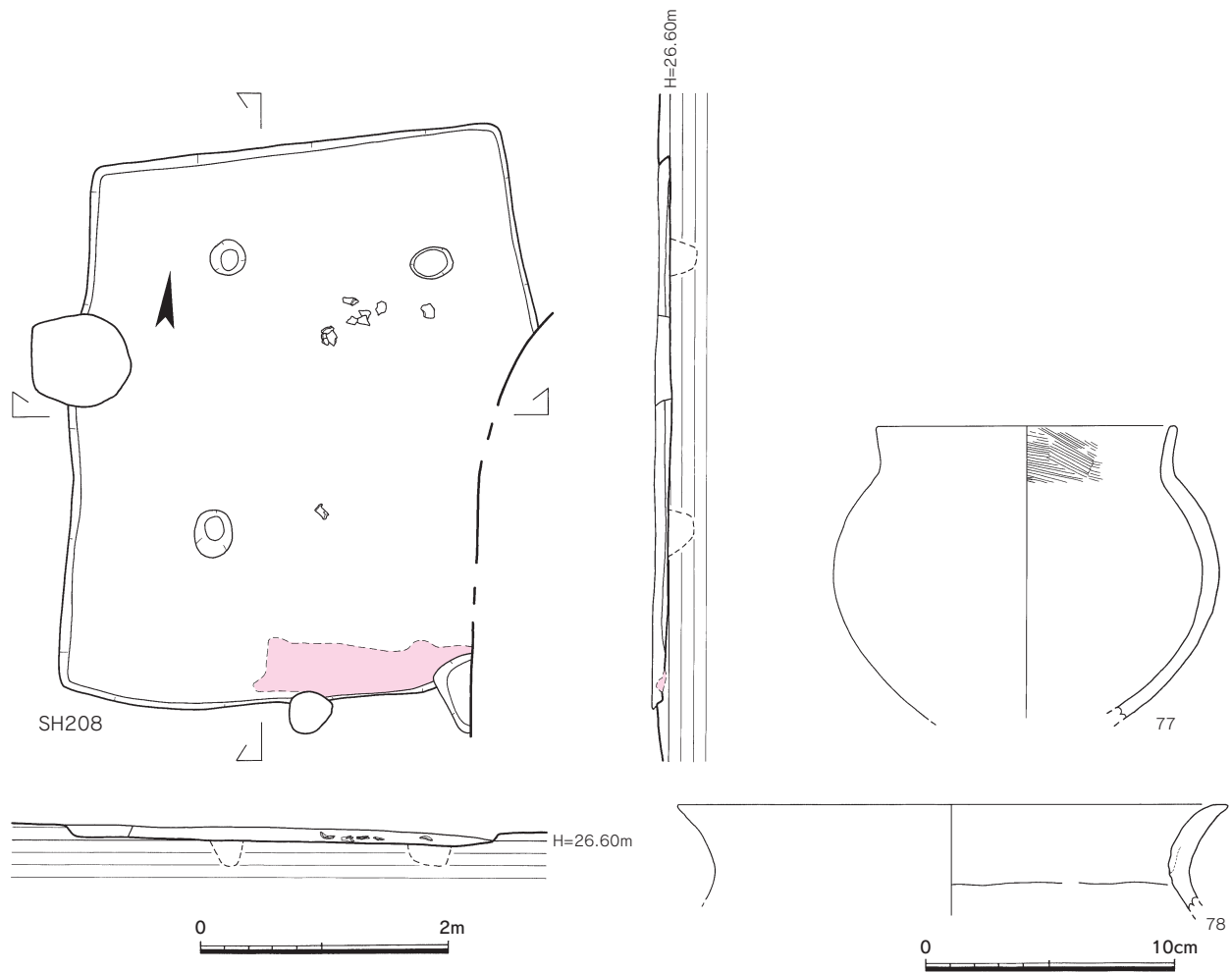


図34 SH208住居及び出土遺物1 (1/60・1/3)

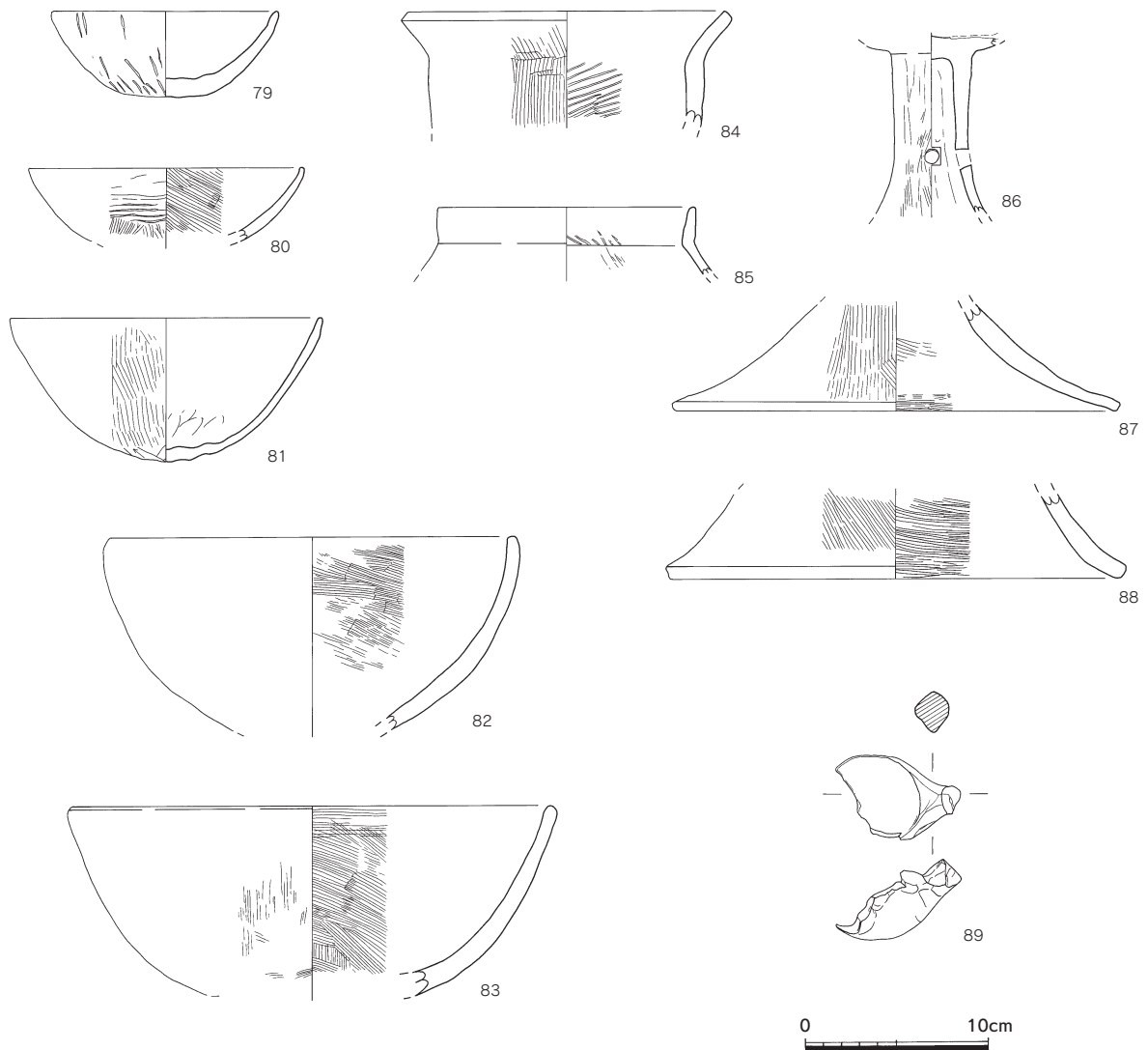


図35 SH208住居出土遺物2 (1/4)

SH208住居 (図34)

長軸4.50m、短軸3.70m、残存壁高0.11mを測る。支柱穴については3本が検出している。柱間は約2.10m、深さ最大約0.20mを測る。南壁際に焼土を検出しており竈と推定される。遺物は土師器壺が出土している。また多数の弥生土器も確認でき、鉢・高坏・匙形土器などが見られる。

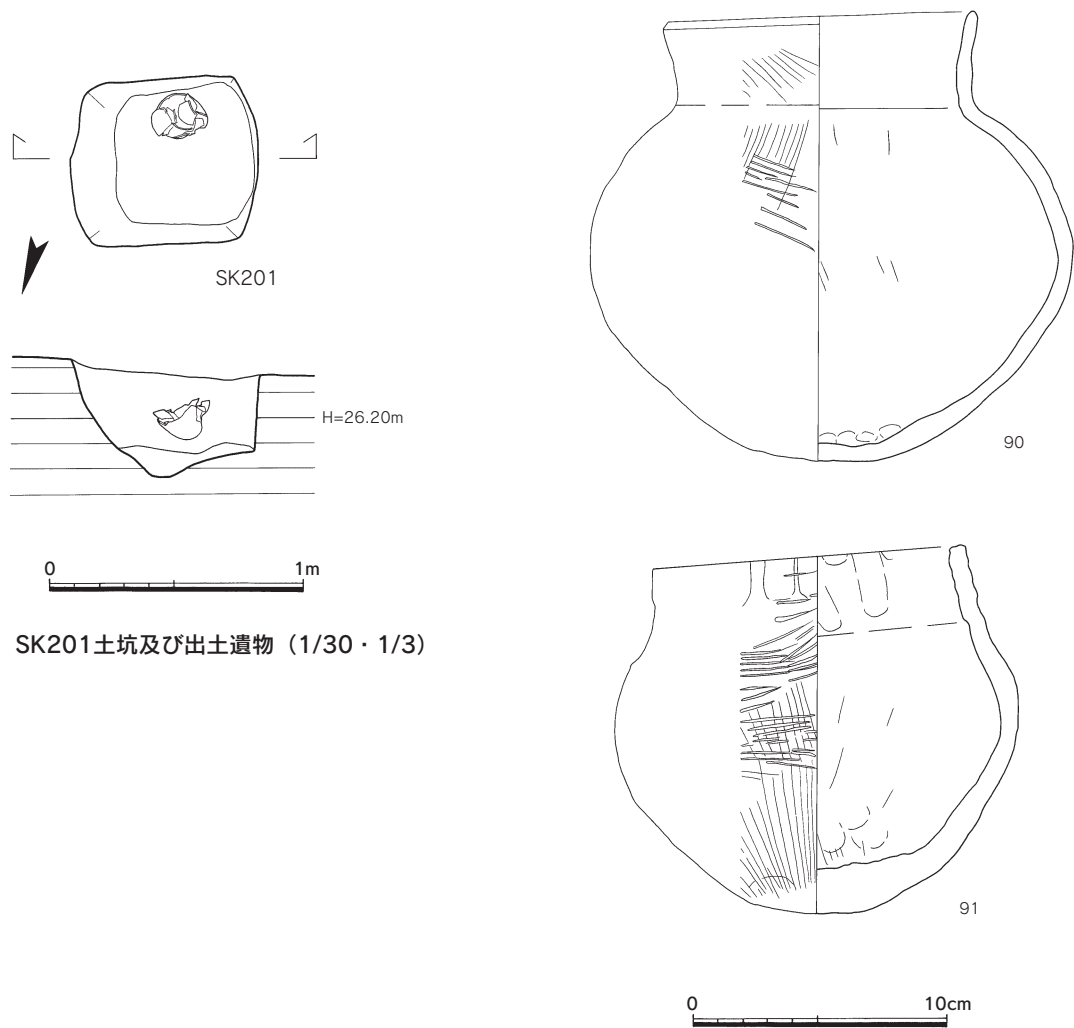


図36 SK201土坑及び出土遺物 (1/30・1/3)

SK201土坑 (図36)

規模構造：長軸0.75m、短軸0.66m、残存壁高0.45mを測る。方形のプランを有する。遺物は壺が出土している。

SK202土坑

規模構造：長軸4.50m、短軸3.50mを測る。土師器壺・甕・碗などが出土している。詳細については不明である。

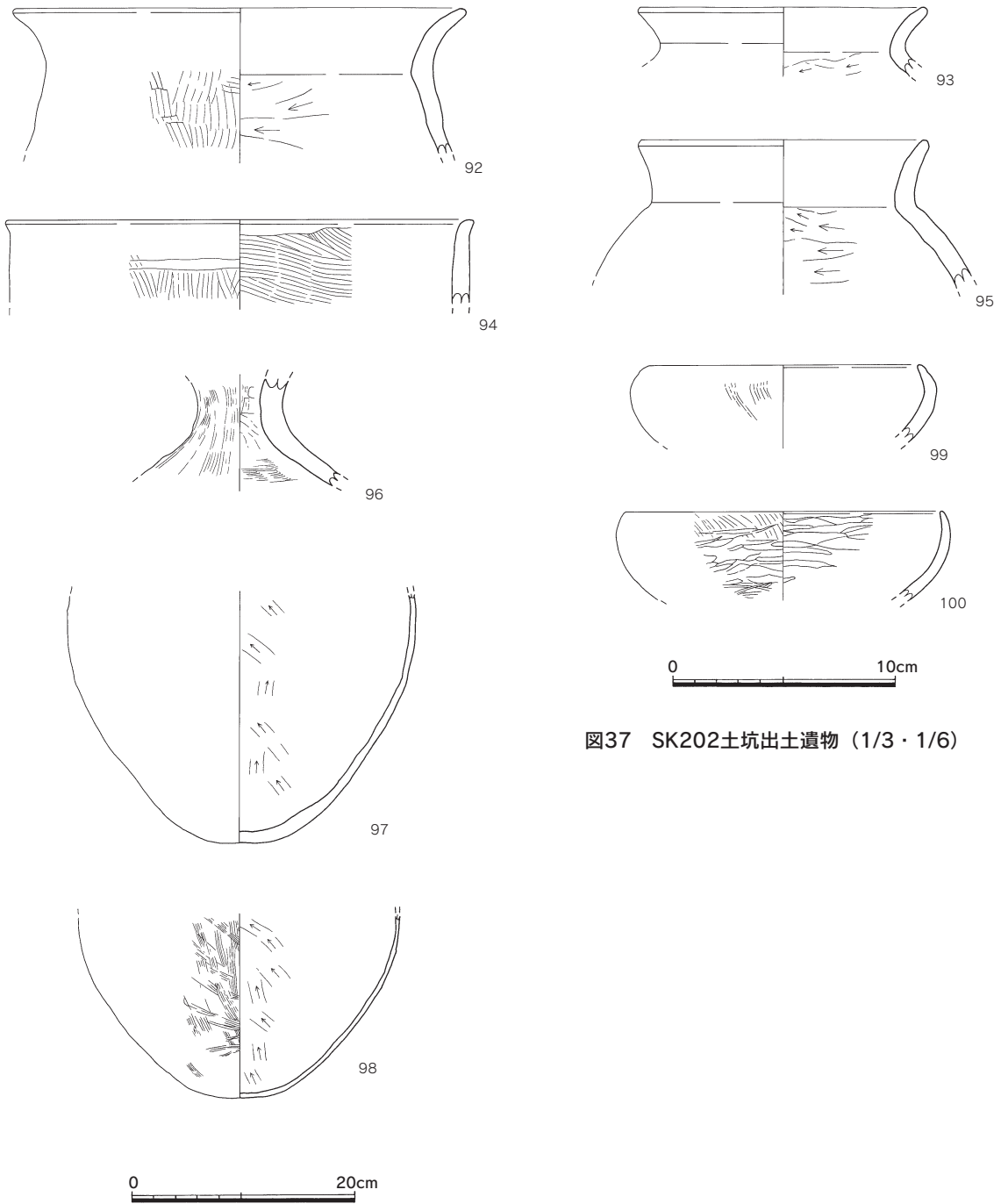
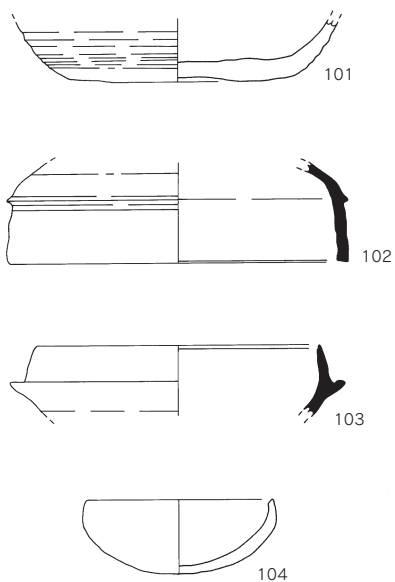


图37 SK202土坑出土遺物 (1/3 · 1/6)

SD201溝 (図38)

調査区の北側を東西に横断している溝である。幅最大2.60m、深さ0.50mを測る。遺物は弥生時代のものとして甕・壺・二重口縁壺・高坏・鋤先、須恵器は坏蓋・坏身などが出土する。須恵器坏蓋・坏身については6世紀前半期に位置するものである。



1. 灰黒色土(微砂粒を含む)
2. 灰褐色土(礫砂層・土器片を含む)
3. 黒褐色土(微砂粒を含む)
4. 茶褐色土(微砂粒を含む)
5. 黄褐色土
6. 黒褐色土



1. 黒褐色土
2. 茶褐色土
3. 黒色土
4. 黒褐色土(砂質)
5. 黄褐色土
6. 黒褐色土



図38 SD201溝及び出土遺物1 (1/60・1/3)

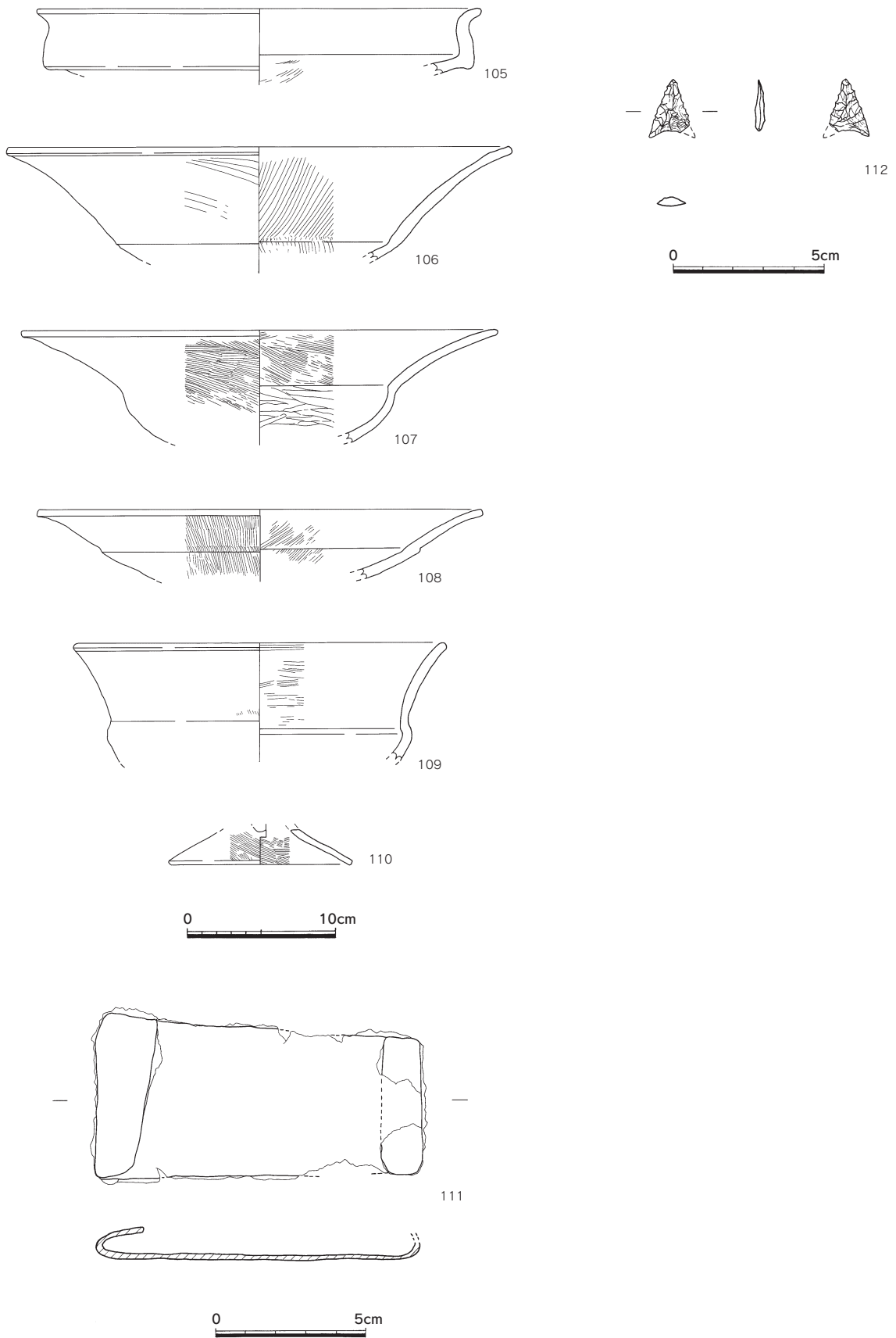


图39 SD201溝出土遺物2 (1/4 · 1/2)

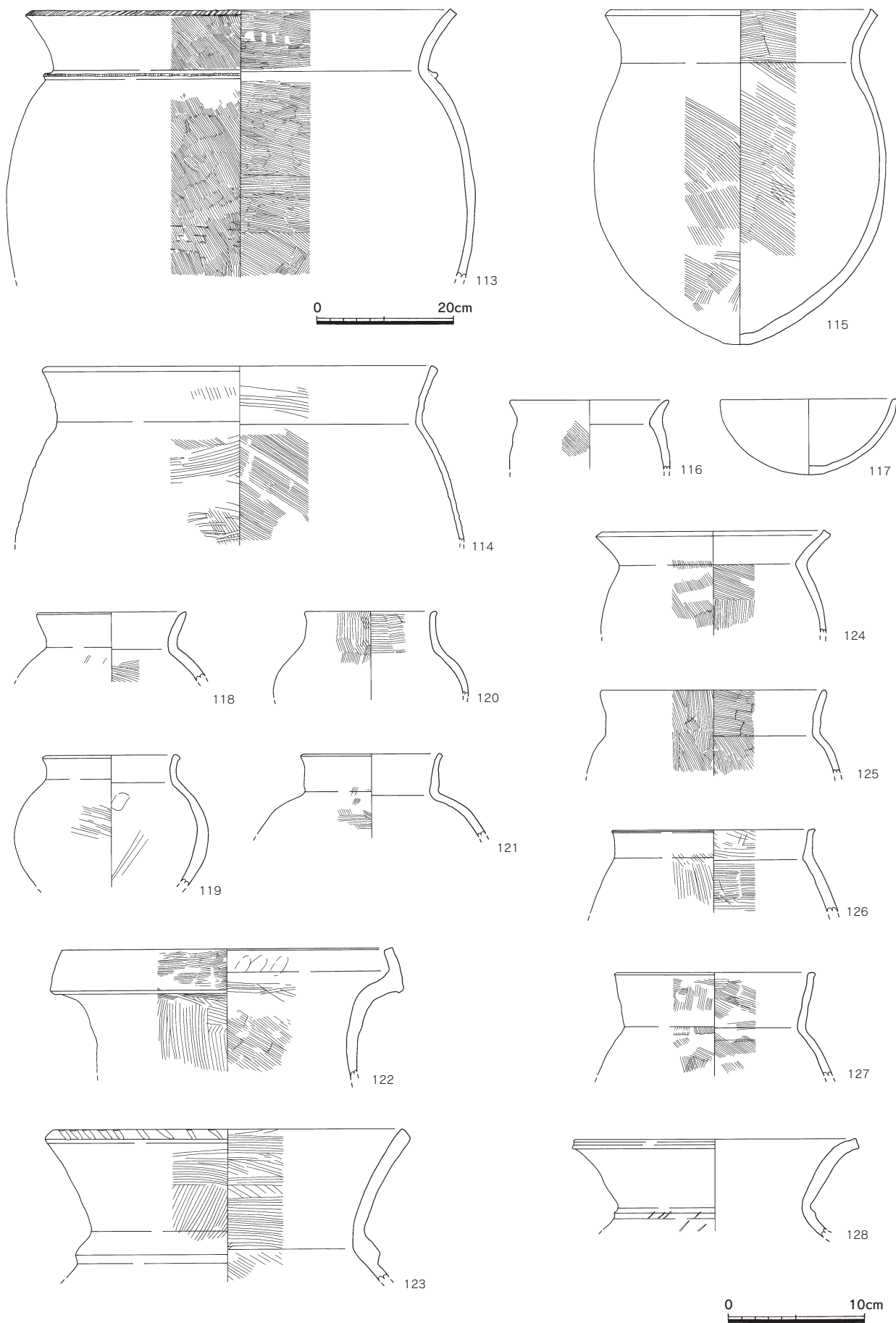
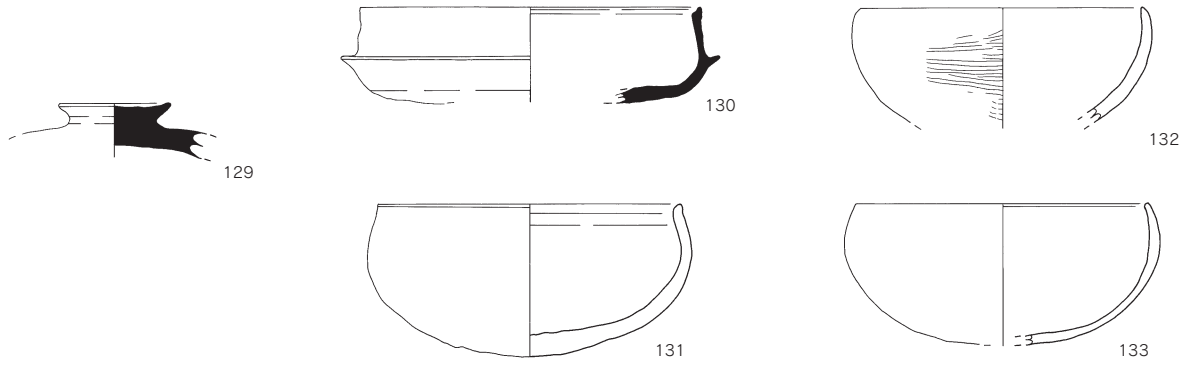
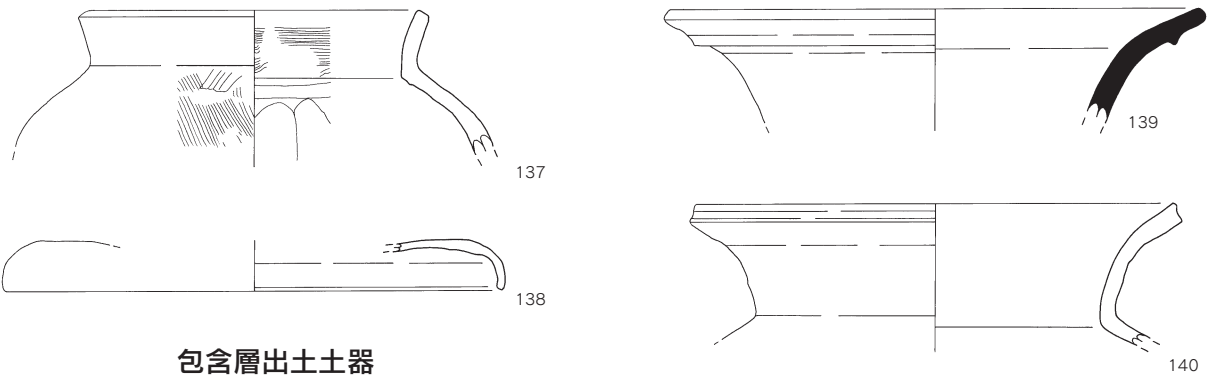
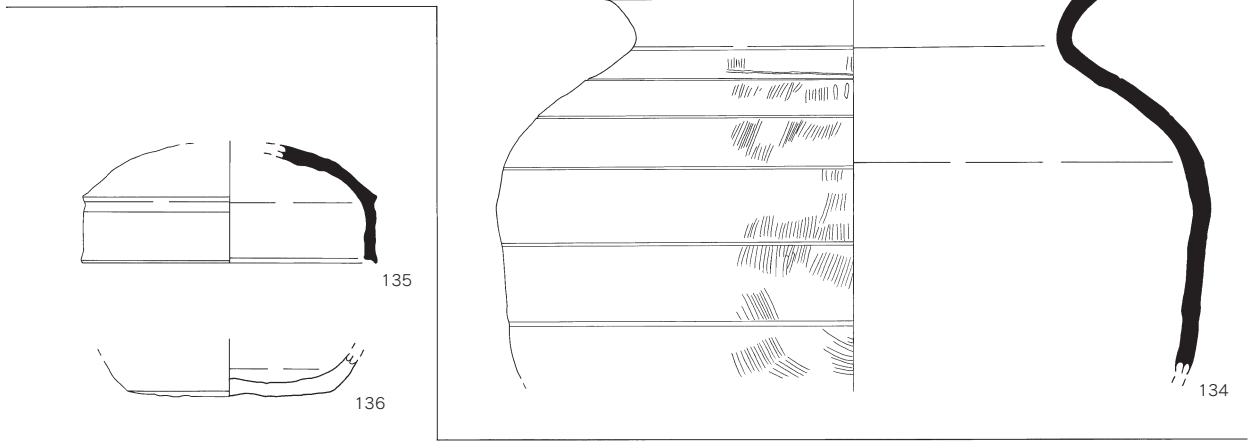


図40 SD201溝出土遺物3 (1/4・1/8)



小穴出土土器



包含層出土土器



图41 藪原遺跡2区出土遺物 (1/3)

藪原遺跡2区遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図26-51	SH201	弥生土器	壺	①12.2 ②20.7	口縁部～胴部1/4欠損	にぶい黄橙		030621
図26-52	SH201	弥生土器	器台	①(26.2)	口縁部一部残存	橙	内面：暗文有 外面：線刻文様有	030620
図26-53	SH201	弥生土器	器台	①(18.0) ②(8.0)	受部1/8残存	浅黄橙		030622
図26-54	SH201	弥生土器	器台	①14.6 ②16.8 裾部径16.0	受部1/4、脚裾部1/4欠損	橙		030623
図27-55	SH203	弥生土器	甃	①(22.0) ②(3.6)	口縁部一部残存	にぶい橙		030626
図29-56	SH204	弥生土器	甃	①(21.6) ②(6.0)	口縁部一部残存	にぶい黄橙(褐)	外面：工具痕	030637
図29-57	SH204	弥生土器	甃	①(22.0) ②(5.6)	口縁部一部残存	浅黄橙		030638
図29-58	SH204	弥生土器	甃	①(23.0) ②(8.3)	口縁部～胴部一部残存	明赤褐		030639
図29-59	SH204	弥生土器	甃	①(25.0) ②(6.8)	口縁部周辺一部残存	にぶい橙		030631
図29-60	SH204	弥生土器	甃	①(27.0) ②(9.2)	口縁部周辺一部残存	灰褐		030629
図29-61	SH204	弥生土器	甃	①(24.4) ②(12.7)	口縁部～胴部一部残存	にぶい橙		030634
図29-62	SH204	弥生土器	甃	①(29.0) ②(12.2)	口縁部～胴部1/4残存	灰褐		030633
図29-63	SH204	弥生土器	甃	①(22.6) ②(16.5)	口縁部～胴部一部残存	にぶい橙		030628
図29-64	SH204	弥生土器	甃	②(3.2) ③5.8	底部残存	明橙		030635
図29-65	SH204	弥生土器	壺	①(14.6) ②(9.0)	口縁一部、胴部1/4残存	にぶい橙		030636
図29-66	SH204	弥生土器	鉢	①(22.0) ②(9.8)	口縁部～胴部1/4残存	にぶい橙		030640
図29-67	SH204	弥生土器	器台	①(12.0) ②10.6 裾部径(15.0)	受部1/2、胴部2/3残存	にぶい橙		030630
図29-68	SH204	弥生土器	器台	②(12.8) 裾部径(18.0)	脚裾部1/4残存	橙		030632
図29-69	SH204	鉄器	鎌	残存長(8.0) 最大幅3.8 厚0.2	左欠損			030684
図30-70	SH205	弥生土器	壺	①(11.6) ②(13.9)	口縁部～底部付近1/3残存	橙	外面：丹残る	030641
図32-71	SH202	土師器	甃	①(30.0) ②(9.4)	口縁部周辺1/4残存	橙	内面：工具痕	030624
図32-72	SH202	須恵器	坏身	①11.8 ②3.3	口縁部1/2欠損	灰		030625
図33-73	SH206	土師器	甃	①(18.0) ②(4.7)	口縁部周辺一部残存	橙		030642
図33-74	SH206	土師器	甃	①(14.0) ②(5.6)	口縁部周辺1/3残存	にぶい褐		030643
図33-75	SH206	土師器	坏蓋	①(12.4) ②(2.9)	口縁部周辺1/4残存	灰赤		030645
図33-76	SH206	土師器	坏	①(11.0) ②5.0	口縁部～底部1/4残存	暗褐	内外面：黒塗り	030644
図34-77	SH208	土師器	壺	①(12.0) ②(11.8)	口縁部～胴部1/3残存	橙		030655
図34-78	SH208	土師器	甃	①(22.0) ②(4.2)	口縁部周辺一部残存	明赤褐		030646
図35-79	SH208	弥生土器	坏	①(12.4) ②4.7	口縁部1/4、底部残存	にぶい橙		030648
図35-80	SH208	弥生土器	坏	①(15.0) ②(4.0)	口縁部1/6、胴部1/4残存	にぶい橙		030650
図35-81	SH208	弥生土器	鉢	①(17.0) ②7.8	口縁部一部、胴部1/3、底部残存	橙		030656
図35-82	SH208	弥生土器	鉢	①(22.0) ②(10.5)	口縁部～底部付近にかけ1/4残存	浅黄橙		030658
図35-83	SH208	弥生土器	鉢	①(26.4) ②(10.3)	口縁部～底部付近1/6残存	暗褐(にぶい橙)		030657
図35-84	SH208	弥生土器	甃	①(17.2) ②(6.4)	口縁部周辺一部残存	にぶい橙		030653
図35-85	SH208	弥生土器	壺	①(14.0) ②(3.7)	口縁部周辺1/6残存	にぶい橙		030647

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図35-86	SH208	弥生土器	高坏	②(9.7)	坏と脚裾部欠損	にぶい橙	穿孔	030651
図35-87	SH208	弥生土器	高坏	②(5.9) 裾部径(24.0)	脚裾部一部残存	浅黄橙		030654
図35-88	SH208	弥生土器	高坏	①(24.4) ②(4.6)	脚裾部1/5残存	にぶい橙		030652
図35-89	SH208	弥生土器	杓形土器	—	—	にぶい橙		030649
図36-90	SK201	弥生土器	壺	①12.0 ②17.8	口縁部、底部一部欠損	にぶい橙(淡橙)		030659
図36-91	SK201	弥生土器	壺	①12.3 ②14.6	口縁部、体部一部欠損	橙		030660
図37-92	SK202	土師器	甕	①(20.0) ②(6.5)	口縁部周辺1/6残存	浅黄橙		030666
図37-93	SK202	土師器	甕	①(13.0) ②(3.1)	口縁部周辺1/4残存	浅黄橙		030664
図37-94	SK202	土師器	甕	①(11.0) ②(3.8)	口縁部周辺1/8残存	浅黄橙	線刻文様	030665
図37-95	SK202	土師器	壺	①13.0 ②(6.6)	口縁部～頸部下位1/2残存	にぶい橙		030663
図37-96	SK202	弥生土器	高坏	—	脚中部残存	黄橙		030669
図37-97	SK202	土師器	甕	②(22.5)	底部周辺～胴一部残存	明赤褐		030661
図37-98	SK202	土師器	甕	②(16.5)	底部～胴部1/4残存	にぶい橙		030662
図37-99	SK202	土師器	碗	①(12.0) ②(3.5)	口縁部周辺一部残存	橙		030668
図37-100	SK202	土師器	碗	①(14.0) ②(4.0)	口縁部周辺一部残存	橙		030667
図38-101	SD201	土師器	壺	②(2.5) ③(8.6)	底部1/3残存	橙		030681
図38-102	SD201	須恵器	坏蓋	①(13.2) ②(3.9)	口縁部1/4残存	青灰(灰)		030678
図38-103	SD201	須恵器	坏身	①(11.2) ②(2.8)	口縁部周辺1/6残存	灰		030682
図38-104	SD201	土師器	碗	①(7.3) ②3.0	口縁部～底部にかけ一部残存	橙		030676
図39-105	SD201	弥生土器	壺	①(30.0) ②(4.4)	口縁部周辺一部残存	にぶい橙	二重口縁壺	030688
図39-106	SD201	弥生土器	高坏	①(34.0) ②(7.6)	坏部1/4残存	にぶい橙		030698
図39-107	SD201	弥生土器	高坏	①(32.0) ②(7.5)	口縁部～坏部にかけ1/6残存	橙		030685
図39-108	SD201	弥生土器	高坏	①(29.8) ②(4.7)	口縁部～坏部にかけ1/4残存	橙		030686
図39-109	SD201	弥生土器	高坏	①(25.0) ②(8.0)	口縁部1/4残存	橙		030695
図39-110	SD201	弥生土器	高坏	②(2.1) 裾部径(12.4)	裾部一部残存	橙(にぶい黄橙)	穿孔	030677
図39-111	SD201	鉄器	鋤先	残存長11.0 最大幅5.5 厚0.2	一部欠損	—		030702
図39-112	SD201	石器	石鋸	長さ：1.65 幅：1.0 厚さ：0.3	一部欠損	黒		030692
図40-113	SD201	弥生土器	甕	①(60.0) ②(38.7)	口縁部1/3～胴中部1/6残存	浅黄橙		030697
図40-114	SD201	弥生土器	甕	①(28.6) ②(12.7)	口縁部～胴上半部1/8残存	浅黄橙(橙)		030700
図40-115	SD201	弥生土器	甕	①(19.8) ②(24.4)	1/2残存	にぶい褐		030693
図40-116	SD201	弥生土器	甕	①(11.6) ②(5.0)	口縁部一部残存	橙(にぶい橙)		030675
図40-117	SD201	弥生土器	坏	①12.8 ②5.5	口縁部1/4欠損	浅黄橙		030696
図40-118	SD201	弥生土器	甕	①(10.8) ②(5.0)	口縁部一部残存	浅黄橙(褐灰)		030673
図40-119	SD201	弥生土器	壺	①(10.0) ②(9.6)	口縁部～胴下半部1/3残存	浅黄橙		030691
図40-120	SD201	弥生土器	壺	①(9.6) ②(6.3)	口縁部一部残存	浅黄 (にぶい黄橙)		030671

第4章 調査の内容

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図40-121	SD201	弥生土器	壺	①(10.3) ②(6.1)	口縁部～胴部一部残存	浅黄橙		030672
図40-122	SD201	弥生土器	壺	①(24.0) ②(9.6)	口縁部～頸部付近1/4残存	にぶい橙	二重口縁壺	030687
図40-123	SD201	弥生土器	壺	①(26.4) ②(11.2)	口縁部～頸部1/5残存	橙(灰褐)		030699
図40-124	SD201	弥生土器	甕	①(17.0) ②(7.4)	口縁部～胴部一部残存	黒褐(橙)		030670
図40-125	SD201	弥生土器	甕	①(16.2) ②(6.2)	口縁部～周辺1/6残存	橙		030690
図40-126	SD201	弥生土器	甕	①(14.8) ②(6.0)	口縁部～周辺一部残存	橙(灰褐)		030694
図40-127	SD201	弥生土器	甕	①(14.6) ②(7.5)	口縁部一部残存	にぶい赤橙		030674
図40-128	SD201	弥生土器	壺	①(20.4) ②(7.2)	口縁部周辺1/6残存	にぶい橙		030689
図41-129	P4	須恵器	坏蓋	—	つまみ有	にぶい橙(赤橙)		030709
図41-130	P11	須恵器	坏身	①(13.4) ②3.8	口縁部～底部1/3残存	灰白		030712
図41-131	P11	土師器	碗	①12.0 ②7.0	口縁部にかけ1/4欠損	明赤褐(灰褐)		030715
図41-132	P11	土師器	碗	①(11.2) ②(4.5)	口縁部一部、胴部1/4残存	橙		030713
図41-133	P11	土師器	碗	①(11.6) ②(5.5)	口縁部～体部にかけ1/4残存	橙		030714
図41-134	P16	須恵器	壺	①(20.0) ②(15.6)	口縁部1/6、口頸基部～体部1/4残存	褐灰(灰)		030716
図41-135	包含層	須恵器	坏蓋	①(11.6) ②(4.6)	口縁部～上部一部残存	灰		030706
図41-136	包含層	土師器	壺	②(1.7) ③(8.1)	底部1/2残存	浅黄橙		030708
図41-137	包含層	土師器	壺	①(13.7) ②(5.7)	口縁部一部、頸部1/3残存	橙(にぶい赤褐)		030707
図41-138	包含層	土師器	蓋	①(19.5) ②(2.0)	口縁部周辺1/8残存	橙		030705
図41-139	包含層	須恵器	壺	①(21.3) ②(4.5)	口縁部一部残存	紫灰(灰)		030703
図41-140	包含層	土師器	壺	①(18.7) ②(5.6)	口縁部～頸部1/6残存	橙(浅黄橙)		030704



図42 遺構配置図 (1/200)

藪原遺跡3区

鳥栖市田代外町字藪原に所在し、標高は約26.25mを測る。丘陵先端部に位置しており南地区からは遺構は確認できなかった。検出した主な遺構は溝2条、住居3軒、掘立柱建物が1棟である。溝は弥生時代後期後半以降のものと思われ、礫等とともに土器片が多数出土している。掘立柱建物は1間×1間の隅丸方形に近い形を有し、住居は概ね古墳時代後半に属するが、ほとんど調査区外に位置するため平面プラン等については不明である。

- 1. 明黄褐色土
 - 2. 灰色砂質土
 - 3. 暗灰色土
 - 4. 淡灰褐色砂質土
 - 5. 黒褐色砂質土
 - 6. 黒褐色砂質土
 - 7. 暗灰色土
 - 8. 淡灰褐色砂質土
 - 9. 暗灰色砂質土
 - 10. 暗灰色土
 - 11. 暗灰色土
 - 12. 暗灰色土
 - 13. 黒褐色土
- 下層(多数の礫、砂を含む)
 中層(砂質系の土層)
 上層

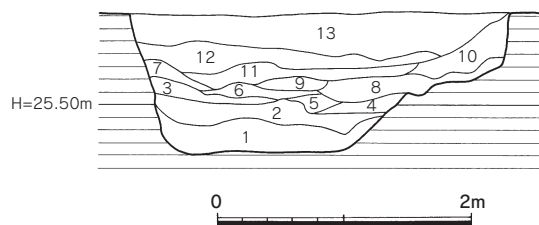


図43 SD301溝土層図 (1/60)

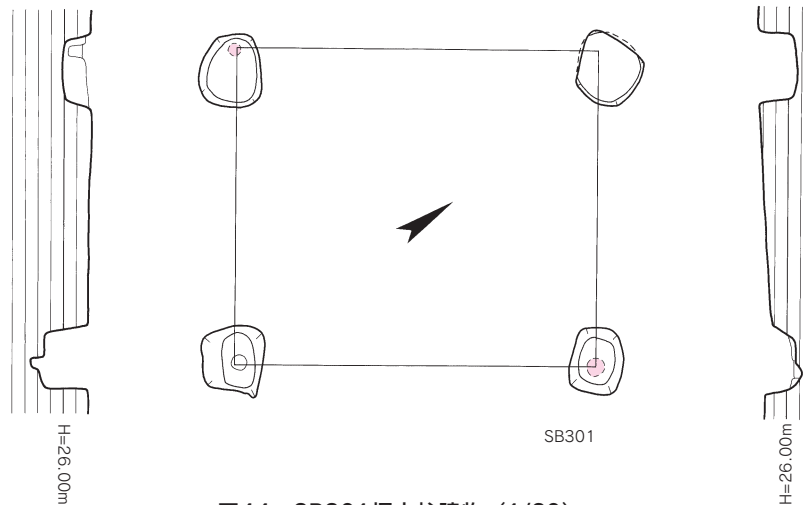


図44 SB301掘立柱建物 (1/60)

SB301掘立柱建物 (図44)

規模構造：南北1間(柱間2.85m)×東西1間(柱間2.50m) 床面積約7.13m²。

特 徴：柱穴掘方は概ね方形。深さ最大約0.50m、柱穴約0.14mを測る。

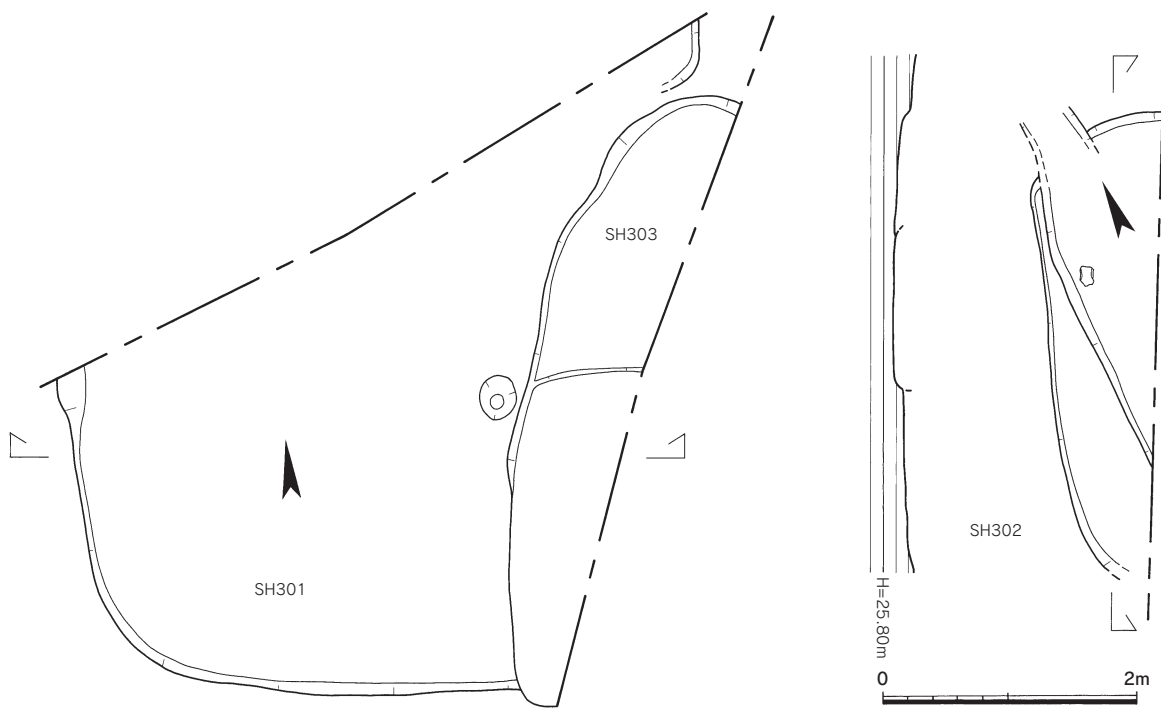


図46 SH302住居 (1/60)



図45 SH301・SH303住居 (1/60)

SH301住居 (図45)

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明である。残存壁高0.45mを測る。SH303に切られている。竈および支柱穴については確認できなかった。遺物は甑・須恵器(坏蓋)・紡錘車等が出土する。

SH302住居（図46）

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明である。残存壁高0.10mを測る。竈および支柱穴については確認できなかった。遺物はミニチュア土器（支脚）が出土する。

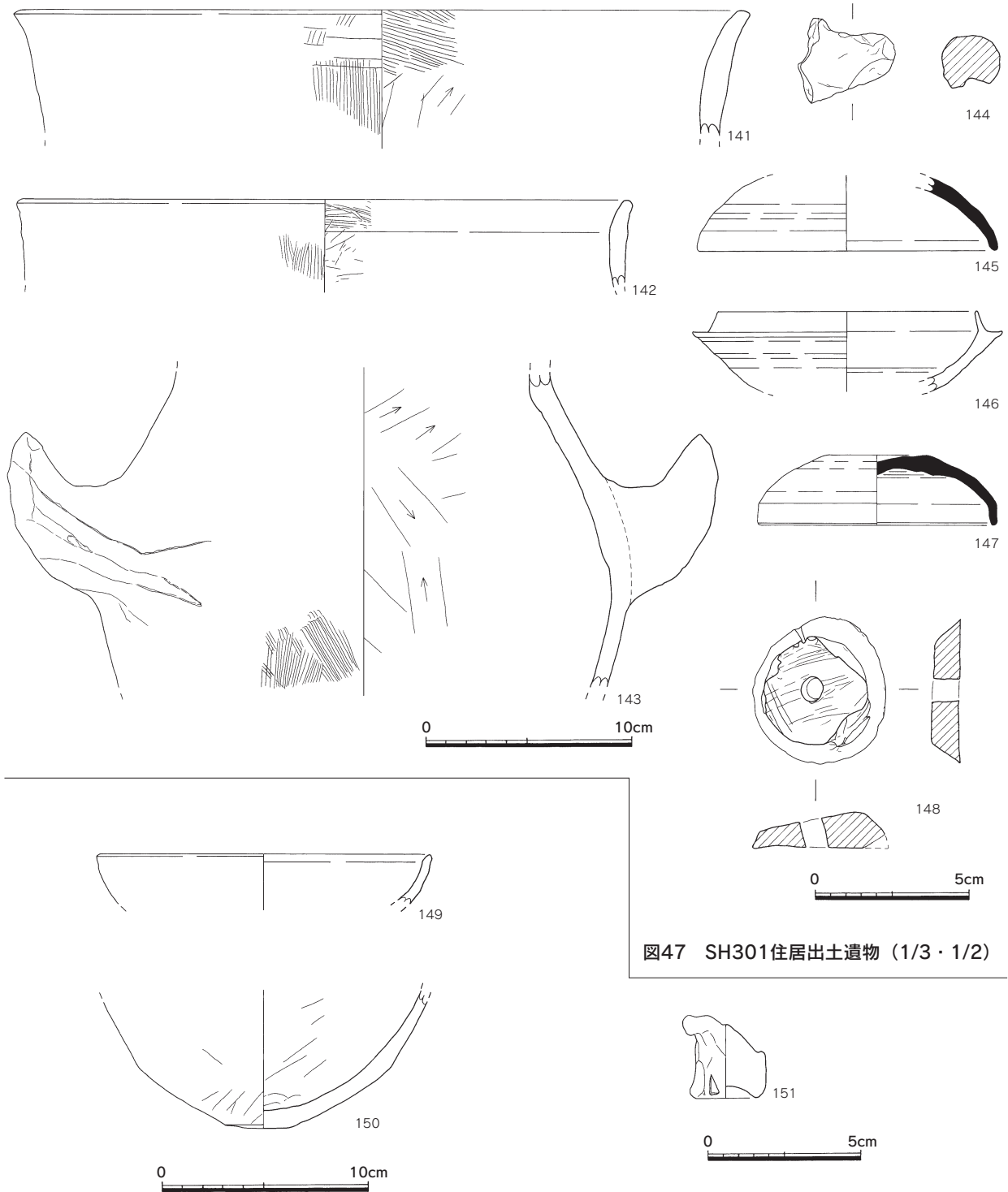


図47 SH301住居出土遺物（1/3・1/2）

図48 SH302住居出土遺物（1/3・1/2）

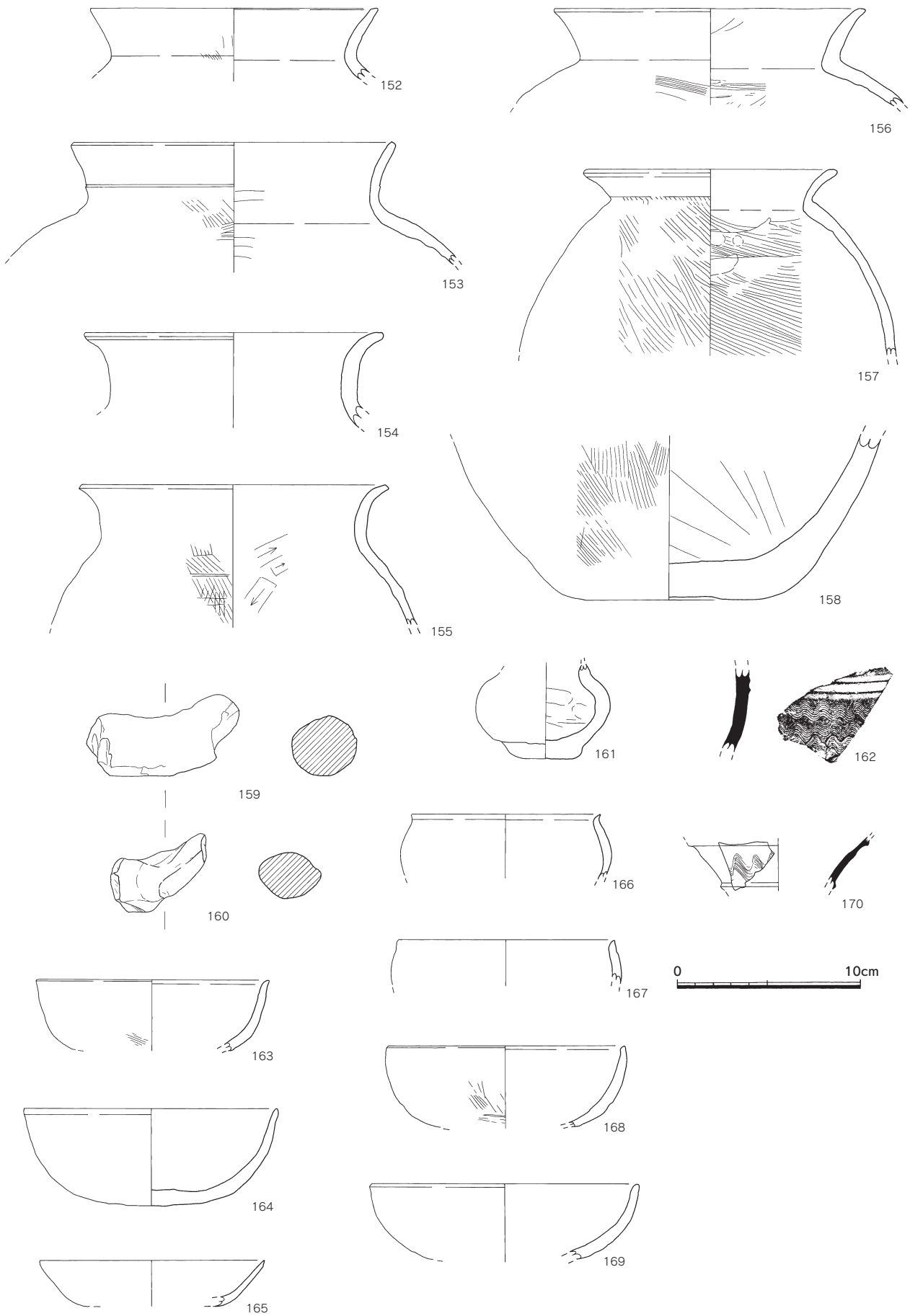


図49 SD301溝上層出土遺物1 (1/3)

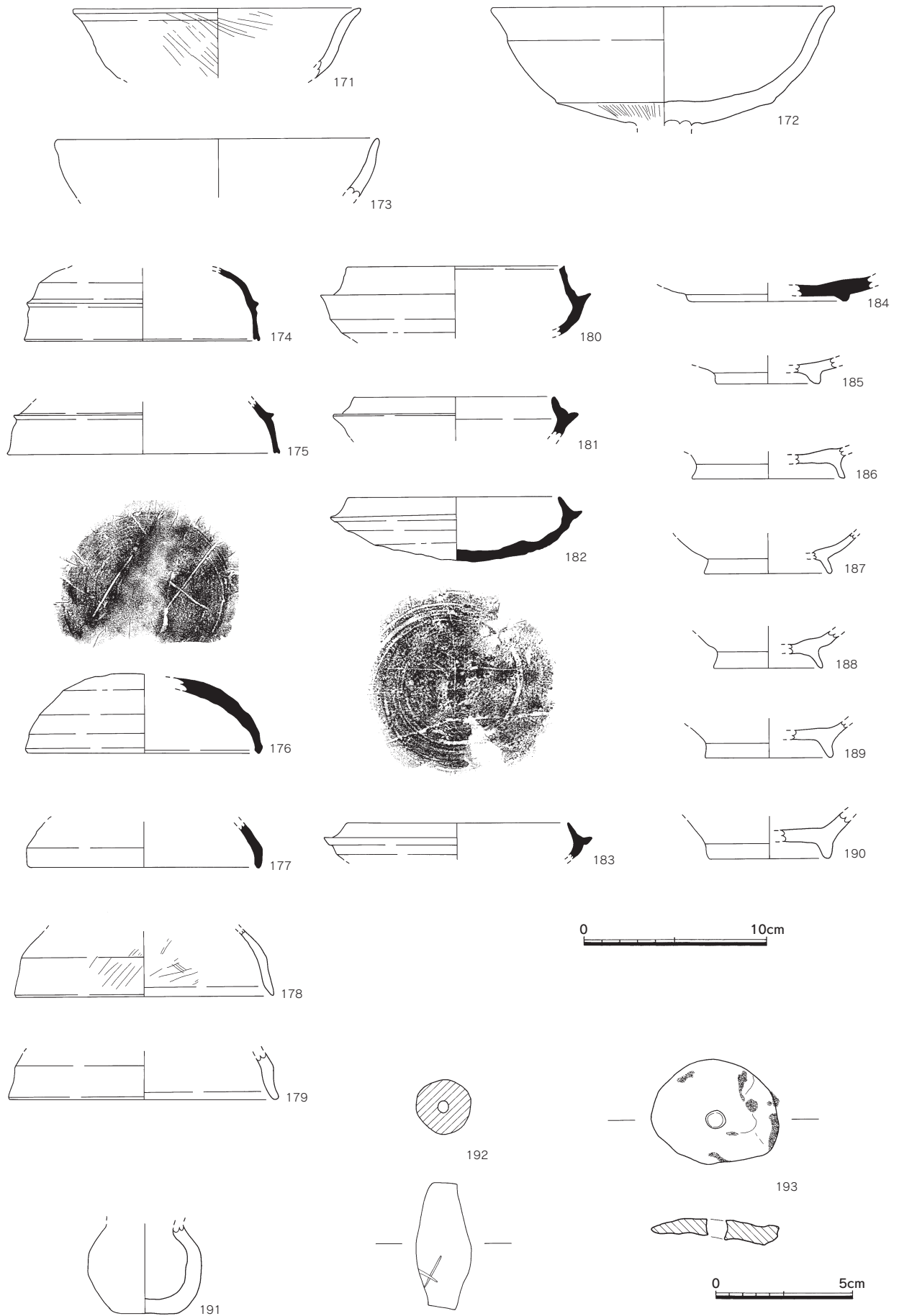


図50 SD301溝上層出土遺物2 (1/3・1/2)

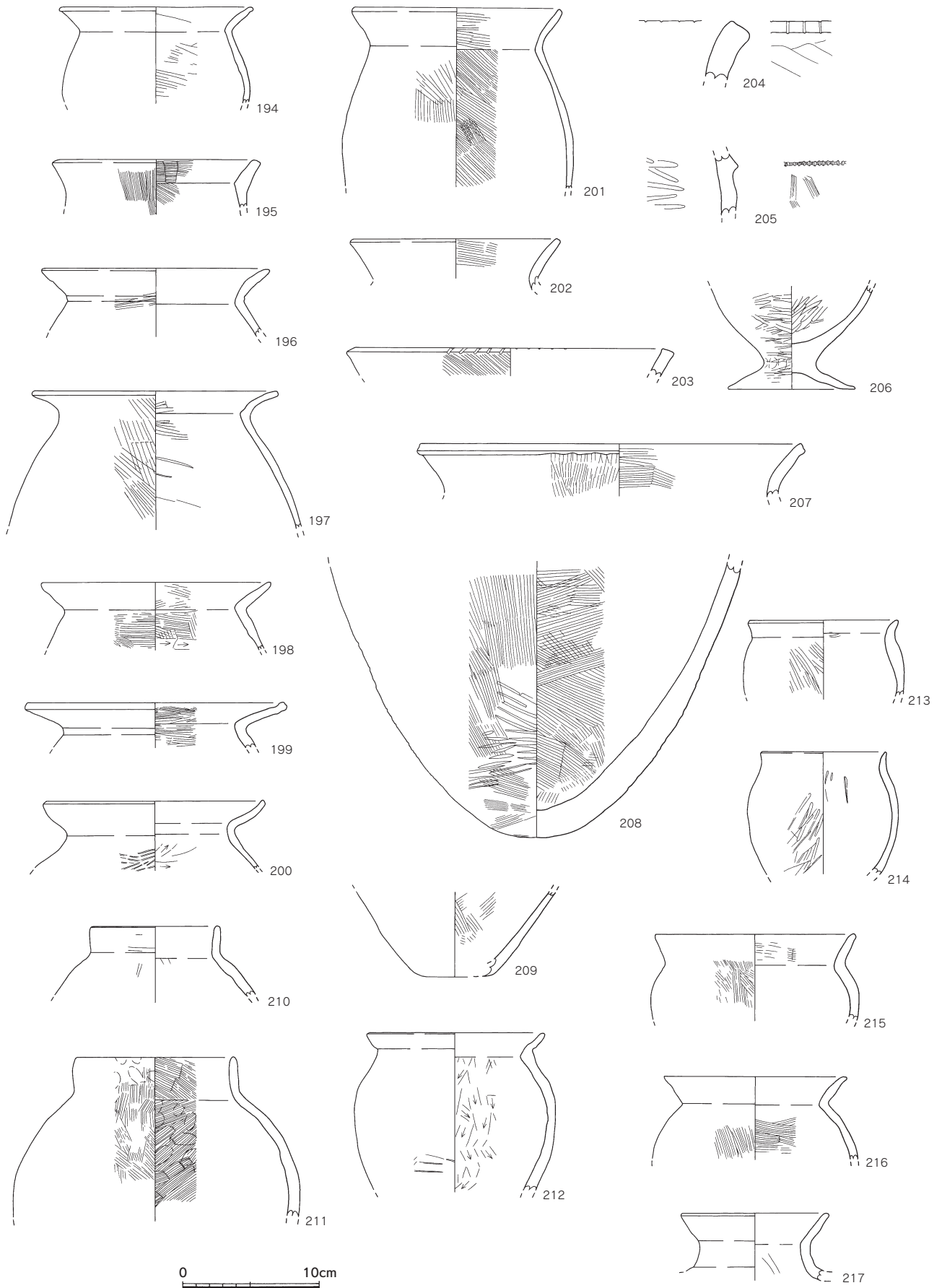


図51 SD301溝上層出土遺物3 (1/4)

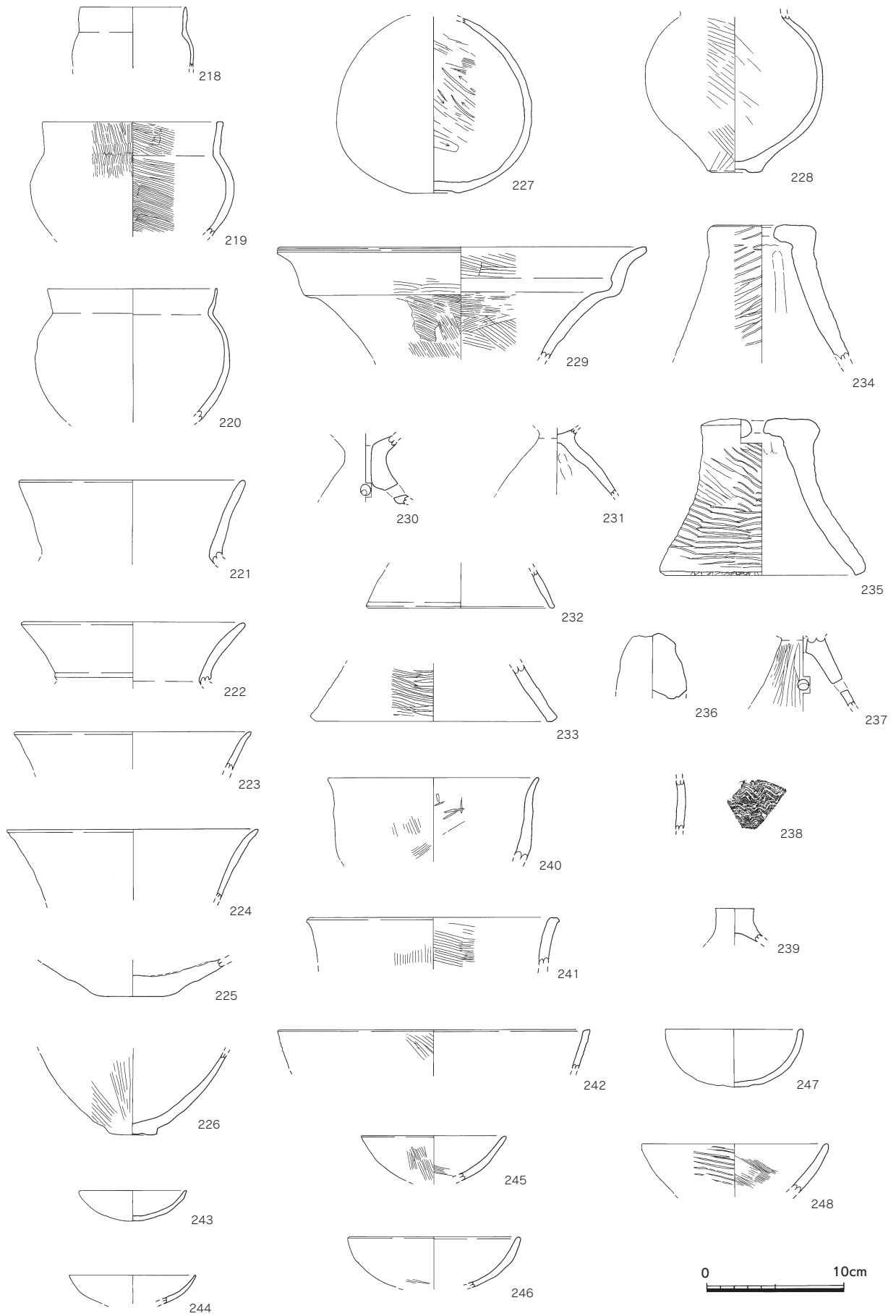


图52 SD301溝上層出土遺物4 (1/4)

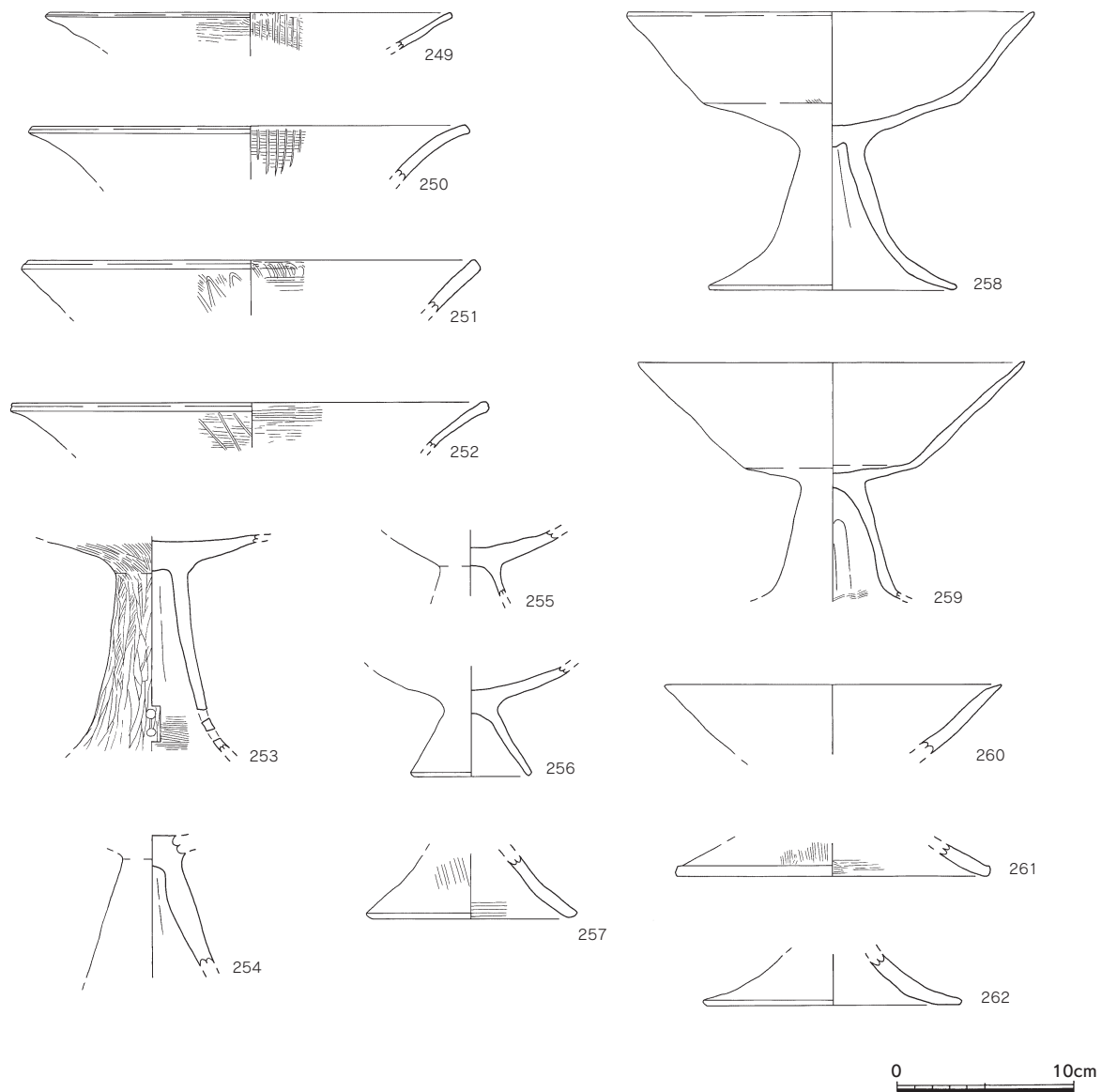


図53 SD301溝上層出土遺物5 (1/4)

SH303住居 (図45)

大部分が調査区外に位置するため平面プラン、長軸及び短軸については不明である。残存壁高0.15mを測る。SH301を切っている。

SD301溝 (図43)

調査区内をほぼ南北に横断している。20.00m強の長さを持ち、更に北に続いている。ただ南側についてはほぼ終わりになるようである。溝幅は3.00m強を測る。層位は大きく3層に分かれ、上層については弥生～中世に至る遺物がみられる。中層から下層にかけては弥生時代後期終末以降の遺物が出土するが、小片が多く多数の礫とともに確認された。水路としての役割を担っていたものと思われる。なお藪原遺跡2区からも同様な溝が検出されている。

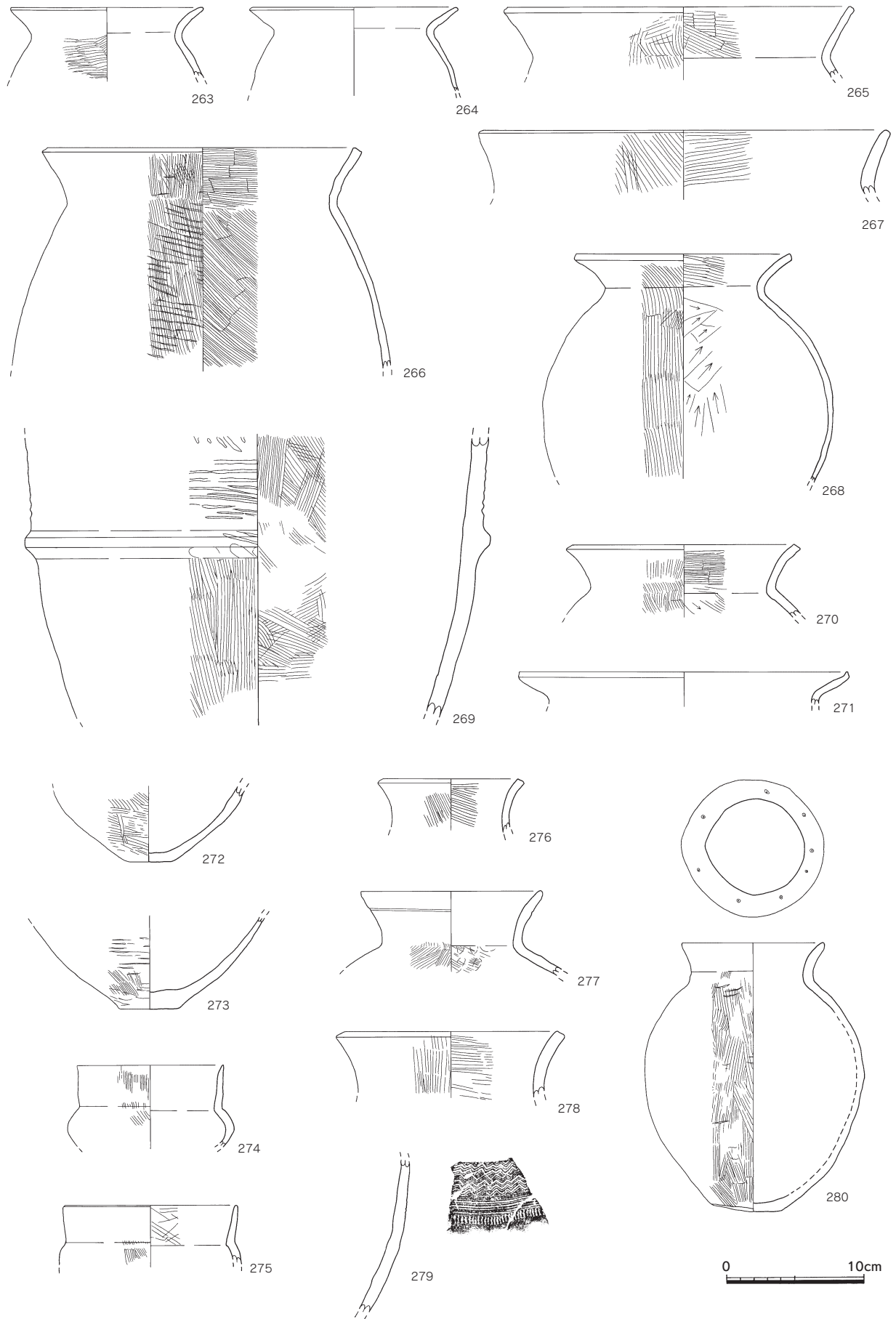


图54 SD301溝中層出土遺物1 (1/4)

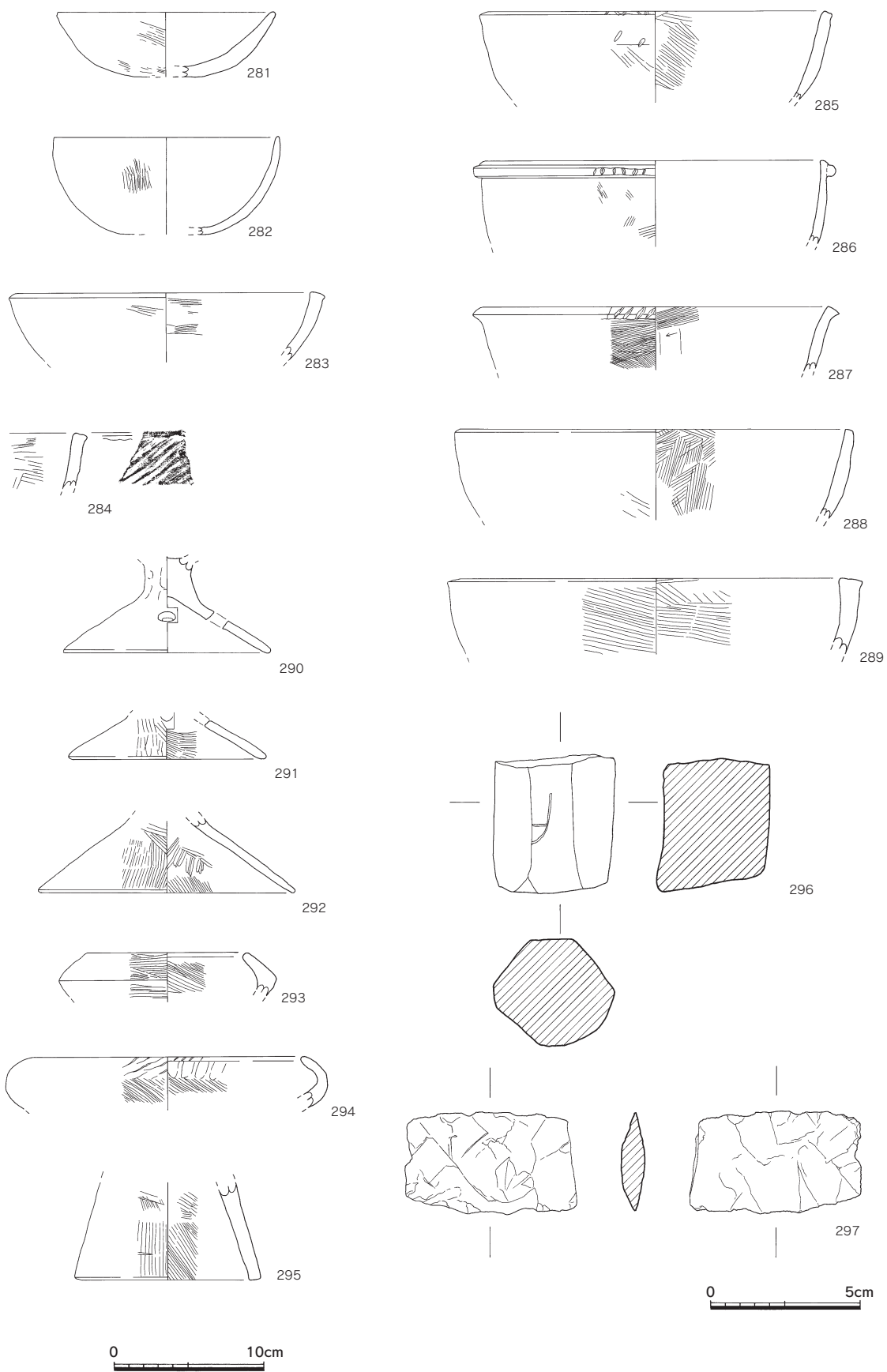


図55 SD301溝中層出土遺物2 (1/4・1/2)

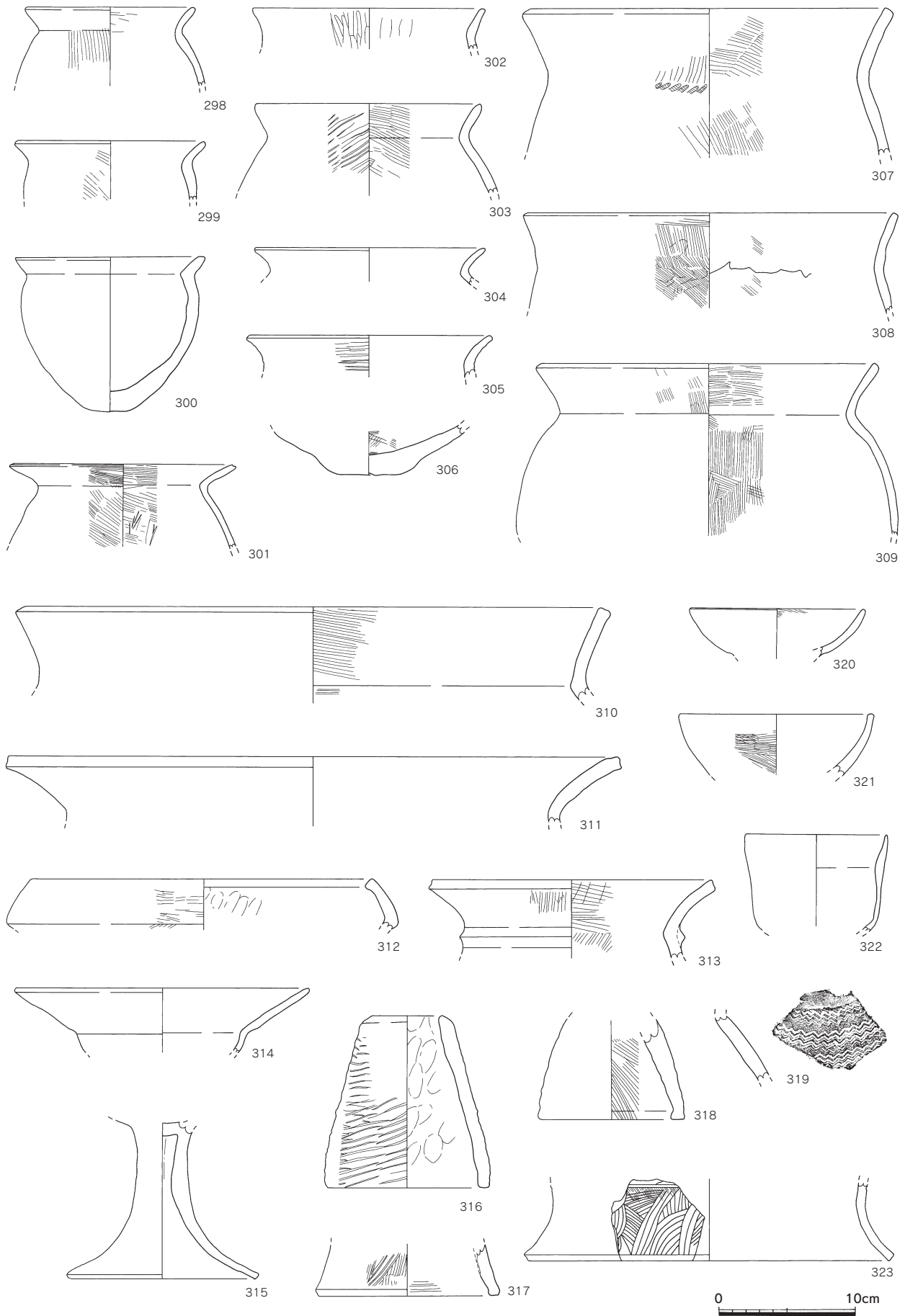


图56 SD301溝下層出土遺物1 (1/4)

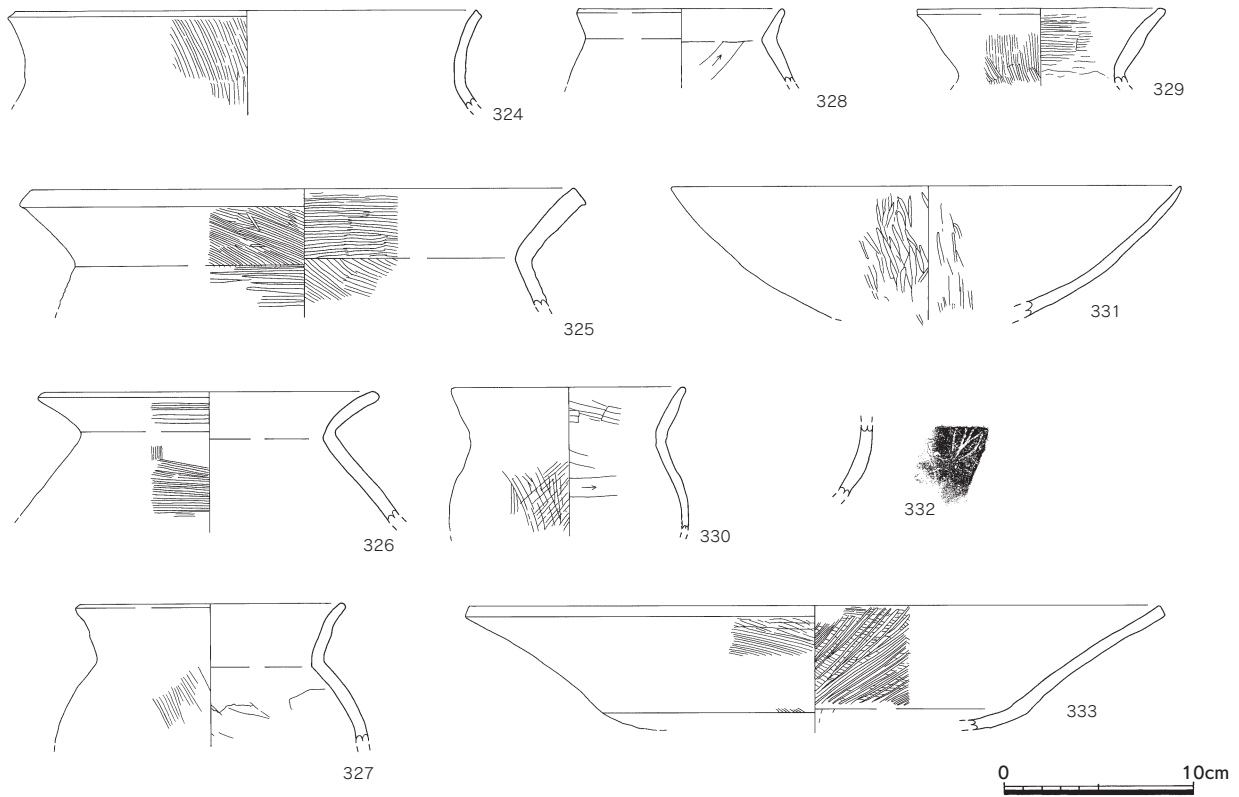


図57 SD301溝下層出土遺物2 (1/4)

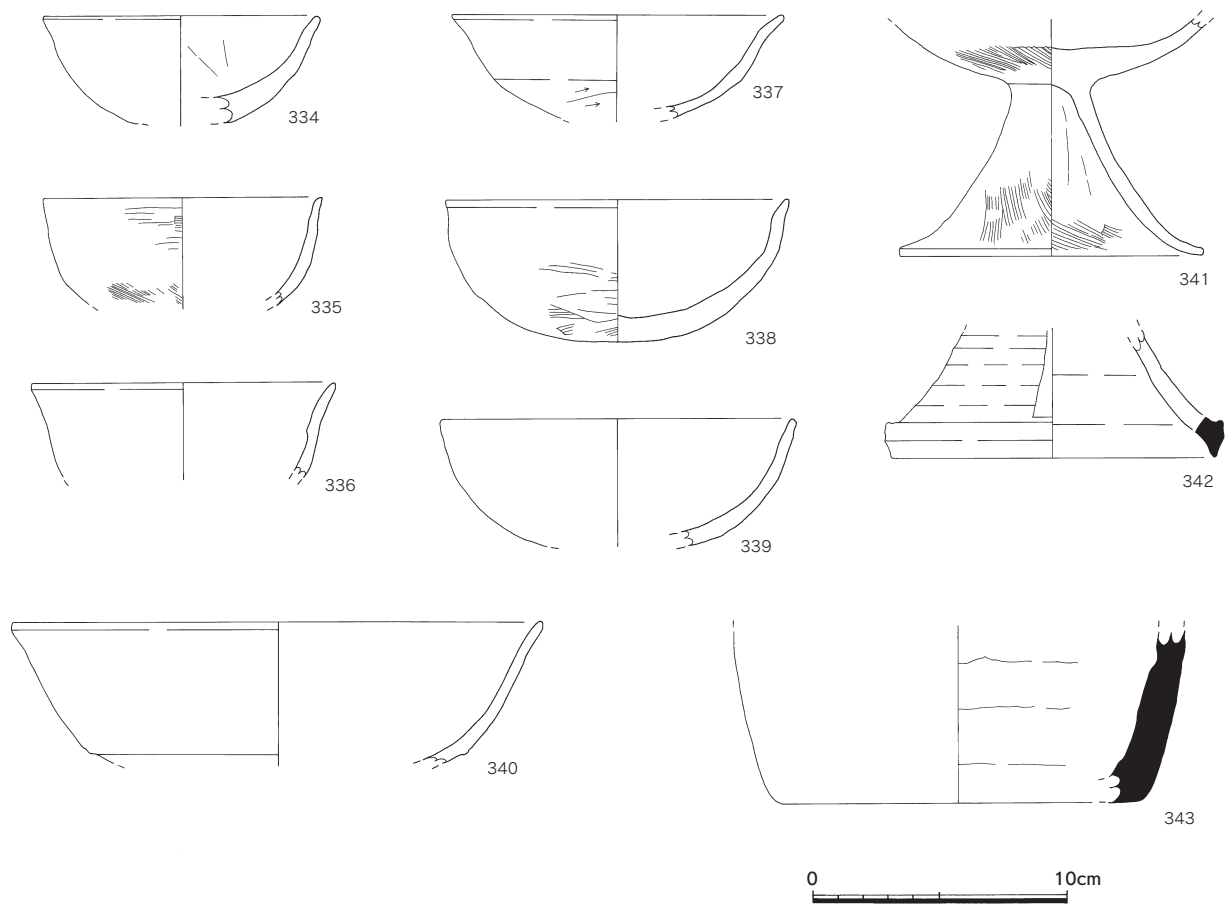


図58 3区包含層出土遺物 (1/3)

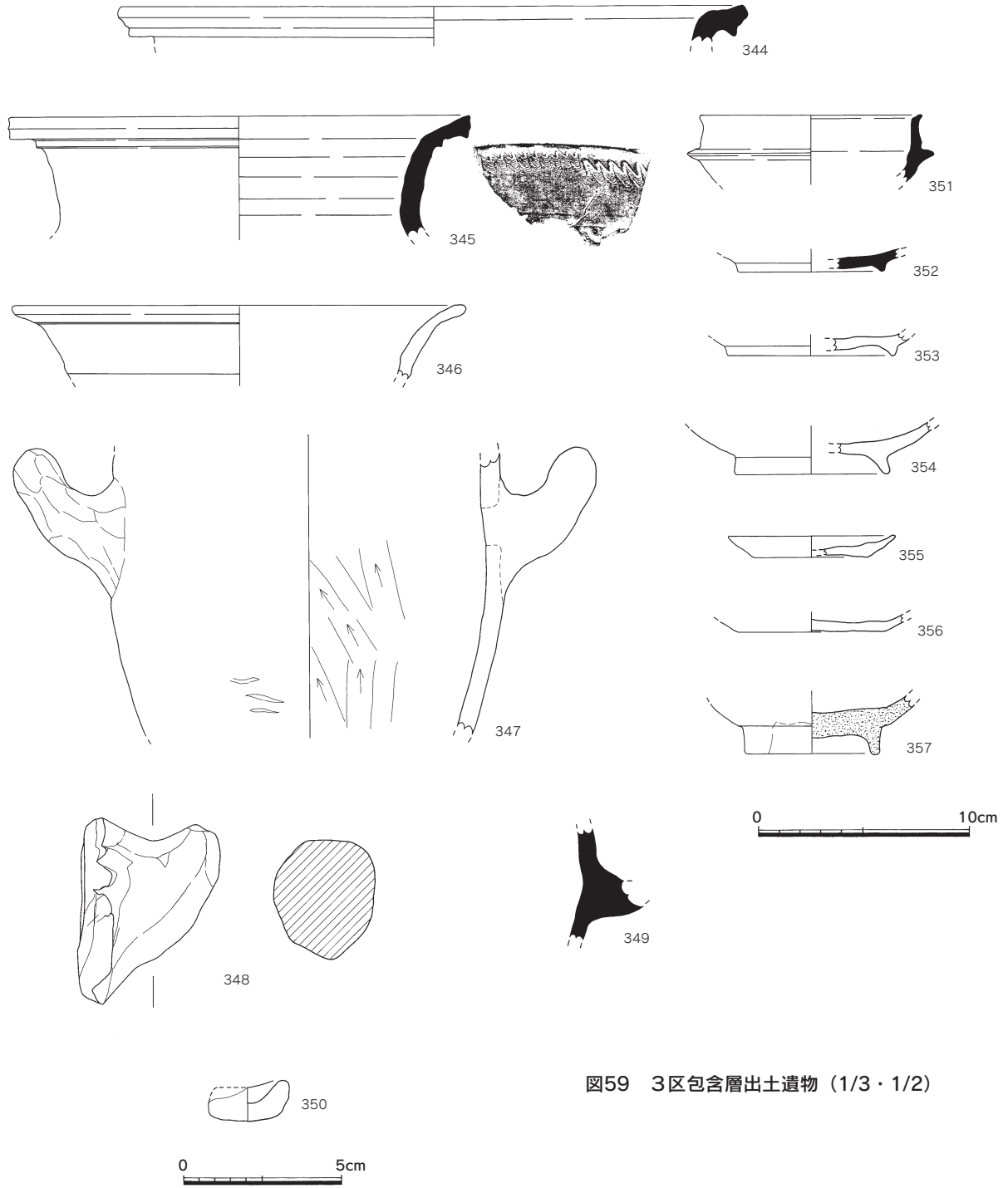


图59 3区包含層出土遺物 (1/3 · 1/2)

藪原遺跡3区遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図47-141	SH301	土師器	甌	①(36.0) ②(6.0)	口縁部一部残存	橙		040276
図47-142	SH301	土師器	甌	①(39.0) ②(5.6)	口縁部一部残存	橙		040260
図47-143	SH301	土師器	甌	②(15.3)	把手部分残存	橙		040275
図47-144	SH301	土師器	甌	縦幅(2.5) 横幅(4.6) 厚(2.0)	把手一部欠損	橙	把手	040267
図47-145	SH301	須恵器	坏蓋	①(14.3) ②(3.6)	口縁部1/8残存	灰白		040266
図47-146	SH301	土師器	坏身	①(12.5) ②(3.9)	受部～体部一部残存	灰		040268
図47-147	SH301	須恵器	坏蓋	①(11.3) ②3.3	口縁部～上部1/5残存	灰		040265
図47-148	SH301	石器	紡錘車	縦幅4.8 横幅4.3 厚1.2	一部欠損	暗緑灰		040261
図48-149	SH302	土師器	碗	①(16.4) ②(2.4)	口縁部一部残存	橙(にぶい褐)		040272
図48-150	SH302	土師器	壺	②(6.6) ③3.5	底部～胴下部1/5残存	にぶい黄橙 (にぶい褐)		040271
図48-151	SH302	ミニチュア土器	支脚	縦幅2.7 横幅2.7	ほぼ完形	にぶい橙		040274
図49-152	SD301	土師器	甕	①(15.8) ②(3.9)	口縁部1/4残存	橙		040032
図49-153	SD301	土師器	壺	①(17.8) ②(6.6)	口縁部一部残存	暗灰(灰)		040020
図49-154	SD301	土師器	壺	①(16.4) ②(5.1)	口縁部一部残存	橙		040101
図49-155	SD301	土師器	甕	①(17.0) ②(7.6)	口縁部～胴部一部残存	赤褐(明赤褐)		040018
図49-156	SD301	土師器	甕	①(17.0) ②(5.3)	口縁部1/8、頸部1/4残存	橙		040023
図49-157	SD301	土師器	壺	①14.0 ②(10.2)	口縁部1/2、胴部2/3残存	橙(黒)	内面：粘土痕	040001
図49-158	SD301	土師器	壺	②(9.1) ③9.0	底部～胴下部2/3残存	橙(にぶい橙)		040093
図49-159	SD301	土師器	甌	-	把手残存	にぶい黄橙	把手	040143
図49-160	SD301	土師器	甌	-	把手残存	明橙	把手	040081
図49-161	SD301	土師器	小型壺	②(5.2) ③3.9	底部から胴部一部残存	にぶい黄橙、底 部は黒褐		040015
図49-162	SD301	須恵器	甕	②(4.5)	胴上部一部残存	青灰		040127
図49-163	SD301	土師器	碗	①(12.6) ②(3.8)	口縁部～胴部一部残存	橙		040038
図49-164	SD301	土師器	碗	①(14.0) ②(5.3)	全体の1/4残存	橙		040089
図49-165	SD301	土師器	高坏	①(12.4) ②(2.5)	口縁部一部残存	橙		040104
図49-166	SD301	土師器	鉢	①(10.4) ②(3.5)	口縁部～胴部一部残存	黄橙		040118
図49-167	SD301	土師器	鉢	①(11.8) ②(2.4)	口縁部一部残存	橙		040108
図49-168	SD301	土師器	碗	①(13.0) ②(4.3)	口縁部～胴部一部残存	浅黄橙		040037
図49-169	SD301	土師器	碗	①(14.5) ②(4.1)	口縁部～胴部一部残存	浅黄橙		040035
図49-170	SD301	須恵器	甕	①(10.0)	口縁部周辺一部残存	灰		040014
図50-171	SD301	土師器	鉢	①(15.7) ②(3.8)	口縁部～胴上部一部残存	橙		040034
図50-172	SD301	土師器	高坏	①(19.0) ②(5.5)	口縁部～坏部1/5残存	明橙		040088
図50-173	SD301	土師器	鉢	①(17.6) ②(2.2)	口縁部一部残存	明赤褐		040112
図50-174	SD301	須恵器	坏蓋	①(13.0) ②(3.9)	口縁部1/4残存	灰		040009
図50-175	SD301	須恵器	坏蓋	①(15.0) ②(2.8)	口縁部～受部一部残存	灰		040013

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図50-176	SD301	須恵器	坏蓋	①13.0 ②4.3	1/2残存	灰	ヘラ記号	040008
図50-177	SD301	須恵器	坏蓋	①(13.0) ②(2.5)	口縁から受部一部残存	灰		040012
図50-178	SD301	土師器	坏蓋	①(14.0) ②(3.7)	口縁部1/5残存	橙		040030
図50-179	SD301	土師器	坏蓋	①(14.8) ②(2.5)	口縁部一部残存	橙		040064
図50-180	SD301	須恵器	坏身	①(12.0) ②(4.8)	口縁部～受部1/9残存	灰		040010
図50-181	SD301	須恵器	坏身	①(11.0) ②(2.2)	口縁部周辺一部残存	灰		040255
図50-182	SD301	須恵器	坏身	①11.6 ②3.6	一部欠損	灰	ヘラ記号	040007
図50-183	SD301	須恵器	坏身	①(12.2) ②(2.0)	口縁部受部一部残存	灰		040011
図50-184	SD301	須恵器	坏	②(1.4) 高台径(8.8)	高台～底部にかけ一部残存	黒褐	黒焼須恵器	040126
図50-185	SD301	土師器	坏	②(1.4) 高台径(5.6)	高台～底部にかけ一部残存	灰白		040120
図50-186	SD301	土師器	坏	②(1.7) 高台径(8.4)	高台～底部にかけ一部残存	橙		040125
図50-187	SD301	土師器	坏	②(2.2) 高台径(7.0)	高台～底部にかけ一部残存	浅黄橙		040119
図50-188	SD301	土師器	坏	②(2.0) 高台径(6.0)	高台～底部にかけ一部残存	にぶい橙		040123
図50-189	SD301	土師器	坏	②(2.0) 高台径(7.0)	高台～底部にかけ一部残存	にぶい橙		040121
図50-190	SD301	土師器	坏	②(2.5) 高台径(6.6)	高台～底部にかけ一部残存	浅黄橙		040122
図50-191	SD301	ミニチュア土器	ミニチュア土器	②(3.3) ③2.3	口縁部、胴部1/4欠損	橙		040067
図50-192	SD301	土師器	紡錘車	縦幅4.6 横幅2.0 厚2.0	完形			040124
図50-193	SD301	石器	紡錘車	縦幅3.8 横幅4.7 厚0.8	一部欠損			040128
図51-194	SD301	弥生土器	甕	①(13.7) ②(6.9)	口縁部～胴上部一部残存	浅黄橙		040025
図51-195	SD301	弥生土器	甕	①(14.2) ②(3.5)	口縁部一部残存	にぶい黄橙		040134
図51-196	SD301	弥生土器	甕	①(16.2) ②(5.3)	口縁部一部、頸部1/4残存	浅黄橙		040024
図51-197	SD301	弥生土器	甕	①(17.8) ②(10.0)	口縁部～胴上部一部残存	浅黄橙	内面：粘土痕 外面：煤付着	040130
図51-198	SD301	弥生土器	甕	①(16.8) ②(4.9)	口縁部～胴上部1/4残存	橙(橙、黒褐)	外面：丹残る	040086
図51-199	SD301	弥生土器	甕	①(18.8) ②(3.3)	口縁部～頸部一部残存	にぶい橙		040053
図51-200	SD301	弥生土器	甕	①(17.8) ②(4.8)	口縁部～頸部一部残存	明褐灰		040050
図51-201	SD301	弥生土器	甕	①15.0 ②(13.0)	口縁部2/3、胴部1/2残存	にぶい橙		040095
図51-202	SD301	弥生土器	甕	①(14.8) ②(3.7)	口縁部一部残存	橙(にぶい褐)		040098
図51-203	SD301	弥生土器	甕	①(22.6) ②(2.0)	口縁部一部残存	浅黄橙		040105
図51-204	SD301	弥生土器	甕	②(4.2)	口縁部一部残存	にぶい橙		040107
図51-205	SD301	弥生土器	甕	②(4.5)	胴部一部残存	にぶい黄橙 (にぶい黄橙)		040141
図51-206	SD301	弥生土器	台付壺	②(7.5) 裾部径9.4	脚部、坏底部残存	橙		040068
図51-207	SD301	弥生土器	甕	①(28.8) ②(3.3)	口縁部一部残存	橙		040099
図51-208	SD301	弥生土器	甕	②(20.0)	底部～胴中央部1/2残存	にぶい黄橙		040096
図51-209	SD301	弥生土器	甕	②(6.3) ③(5.6)	底部周辺残存	明赤褐(暗褐)		040017
図51-210	SD301	弥生土器	甕	①(9.0) ②(5.1)	口縁部～胴上部一部残存	橙		040029

第4章 調査の内容

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量		残存状況	色調		備考	登録番号
				①口径②器高③底径	()は内面					
図51-211	SD301	弥生土器	壺	①(11.6) ②(11.6)		口縁部～胴部3/4残存	浅黄橙			040091
図51-212	SD301	弥生土器	壺	①(13.0) ②(11.5)		口縁部1/8、口縁部～胴中央部1/4残存	浅黄橙(灰黄褐)			040022
図51-213	SD301	弥生土器	甕	①(10.8) ②(5.5)		口縁部～胴上部一部残存	灰褐(橙)			040033
図51-214	SD301	弥生土器	壺	①(9.2) ②(8.9)		口縁部～胴中央一部残存	にぶい橙 (にぶい黄橙)			040016
図51-215	SD301	弥生土器	壺	①(14.6) ②(6.2)		口縁部～胴部1/6残存	にぶい橙			040052
図51-216	SD301	弥生土器	甕	①(13.4) ②(5.9)		口縁部～胴上部1/4残存	にぶい橙	外面：黒塗り		040087
図51-217	SD301	弥生土器	壺	①(10.4) ②(4.8)		口縁部一部残存	浅黄橙			040027
図52-218	SD301	弥生土器	壺	①(7.7) ②(4.4)		口縁部～胴上部一部残存	橙			040031
図52-219	SD301	弥生土器	壺	①(13.2) ②(8.3)		口縁部～胴部1/4残存	にぶい橙			040049
図52-220	SD301	弥生土器	壺	①(12.4) ②(9.6)		口縁部～胴部1/8残存	明橙			040090
図52-221	SD301	弥生土器	壺	①16.6 ②(6.1)		口縁部3/4残存	橙			040002
図52-222	SD301	弥生土器	壺	①(16.4) ②(4.5)		口縁部一部残存	橙			040133
図52-223	SD301	弥生土器	壺	①(17.2) ②(2.8)		口縁部一部残存	明赤褐			040109
図52-224	SD301	弥生土器	壺	①(18.1) ②(5.2)		口縁部一部残存	浅黄橙			040041
図52-225	SD301	弥生土器	壺	②(2.7) ③(6.6)		底部1/2残存	黒褐(浅黄橙)			040070
図52-226	SD301	弥生土器	壺	②(6.1) ③3.7		胴下部1/2残存	浅黄橙 (にぶい黄橙)			040003
図52-227	SD301	弥生土器	壺	②(12.8) ③3.5		口縁部欠損	橙			040006
図52-228	SD301	弥生土器	壺	②(11.3) ③4.0		口縁部欠損	橙	外面：煤付着		040138
図52-229	SD301	弥生土器	壺	①(27.0) ②(8.1)		口縁部1/5残存	浅黄橙	二重口縁壺		040085
図52-230	SD301	弥生土器	高坏	②(4.9)		坏底部、脚台部残存	灰白	穿孔有		040065
図52-231	SD301	弥生土器	器台	②(4.8)		坏底部～脚台部残存	浅黄橙			040084
図52-232	SD301	弥生土器	器台	②(2.8) 裾部径(13.5)		裾部一部残存	灰黄橙(浅黄橙)	外面：黒塗有		040042
図52-233	SD301	弥生土器	器台	②(4.0) 裾部径(17.2)		脚裾部一部残存	明褐灰			040061
図52-234	SD301	弥生土器	支脚	②(9.8) 受部径(7.8)		受部から脚体部にかけて1/4残存	にぶい橙			040139
図52-235	SD301	弥生土器	支脚	②(11.3) 受部径(8.6) 裾部径(15.0)		脚裾部1/8、胴部1/2、受部1/2残存	にぶい橙			040074
図52-236	SD301	弥生土器	支脚	②(4.7)		受部残存	にぶい橙			040136
図52-237	SD301	弥生土器	器台	②(5.0)		脚台部残存	にぶい橙	穿孔		040083
図52-238	SD301	弥生土器		②(3.6)		胴部一部残存	浅黄橙(灰白)			040047
図52-239	SD301	弥生土器	蓋	②(2.5)		頭上部残存	浅黄橙			040066
図52-240	SD301	弥生土器	鉢	①(15.0) ②(6.0)		口縁部～胴上部一部残存	にぶい橙			040036
図52-241	SD301	弥生土器	甕	①(18.0) ②(3.5)		口縁部一部残存	橙			040100
図52-242	SD301	弥生土器	鉢	①(23.0) ②(2.9)		口縁部一部残存	橙			040043
図52-243	SD301	弥生土器	坏	①(7.8) ②(2.2)		口縁部～底部1/6残存	橙			040102
図52-244	SD301	弥生土器	坏	①(9.2) ②(2.0)		口縁部～胴部一部残存	橙			040111
図52-245	SD301	弥生土器	坏	①(10.4) ②(3.2)		口縁部胴部一部残存	橙			040132

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図52-246	SD301	弥生土器	坏	①(12.1) ②(3.7)	口縁部胴部一部残存	橙(褐灰)		040044
図52-247	SD301	弥生土器	坏	①(10.0) ②4.2	全体の1/2残存	暗褐		040092
図52-248	SD301	弥生土器	坏	①(13.6) ②(3.6)	口縁部～胴部一部残存	浅黄橙		040059
図53-249	SD301	弥生土器	高坏	①(22.6) ②(2.1)	口縁部一部残存	浅黄橙	内面：暗文有	040077
図53-250	SD301	弥生土器	高坏	①(24.6) ②(3.1)	口縁部一部残存	にぶい橙	内面：暗文有	040062
図53-251	SD301	弥生土器	高坏	①(26.0) ②(3.0)	口縁部一部残存	橙	内外面：暗文有	040048
図53-252	SD301	弥生土器	高坏	①(26.8) ②(2.6)	口縁部一部残存	黒褐(橙)	外面：暗文有	040078
図53-253	SD301	弥生土器	高坏	②(12.0)	坏底部から脚台部残存	橙	穿孔有	040080
図53-254	SD301	弥生土器	高坏	②(8.0)	坏底部一部、脚台部残存	明赤褐		040082
図53-255	SD301	弥生土器	器台	②(3.7)	坏底部、脚体上部残存	橙		040097
図53-256	SD301	弥生土器	高坏	②(6.1) 裾部径6.8	坏部1/2残存	浅黄橙(黄橙)		040004
図53-257	SD301	弥生土器	高坏	②(3.5) 裾部径(12.0)	裾部一部残存	橙		040117
図53-258	SD301	弥生土器	高坏	①(23.0) ②15.5 裾部径(14.0)	坏部1/4、坏底部3/4、脚体部、裾部一部残存	橙	内面：黒塗り	040094
図53-259	SD301	弥生土器	高坏	①21.8 ②(13.2)	口縁部1/4、坏部1/2残存	橙		040005
図53-260	SD301	弥生土器	高坏	①(19.0) ②(3.9)	口縁部一部残存	橙		040103
図53-261	SD301	弥生土器	高坏	②(1.8) 裾部径(17.6)	裾部一部残存	浅黄橙		040110
図53-262	SD301	弥生土器	高坏	②(3.8) 裾部径(14.6)	脚裾部一部残存	明橙		040076
図54-263	SD301	弥生土器	甕	①(14.0) ②(5.0)	口縁部～胴上部残存	浅黄橙		040157
図54-264	SD301	弥生土器	甕	①(14.8) ②(6.0)	口縁部～胴上部残存	暗褐		040155
図54-265	SD301	弥生土器	甕	①(12.4) ②(5.1)	口縁部一部残存	にぶい橙		040158
図54-266	SD301	弥生土器	甕	①(23.2) ②(15.7)	口縁部～胴部1/4残存	暗褐(にぶい橙)	外面：煤付着	040148
図54-267	SD301	弥生土器	甕	①(30.0) ②(4.6)	口縁部一部残存	褐(にぶい橙)		040183
図54-268	SD301	弥生土器	壺	①15.6 ②(16.5)	口縁部～胴部3/4残存	橙	外面：煤付着	040152
図54-269	SD301	弥生土器	甕	②(20.2)	胴部一部残存	黒褐(褐灰)		040172
図54-270	SD301	弥生土器	甕	①(16.2) ②(5.2)	口縁部～頸部1/3残存	橙	外面：煤付着	040159
図54-271	SD301	弥生土器	甕	①(24.0) ②(2.3)	口縁部1/4残存	にぶい褐	外面：煤付着	040161
図54-272	SD301	弥生土器	壺	②(5.5) ③(3.4)	底部1/2残存	明褐灰(褐灰)		040169
図54-273	SD301	弥生土器	壺	②(6.6) ③4.5	底部残存	明橙(褐灰)		040166
図54-274	SD301	弥生土器	壺	①(10.6) ②(5.8)	口縁部～胴部1/6残存	淡橙		040147
図54-275	SD301	弥生土器	壺	①(12.6) ②(4.3)	口縁部～頸部一部残存	にぶい橙		040182
図54-276	SD301	弥生土器	壺	②(3.9) 受部径(10.6)	口縁部一部残存	にぶい橙		040174
図54-277	SD301	弥生土器	壺	①(13.2) ②(6.0)	口縁部～頸部にかけ残存	明橙		040151
図54-278	SD301	弥生土器	器台	②(4.7) 受部径(16.6)	口縁部一部残存	浅黄橙		040173
図54-279	SD301	弥生土器	壺	②(11.2)	胴部一部残存	にぶい橙	外面：櫛描文様	040171
図54-280	SD301	弥生土器	甕	①10.4 ②19.3 ③5.0	完形	浅黄橙(褐灰)	内面：竹管文	040144

第4章 調査の内容

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図55-281	SD301	弥生土器	坏	①(14.6) ②4.3	1/3残存	にぶい橙		040145
図55-282	SD301	弥生土器	坏	①(15.0) ②6.4	口縁部～底部一部残存	赤橙		040164
図55-283	SD301	弥生土器	鉢	①(21.2) ②<4.5>	口縁部一部残存	浅黄橙		040177
図55-284	SD301	弥生土器	鉢	②<3.7>	口縁部一部残存	にぶい褐		040192
図55-285	SD301	弥生土器	鉢	①(23.6) ②<5.8>	口縁部一部残存	浅黄橙		040176
図55-286	SD301	弥生土器	鉢	①(22.2) ②<5.5>	口縁部～胴上部一部残存	橙		040165
図55-287	SD301	弥生土器	鉢	①(23.0) ②<4.3>	口縁部一部残存	にぶい橙		040193
図55-288	SD301	弥生土器	鉢	①(26.8) ②<5.9>	口縁部一部残存	にぶい橙		040186
図55-289	SD301	弥生土器	鉢	①(27.8) ②<5.0>	口縁部一部残存	にぶい黄橙		040187
図55-290	SD301	弥生土器	高坏	②<6.3> 裾部径13.8	脚部2/5残存	にぶい橙	穿孔有	040146
図55-291	SD301	弥生土器	高坏	②<2.9> 裾部径(13.2)	裾部一部残存	浅黄橙		040189
図55-292	SD301	弥生土器	高坏	②<5.0> 裾部径(17.2)	裾部一部残存	橙		040181
図55-293	SD301	弥生土器	支脚	①(10.8) ②<2.9>	口縁部一部残存	橙		040185
図55-294	SD301	弥生土器	支脚	①(18.0) ②<3.4>	口縁部1/5残存	浅黄橙		040149
図55-295	SD301	弥生土器	器台	②<6.5> 裾部径(12.4)	裾部～脚台部一部残存	にぶい橙		040188
図55-296	SD301	石器	砥石	残存長4.5 厚4.0	—		焼痕有	040251
図55-297	SD301	石器	石剣?	残存長5.7 厚0.8	—	褐灰		040194
図56-298	SD301	弥生土器	甕	①(12.4) ②<5.7>	口縁部周辺一部残存	浅黄橙	外面：煤付着	040212
図56-299	SD301	弥生土器	甕	①(14.0) ②<4.3>	口縁部一部残存	浅黄橙		040235
図56-300	SD301	弥生土器	甕	①(13.8) ②11.3	口縁部一部、胴部1/6、底部残存	にぶい橙		040245
図56-301	SD301	弥生土器	甕	①(16.6) ②<6.2>	口縁部一部残存	浅黄橙	外面：煤付着	040234
図56-302	SD301	弥生土器	甕	①(17.0) ②<3.0>	口縁部一部残存	にぶい橙		040217
図56-303	SD301	弥生土器	甕	①(16.4) ②<6.4>	口縁部周辺一部残存	橙		040209
図56-304	SD301	弥生土器	甕	①(17.0) ②<2.7>	口縁部周辺一部残存	明褐灰	外面：煤付着	040232
図56-305	SD301	弥生土器	甕	①(18.0) ②<3.1>	口縁部一部残存	褐灰(明褐灰)		040233
図56-306	SD301	弥生土器	壺	②3.7 ③5.5	底部残存	橙		040250
図56-307	SD301	弥生土器	甕	①(27.2) ②<10.8>	口縁部～胴上部一部残存	にぶい橙	外面：刺突痕有	040240
図56-308	SD301	弥生土器	甕	①(27.6) ②<7.4>	口縁部一部残存	橙	粘土痕有	040238
図56-309	SD301	弥生土器	壺	①(25.2) ②<12.4>	口縁から胴部にかげ1/5残存	にぶい橙 (浅黄橙)		040243
図56-310	SD301	弥生土器	甕	①(43.6) ②<6.7>	口縁部一部残存	にぶい黄橙		040239
図56-311	SD301	弥生土器	甕	①(44.6) ②<4.8>	口縁部一部残存	にぶい橙		040207
図56-312	SD301	弥生土器	壺	①(25.2) ②<3.7>	口縁周辺一部残存	にぶい橙		040216
図56-313	SD301	弥生土器	壺	①(20.4) ②<5.8>	口縁部一部残存	橙	三角凸帯有	040237
図56-314	SD301	弥生土器	高坏	①(21.6) ②<4.7>	口縁部～坏部一部残存	橙		040214
図56-315	SD301	弥生土器	高坏	②<11.3> 裾部径(14.0)	坏底部、脚台部2/3、裾部1/8残存	浅黄橙		040242

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量		残存状況	色調		備考	登録番号
				①口径②器高③底径			()は内面			
図56-316	SD301	弥生土器	器台	②(12.5) 受部径(5.0) 裾部径(12.0)		受部～脚部1/6残存	浅黄橙(褐灰)			040226
図56-317	SD301	弥生土器	器台	②(3.0) 裾部径(13.4)		脚部一部残存	橙			040227
図56-318	SD301	弥生土器	器台	②(7.2) ③(10.6)		底部～体部一部残存	にぶい橙			040249
図56-319	SD301	弥生土器	壺	②(4.7)		肩部一部残存	にぶい橙	外面：櫛描文様		040230
図56-320	SD301	弥生土器	高坏	①(13.0) ②(3.5)		口縁部～坏底部付近一部残存	橙			040231
図56-321	SD301	弥生土器	坏	①(14.0) ②(4.5)		口縁部～胴部一部残存	にぶい橙			040219
図56-322	SD301	弥生土器	甕	①(10.4) ②(7.0)		口縁部～体部1/6残存	にぶい橙	外面：煤付着		040246
図56-323	SD301	弥生土器	器台	①(26.2) ②(6.0)		口縁部一部残存	浅黄橙	線刻文様		030717
図57-324	包含層	弥生土器	甕	①(25.0) ②(5.2)		口縁部～周辺一部残存	にぶい褐 (にぶい橙)	外面：煤付着		040286
図57-325	包含層	弥生土器	甕	①(30.0) ②(6.2)		口縁周辺1/4残存	にぶい橙			040303
図57-326	包含層	弥生土器	壺	①(18.0) ②(6.9)		口縁から頸部にかけて1/5残存	黒褐 (にぶい黄橙)	外面：黒塗り		040277
図57-327	包含層	弥生土器	壺	①(14.2) ②(7.3)		口縁一部から胴上部1/3残存	橙	内面：粘土痕		040278
図57-328	包含層	弥生土器	甕	①(11.0) ②(3.9)		口縁周辺一部残存	にぶい橙			040287
図57-329	包含層	弥生土器	壺	①(13.0) ②(4.0)		口縁部一部残存	にぶい橙			040282
図57-330	包含層	弥生土器	甕	①(12.4) ②(7.5)		口縁部～胴部1/4残存	暗褐			040306
図57-331	包含層	弥生土器	鉢	①(27.0) ②(6.9)		口縁部～胴部付近一部残存	橙			040305
図57-332	包含層	弥生土器	鉢	②(3.8)		一部残存	淡橙	外面：線刻文様		040295
図57-333	包含層	弥生土器	高坏	①(37.0) ②(6.5)		口縁部～坏底部付近一部残存	にぶい橙	内面：暗文		040304
図58-334	包含層	土師器	碗	①(10.8) ②(4.2)		口縁部～底部付近一部残存	にぶい赤橙			040290
図58-335	包含層	土師器	碗	①(11.0) ②(4.2)		口縁部～底部付近一部残存	明橙			040289
図58-336	包含層	土師器	碗	①(12.0) ②(3.7)		口縁部周辺一部残存	橙			040291
図58-337	包含層	土師器	高坏	①(13.0) ②(4.0)		口縁部～胴部1/5残存	橙			040281
図58-338	包含層	土師器	碗	①(13.6) ②5.5		口縁部3/4欠損	赤			040308
図58-339	包含層	土師器	碗	①(14.0) ②(5.0)		口縁部～底部付近一部残存	橙			040283
図58-340	包含層	土師器	高坏	①(21.0) ②(5.5)		口縁部一部残存	明橙			040280
図58-341	包含層	土師器	高坏	②(9.3) 裾部径(12.0)		脚部1/5、坏底部1/2残存	橙			040292
図58-342	包含層	須恵器	高坏	②(5.0) 裾部径(12.8)		脚部1/4残存	灰			040311
図58-343	包含層	須恵器	壺	②(6.7) ③(14.4)		底部1/5残存	灰	外面：擬格子タタキ		040309
図59-344	包含層	須恵器	壺	①(30.0) ②(1.5)		口縁部一部残存	灰			040312
図59-345	包含層	須恵器	壺	①(22.0) ②(5.7)		口縁周辺一部残存	灰	外面：櫛描文様		040310
図59-346	包含層	土師器	壺	①(21.6) ②(3.5)		口縁部周辺一部残存	橙			040285
図59-347	包含層	土師器	甕	②(13.3)		把手部、胴部一部残存	橙			040279
図59-348	包含層	土師器	甕			把手残存	橙	把手		040294
図59-349	包含層	須恵器	—	②(5.3)		把手部付近残存	灰	把手		040314
図59-350	包含層	ミニチュア土器	ミニチュア土器	②1.1		口縁部1/2欠損	橙			040302

第4章 調査の内容

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図59-351	包含層	須恵器	坏身	①(10.6) ②(3.2)	口縁部～胴部一部残存	灰		040313
図59-352	包含層	須恵器	坏	②(1.0) 高台径(7.0)	高台付底部1/3残存	黄灰		040296
図59-353	包含層	土師器	坏	②(1.0) 高台径(8.0)	高台付底部1/3残存	にぶい橙		040300
図59-354	包含層	土師器	坏	②(2.1) 高台径(7.4)	高台付底部一部残存	にぶい橙(黒)		040297
図59-355	包含層	土師器	皿	①(8.0) ②1.0 ③(5.4)	底部1/4残存	赤橙		040301
図59-356	包含層	土師器	皿	②(0.9) ③(7.0)	底部1/4残存	橙		040257
図59-357	包含層	陶器	碗	②(2.7) 高台径(6.4)	高台部1/4欠損	灰白	緑袖	040256



図60 遺構配置図及び出土遺物(1/200・1/3)

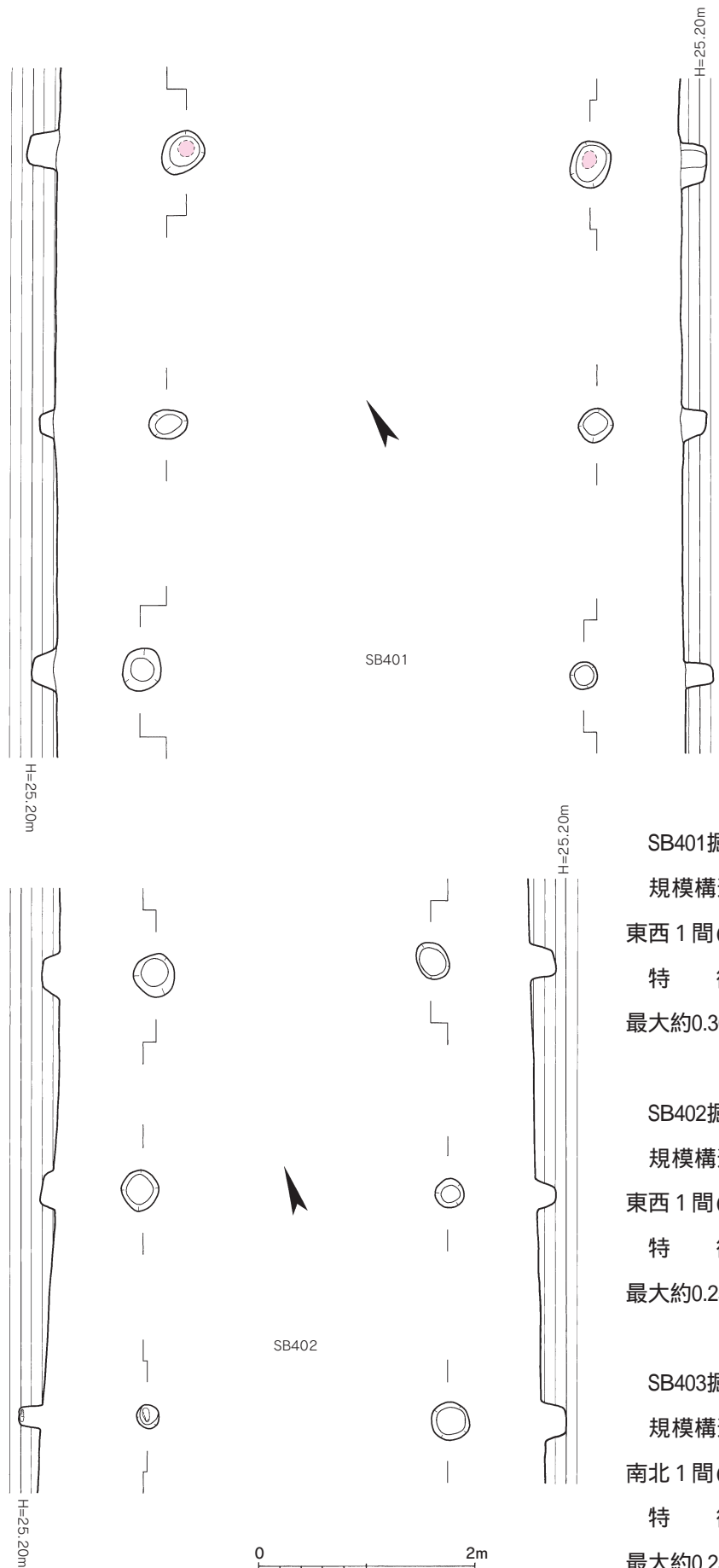
藪原遺跡4区

鳥栖市田代外町字藪原に所在し、丘陵の一段下がった地区に位置する。標高は約25.5mを測る。丘陵南の最も端に立地する。

検出した主な遺構は掘立柱建物1間×2間が3棟である。概ね堀方は円形で柱穴直径約0.15mを測る。出土した遺物から古墳時代後期に属するものと推測される。

遺構面に至るまでに包含層が堆積しており、弥生土器、土師器・須恵器などが見られるが小破片のみの出土である。北側の丘陵からの混入した遺物と思われる。

藪原遺跡1区(4区の北側)からも多くの小穴が検出されており、4区はその続きに位置しており、この地区には掘立柱建物(倉庫群)が立地していたものと推測される。



SB401

SB402

SB401掘立柱建物（図59）

規模構造：南北2間（柱間4.85m）×
東西1間（柱間3.80m）床面積約18.43m²。

特 徴：柱穴掘方は概ね円形。深さ
最大約0.30m、柱穴約0.15mを測る。

SB402掘立柱建物（図59）

規模構造：南北2間（柱間4.15m）×
東西1間（柱間2.65m）床面積約11.00m²。

特 徴：柱穴掘方は概ね円形。深さ
最大約0.25mを測る。

SB403掘立柱建物

規模構造：東西2間（柱間4.50m）×
南北1間（柱間2.25m）床面積約11.00m²。

特 徴：柱穴掘方は概ね円形。深さ
最大約0.25mを測る。

図61 SB401・402掘立柱建物(1/60)

藪原遺跡4区遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復原径、< >は残存径。

図版番号	遺構	種別	器種	法量	残存状況	色調	備考	登録番号
				①口径②器高③底径		()は内面		
図60-358	SX401	土師器	坏	②<1.9> 高台径(9.3)	高台部1/8残存	にぶい橙(褐灰)		040322
図60-359	表採	須恵器	坏	②<3.1> 高台径(9.2)	高台部1/4残存	灰	外面：黒塗り	040320
図60-360	P405	土師器	碗	①(13.3) ②<3.8> ③(5.7)	口縁部から胴部にかけて 1/8、底部1/5残存	にぶい橙	内面：口縁部にスミ有	040316
図60-361	SX401	土師器	皿	②<1.7> ③(6.5)	底部付近1/4残存	にぶい橙		040321
図60-362	SX401	土師器	皿	①(13.3) ②<2.1> ③(7.8)	口縁部から底部にかけて 1/4残存	浅黄橙		040323
図60-363	包含層	須恵器	皿	①(12.6) ②<1.2>	口縁部から底部一部残存	にぶい赤褐(灰)		040319

第5章 まとめ

天神木遺跡

大木川右岸に立地し、住居・土坑を中心に出土しており、6世紀末～7世紀初頭に展開していた集落である。住居の規模は大規模なものは検出しておらず、5m×5m以下の規模に留まる。壁際に炭・焼土等がみられるが、明確な竈は確認できなかった。遺物はほとんど小破片のみの出土であり、完形品はみられず、量も少ない。小穴は多数検出しているが、掘立柱建物は確認するには至らなかった。

これらのことから推測されることは、まず遺跡の利用期間は長期間使用された形跡はなく、一時期で廃絶した集落である。また天神木遺跡として周知されている地区の最も北に位置しており、その北側については遺構・遺物は検出されておらず、調査区は遺跡の端に立地している。なお今回調査を行った地区南東150m地点では古墳時代の集落が確認されていることから大規模な集落の可能性も有している。

藪原遺跡

大木川左岸に立地しており、弥生時代後期後半・古墳時代後半の2時期の遺構を確認した。かなり削平を受けており、遺構の残りは非常に悪い。

今回調査を行った地区は北西から延びる丘陵の先端に位置している。弥生時代の住居は5軒、古墳時代5軒が検出している。また土坑・溝・掘立柱建物なども確認している。4区出土の掘立柱建物は、丘陵より一段下がっており（1区を含む）小穴が多数出土していることから倉庫群の存在が予想される。

今回の調査の結果から北西部の丘陵上（現：工場）には、大規模な遺跡群が展開している可能性が非常に高い。またその流れは中川原遺跡（古墳時代の集落跡）にまで及ぶものと思われる。（図2参照）

藪原遺跡出土の弧文帯文様をもつ土器

表裏面は磨かれており、表面には文様が明確に刻まれ、裏面には2本の暗文が確認できる。甕の口縁部なのか器台の裾部なのかは不明であるが、鳥栖地区では初例である。なお瀬戸内系の土器の可能性もあり、当地と瀬戸内の交流を示す一つの手がかりとなるものである。

さいごに

2つの遺跡は互いに大木川対岸に立地している。この川は古代には基肄郡・養父郡の境となった川である。周辺地区には弥生・古墳時代の集落である加藤田遺跡・中川原遺跡が展開しており、鳥栖北部丘陵地区（通称：柚比遺跡群）から平地に移動した人々が生活を営んでいた土地と推測される。

写真図版



1. 天神木遺跡 1区全景 (西から)



2. 天神木遺跡 1区全景 (西から)



3. 1-A区 全景 (西から)



4. 1-B区 全景 (南から)

天神木遺跡 1区



1. 1-B区 (西から)



2. 1-B区 (北から)



3. SH106・108・109 住居 (南から)



4. SH110・117 住居 (東から)



5. SH119 住居 (東から)



6. SK120 土坑 (南から)



7. SH106 住居出土土器



8. SK120 土坑出土土器



1. 藪原遺跡2区南部分（北から）



4. SH202 住居（東から）



2. 藪原遺跡2区北部分（南から）



5. SH203 住居（東から）



3. SH201 住居（南から）



6. SH206 住居（西から）

藪原遺跡2区



7. SH207・208 住居（南から）



1. SH201 住居出土土器



2. SH201 住居出土土器



3. SH201 住居出土土器



4. SH204 住居出土鉄器



5. SH202 住居出土土器



6. SK201 土坑出土土器



7. SK201 土坑出土土器



8. 小穴出土土器



1. 藪原遺跡3区 全景



4. SD301 溝 (南から)



2. SD301 溝 (西から)



5. SD301 溝土層 (北から)



3. SD301 溝 (北から)



6. SH301 住居 (南から)

藪原遺跡3区



7. SB301 掘立柱建物 (西から)



1. SH301 住居出土土器



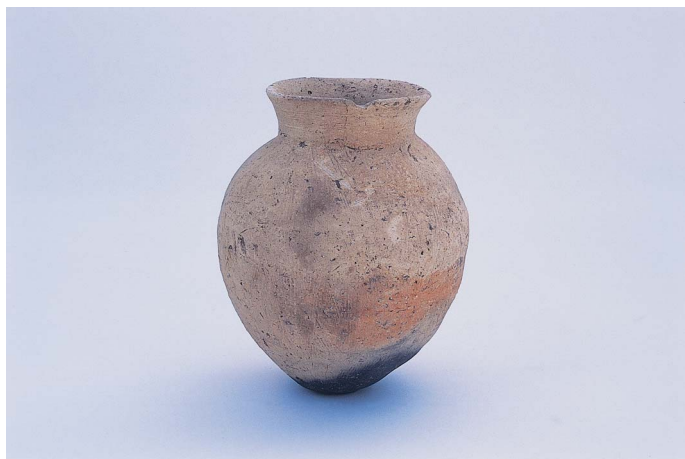
2. SD301 溝出土土器



3. SD301 溝出土土器



4. SD301 溝出土土器



5. SD301 溝出土土器



6. SD301 溝出土土器



7. SH301 住居・SD301 溝出土石器



8. ミニチュア土器



1. 藪原遺跡4区全景（東から）



2. 藪原遺跡4区全景（西から）



3. SB401 掘立柱建物（南から）



4. SB402 掘立柱建物（南から）



5. 藪原遺跡1区全景（西から）



6. 1区出土土器



7. 1区出土ミニチュア土器

藪原遺跡4区

藪原遺跡1区

報 告 書 抄 録

ふりがな	てんじんきいせき やぶはらいせき
書名	天神木遺跡 藪原遺跡
副書名	市道田代駅古賀線工事関係埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書
シリーズ番号	第74集
編著者名	島 孝寿
編集機関	鳥栖市教育委員会
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118 0942 (85) 3695
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' ”	東経 ° ' ”	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てんじんきいせき 天神木遺跡 1区	さがけんとうすし 佐賀県鳥栖市 やりたまちあざだいぎ 鎗田町字大木	410213	-	33°	130°	20030513	600m ²	市道改築 工事
22°				30°	~			
53°				53°	20030711			
やぶはらいせき 藪原遺跡 2区				33°	130°	19941001	500m ²	
22°	31°	~						
55°	05°	19941130						
やぶはらいせき 藪原遺跡 3区	さがけんとうすし 佐賀県鳥栖市 たしろほかあざやぶ 田代外字藪原	410213	-	33°	130°	20040120	400m ²	市道改築 工事
22°				31°	~			
54°				03°	20040214			
やぶはらいせき 藪原遺跡 4区				33°	130°	20040121	250m ²	
22°	31°	~						
54°	00°	20040214						

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天神木遺跡 1区	集落	古墳	住居 土坑	須恵器 土師器	7世紀初頭の集落
藪原遺跡 2区	集落	弥生・古墳	住居 土坑 溝	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器	弥生時代後期終末の集落 6世紀後半の集落 弧文帯文様を施した土器片
藪原遺跡 3区	集落	弥生・古墳	住居 溝 掘立柱建物	弥生土器 須恵器 土師器 鉄器	弥生時代後期終末の集落 6世紀後半の集落 弧文帯文様を施した土器片
藪原遺跡 4区	集落	古墳	掘立柱建物	須恵器 土師器	古墳時代後期の掘立柱建物

鳥栖市文化財調査報告書第74集

天神木遺跡 藪原遺跡

- 市道田代駅古賀線工事

関係埋蔵文化財調査報告書 -

平成17年 3月31日 発行

編集 鳥栖市教育委員会

発行 佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印刷 株式会社 三光

佐賀県伊万里市大坪町乙4161 - 1